

元総社蒼海遺跡群 (122)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2017.
3

2017. 3

前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群（122）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



2017. 3

前橋市教育委員会



1 1区調査区全景（南から）

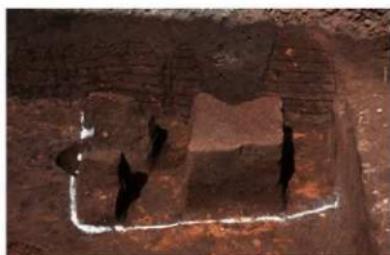


2 2区調査区全景（北から）

図絵 2



3 3区調査区全景（東から）



4 3区総地業建物跡版築状況（東から）



5 3区総地業建物跡版築状況（南から）



6 3区総地業建物跡掘り方（東から）



7 3区総地業建物跡掘り方（南から）



8 8区蒼海城土壁全景（西から）

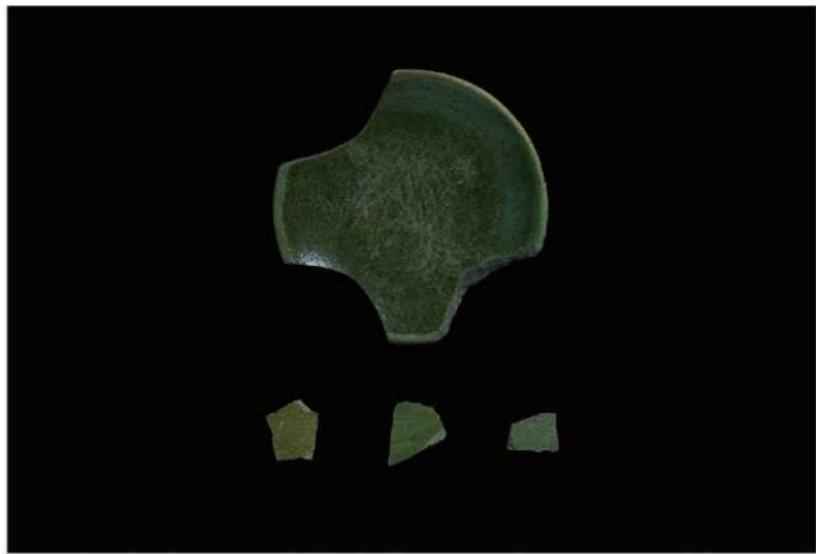


9 1区H—9号住居跡出土馬具（轡）

口絵 4



10 9区H—1号住居跡出土遺物



11 元総社蒼海遺跡群（122）出土綠釉陶器

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国を中心として栄えました。また、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王廃寺、国府、国分僧寺、国分尼寺など上野国の中核をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎮をけざった地として知られ、近世においては、諸代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元總社蒼海遺跡群（122）は古代上野国の中核地域の調査であります。上野国府推定地域に近接することから、調査成果に多くの注目を集めています。今回の調査では、国府施設そのものに迫る遺構の検出には至りませんでしたが、国府に関連すると考えられる建物跡や古墳～平安時代の竪穴住居跡を中心とする集落跡、蒼海城関連遺構などが検出されました。

今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができます。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面的ご配慮の結果といえます。また、極暑の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成29年3月

前橋市教育委員会

教育長 佐藤博之

例　　言

1. 本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（122）発掘調査報告書である。

2. 調査主体は、前橋市教育委員会である。

3. 発掘調査の要項は次のとおりである。

遺　跡　名　称	元総社蒼海遺跡群（122）
調　査　場　所	群馬県前橋市元総社町1348-8 ほか
遺　跡　コ　ード	28A227
発　掘　調　査　期　間	平成28年6月6日～平成28年12月22日
整理・報告書作成期間	平成29年1月10日～平成29年3月17日
発　掘　・　整　理　担　当　者	神宮　聰・高山　剛（埋蔵文化財係）
	調査は1・3・4・7・9区を神宮、2・5・6・8区を高山が担当した。

4. 本書の原稿執筆・編集は神宮・高山が行った。

5. 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

神山早苗・神通信幸・高木勝美・竹之内文男・高橋民雄・中澤光江・奈良精一・羽田郁子・平林しのぶ・町田妙子・峰岸あや子・茂木昭弘・山川明男・湯浅たま江・湯浅道子

6. 調査及び報告書作成にあたっては下記の諸機関・諸氏にご指導・ご協力をいただいた。

（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団・神谷佳明・杉山秀宏・間　邦一

7. 発掘調査で出土した遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1. 採図中に使用した北は、座標北である。

2. 採図に国土地理院発行の1:200,000地形図（宇都宮、長野）、1:25,000地形図（前橋）、1:6,000前橋市現形図を使用した。

3. 遺構及び遺構内施設の略称は、次のとおりである。

H…古墳～奈良・平安時代の竪穴住居跡　B…建物跡　T…竪穴状遺構　W…溝・堀跡　A…道路状遺構
D…土坑　DB…土坑墓　P…ピット・柱穴・貯藏穴　I…井戸跡　O…落ち込み

4. 遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。

遺構　全体図…1/200、住居跡・竪穴状遺構・溝・堀跡・土坑・ピット…1/60、1/80、竪断面図…1/30
遺物　土器…1/3、1/4　石器・石製品・土製品…2/3、1/3　鉄器・鉄製品・古銭…2/3　瓦…1/3

5. 計測値については、（　）は現存値、〔　〕は復元値を表す。

6. セクション注記の記号は、縦り・粘性の順で示し、それぞれ以下のように表現する。

◎非常に縦り・粘性あり　○縦り・粘性あり　△縦り・粘性ややあり　×縦り・粘性なし

なお、セクション注記と遺物観察表の色調については『新版 標準土色帳』（農林水産技術会議事務局 財团法人日本色彩研究所監修2006）に拠った。

7. 遺構平面図の-----は推定線を表す。

8. スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構　焼土範囲：■■■■■　粘土範囲：■■■■■　構築面：■■■■■

遺物　須恵器（還元焰）断面：■■■■■　灰釉陶器断面：■■■■■　灰釉陶器表面：■■■■■

　　縄釉陶器断面：■■■■■　内墨：■■■■■　煤、炭化物付着：■■■■■

9. 主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B　（浅間B軽石：供給火山・浅間山、1108年）

Hr-FA　（榛名ニッ岳渡川テフラ：供給火山・榛名山、5世紀末～6世紀初頭）

As-C　（浅間C軽石：供給火山・浅間山、3世紀後葉）

目 次

口 絵 写 真

は ジ め に

例 言

凡 例

目 次

図版目次・挿図目次・表目次

I 調査に至る経緯.....	1
II 遺跡の位置と環境.....	1
1 遺跡の立地.....	1
2 歴史的環境.....	1
III 調査の方針と経過.....	8
1 調査方針.....	8
2 調査経過.....	8
IV 基本層序.....	15
V 各区の遺構と遺物.....	16
VI ま と め.....	52

写 真 図 版

抄 录

奥 付

図 版

- 口絵1 1区調査区全景（南から）
 口絵2 2区調査区全景（北から）
 口絵3 3区調査区全景（東から）
 口絵4 3区總地業建物跡版塗状況（東から）
 口絵5 3区總地業建物跡版塗状況（南から）
 口絵6 3区總地業建物跡掘り方（東から）
 口絵7 3区總地業建物跡掘り方（南から）
 口絵8 8区青海城土壘全景（西から）
 口絵9 1区H-9号住居跡出土馬具（曹）
 口絵10 9区H-1号住居跡出土遺物
 口絵11 元總社蒼海遺跡群（122）出土綠釉陶器
- PL. 1 1区H-1~3・5号住居跡
 PL. 2 1区H-5・6・8~10号住居跡
 PL. 3 1区H-11~13・16・17号住居跡
 PL. 4 1区H-18・19号住居跡、T-2号竪穴状遺構、
 P-1号ピット内緑釉陶器出土状況
 2区H-1・2号住居跡、I-1号井戸跡
 PL. 5 2区H-2~5・9~12・15号住居跡
 PL. 6 2区H-12~14・16・18・19号住居跡
 PL. 7 2区H-22~27・29号住居跡、W-1号溝跡
 PL. 8 4区調査区全景、H-1~4号住居跡、W-1号
 溝跡
 PL. 9 5区調査区全景、W-1号溝跡
 PL. 10 6区調査区全景、H-1~3号住居跡
 PL. 11 6区W-1・2号溝跡、7区調査区全景、H-1
 号住居跡
 PL. 12 7区H-2~6号住居跡
 PL. 13 7区H-6~9号住居跡、8区調査区全景
 PL. 14 8区W-1~4号溝跡、土壘
 PL. 15 9区調査区全景
 PL. 16 9区H-1~3・5~7号住居跡、W-1号溝
 PL. 17 1区出土遺物
 PL. 18 1区出土遺物
 PL. 19 1区出土遺物
 PL. 20 1・2区出土遺物
 PL. 21 2区出土遺物
 PL. 22 2区出土遺物
 PL. 23 2~4区出土遺物
 PL. 24 4・6区出土遺物
 PL. 25 7~9区出土遺物

- PL. 26 9区出土遺物、1・2・4区出土鉄製品
 PL. 27 1・2・4・6・7区出土石製品、2区出土土製品、5区出土銭貨、2・4区出土瓦

挿 図

- Fig. 1 元總社蒼海遺跡群位置図 3
 Fig. 2 周辺遺跡図 4
 Fig. 3 元總社蒼海遺跡群とグリッド設定図 10
 Fig. 4 1区全体図 11
 Fig. 5 2区全体図 12
 Fig. 6 3~6区全体図 13
 Fig. 7 7~9区全体図 14
 Fig. 8 基本層序 15
 Fig. 9 1区H-1・2号住居跡 55
 Fig. 10 1区H-3~6・15号住居跡 56
 Fig. 11 1区H-5・8・10号住居跡 57
 Fig. 12 1区H-9・11号住居跡 58
 Fig. 13 1区H-12・13・16号住居跡 59
 Fig. 14 1区H-17号住居跡 60
 Fig. 15 1区H-18・19号住居跡、
 T-2号竪穴状遺構 61
 Fig. 16 1区T-1号竪穴状遺構、
 D-1~8号土坑 62
 Fig. 17 1区出土遺物(1) 63
 Fig. 18 1区出土遺物(2) 64
 Fig. 19 1区出土遺物(3) 65
 Fig. 20 1区出土遺物(4) 66
 Fig. 21 1区出土遺物(5) 67
 Fig. 22 1区出土遺物(6) 68
 Fig. 23 2区H-1~3・15号住居跡 69
 Fig. 24 2区H-4・12・17号住居跡、
 D-11号土坑 70
 Fig. 25 2区H-4・5・12号住居跡 71
 Fig. 26 2区H-7~11号住居跡、
 D-10・14号土坑 72
 Fig. 27 2区H-13・14号住居跡 73
 Fig. 28 2区H-16・22・23号住居跡 74
 Fig. 29 2区H-18・19号住居跡 75
 Fig. 30 2区H-20・21号住居跡 76
 Fig. 31 2区H-24~26号住居跡 77
 Fig. 32 2区H-24~27号住居跡 78
 Fig. 33 2区H-29号住居跡、W-1号溝跡 79

Fig. 34	2区D-3~7・9・12・13・19号土坑、 P-1・2号ビット、O-1号落ち込み	80	Fig. 52	7区H-3・4・8号住居跡、 D-1号土坑、DB-1号土壙墓	98
Fig. 35	2区出土遺物(1)	81	Fig. 53	7区H-5~7・9号住居跡	99
Fig. 36	2区出土遺物(2)	82	Fig. 54	7区出土遺物(1)	100
Fig. 37	2区出土遺物(3)	83	Fig. 55	8区全体図	101
Fig. 38	2区出土遺物(4)	84	Fig. 56	8区1号トレチ西壁、 3号トレチ西壁	102
Fig. 39	2区出土遺物(5)	85	Fig. 57	8区W-4号溝跡・P-1~3号ビット、 出土遺物(1)	103
Fig. 40	3区1号建物跡模式図	86	Fig. 58	9区H-1・4号住居跡	104
Fig. 41	3区H-1~3号住居跡、出土遺物(1)	87	Fig. 59	9区H-2・3・5・6号住居跡	105
Fig. 42	4区H-1~4号住居跡	88	Fig. 60	9区H-7号住居跡、W-1号溝跡、 D-1・2号土坑、P-2~5号ビット	106
Fig. 43	4区W-1号溝跡、A-1号道路状遺構、 D-1~7号土坑、P-1~20号ビット	89	Fig. 61	9区出土遺物(1)	107
Fig. 44	4区BP-1~14号ビット、出土遺物(1)	90			
Fig. 45	4区出土遺物(2)	91			
Fig. 46	5区W-1号溝跡、D-1~4号土坑、 出土遺物(1)	92			
Fig. 47	6区H-1~3号住居跡	93			
Fig. 48	6区W-1・2号溝跡、 P-24・25・27号ビット	94			
Fig. 49	6区P-1~23号ビット、 D-1・2号土坑	95			
Fig. 50	6区出土遺物(1)	96			
Fig. 51	7区H-1・2号住居跡	97			

表

Tab. 1	周辺遺跡一覧表	5
Tab. 2	住居跡等一覧表	38
Tab. 3	溝跡・道路跡計測表	41
Tab. 4	土坑・ビット・井戸跡等計測表	42
Tab. 5	出土遺物観察表	45

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、18年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成28年5月16日付けで、前橋市長 山本 龍より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会では実施について協議を行い、これを受諾し、平成28年5月18日付けで、調査依頼者である前橋市長 山本 龍に対し前橋市教育委員会による発掘調査を実施する旨の回答を行った。これを受け平成28年6月6日から現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群(122)」(遺跡コード:28A227)の「元総社蒼海遺跡群」は区画整理事業名を採用し、数字の「(122)」は過年度に発掘調査を実施した遺跡と区別するために付したものである。

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯という4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山噴火によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層(水成)から成り立っている。台地の東部は、広瀬川低地帯と直線的な崖で囲まれていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。總社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高3m~5mを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畠を主とした畑地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市元総社町地内に所在している。南東へ約1kmの所に上野国總社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号線、県道足門・前橋線が東西に、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。周辺は、区画整理事業の進捗に伴い、道路建設や住宅地化、商業施設の建設が著しいが、周囲には畠地が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

2 歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる總社古墳群と山王庵寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の地割を利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連絡と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

繩文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地城が筆頭に挙げられる。また、元総社蒼海遺跡群(9)で晩期の住居が検出されており、繩文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稻作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検

出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡の北東に広がる總社古墳群が挙げられる。總社古墳群を代表するものは、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ横穴式両袖型の石室が築造された前方後円墳の總社二子山古墳、両袖型横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内古墳最終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳があり、この地域と中央との関係を考えるうえで重要な意味をもつ古墳群といえる。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王庵寺跡（放光寺）がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鶴尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。なお、平成18年度から5カ年計画で「山王庵寺範囲内確認調査」が実施され、平成18年度では「講堂」の版築基壇や「回廊」の北東根石、平成19年度では「金堂」の版築基壇や「回廊」の西側根石が、平成20年度では「塔」の基壇とその周辺部が確認された。さらに平成21年度では「推定中門」と「西側南側回廊」の周辺部が、平成22年度は北西隅の回廊と接するように「基壇建物跡」と「北方建物群」が確認された。

奈良・平安時代になると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈てくる。律令期における国司の政治活動拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元總社地区に置かれたとされる。国府に関連する遺跡には、掘立柱建物跡が検出された元總社小学校庭遺跡や「國崩」「曹司」「國」「邑厨」等と書かれた墨書き土器や人形が出土した元總社寺田遺跡などがある。また、国府城の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉極遺跡や元總社蒼海遺跡群（7）（9）（10）と南北方向の溝跡が検出された元總社明神遺跡の調査成果により、国府城の東北外郭線が想定されるに至った。さらに、周辺遺跡からは、官人が用いたと考えられる円面硯、遙方（腰帶具）、綠釉陶器も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。なお、平成23年度より上野国府等範囲確認調査を実施しており、堀込地業をもつ建物跡、掘立柱建物跡、区画溝と推定される溝跡等が検出されているが、直接、国府と関連する遺構の検出には至っていない。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代から部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。さらに、国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に実施された寺域確認調査によって東南隅と西南隅の築垣とそれに平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺、国分尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺、尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物群が検出されている。

また、高崎市内の調査等により、本遺跡から約1.5km南の地点にN-64°-E方向の東山道（国府ルート）があることが推定されている。その他に存在が推定される通称「日高道」は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を北方へ延長したもので、これらは当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世になると本遺跡地には蒼海城が築城され、總社長尾氏の居城となっていた。また、この地域一帯は、奈良・平安時代から引き続いて上野国の府中として栄える。蒼海城の築城年代については、伝承では鎌倉時代に千葉上総介常胤により築かれたとされているが詳しいことはわかっていない。ただし、何らかの城郭的なものは存在していたと考えられており、室町時代の永亨元年（1429）に上野国守護代の長尾景行が城の修築を行っている。蒼海城の特徴は、館のような方形の曲輪が基盤の目のよう配置されている点にある。これらの曲輪は「○○屋敷」という名称で呼ばれている。なお、蒼海城は、江戸時代に秋元氏が現在の總社の地に總社城を築城して城下町等を移転させたことにより、完全に廃城となったと考えられる。

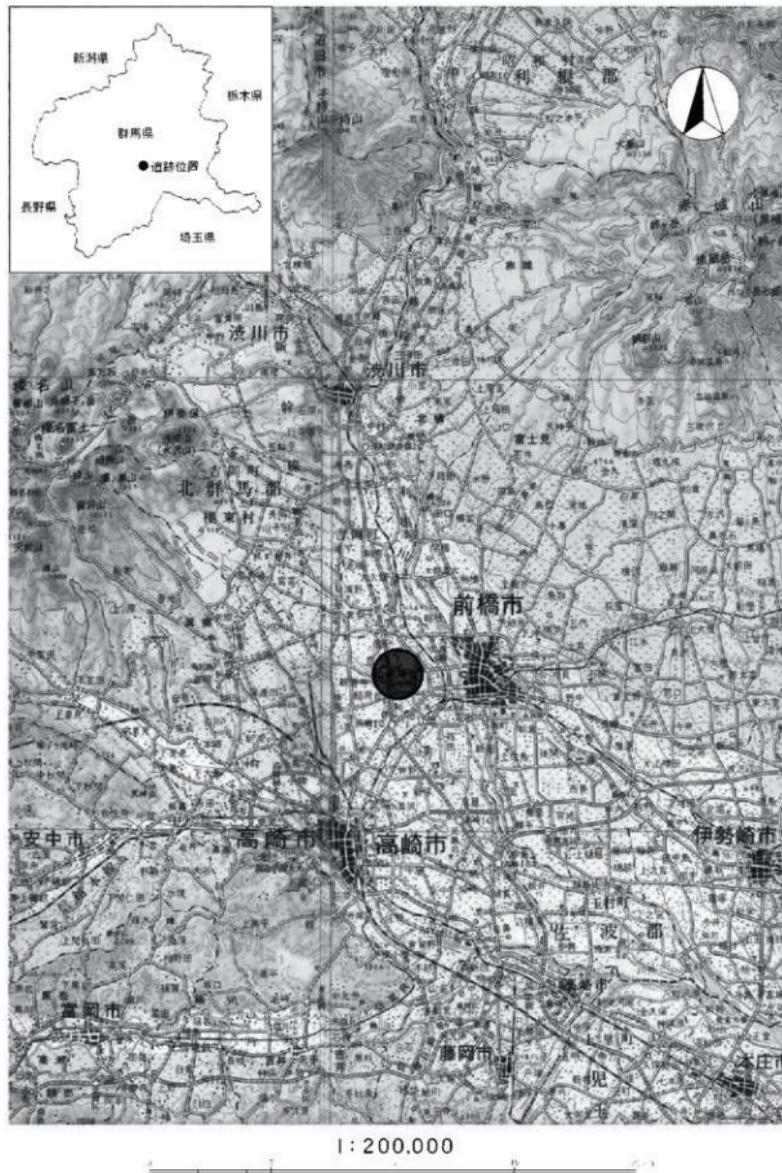


Fig. 1 元總社蒼海道路群位置図

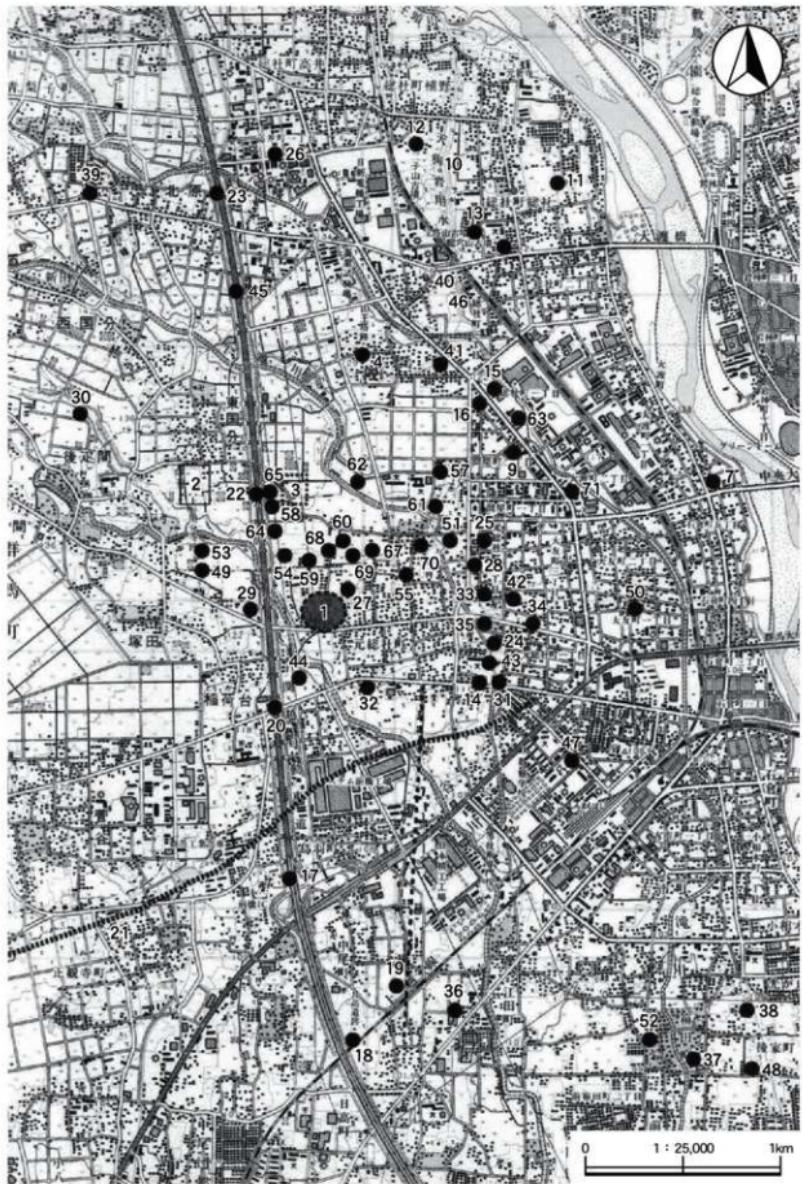


Fig. 2 周辺遺跡図

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた総社・元総社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元総社地区は注目される地域の一つである。元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われている。これにより、手付かず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海域が解明されていくことを期待する。

Tab. 1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・遺物
1	元総社首海遺跡群（122）	2016	本造跡
2	上野国分寺跡	1980～88	奈良：金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺	(1999)	奈良：西南隅・東南隅塗垣
4	壬山庵寺跡	(1974)	奈良：塔心磯・根巻石・金堂基壇・講堂版塀・回廊礎石
5	東山道駿路国府ルート（推定）	—	
6	日高道（推定）	—	
7	壬山古墳	1972	古墳：前方後円墳（6 c 中）
8	蛇穴山古墳	1975	古墳：方墳（7 c 末）
9	稲荷山古墳	1988	古墳：円墳（6 c 後半）
10	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳（7 c 前半）
11	遠見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（5 c 後半）
12	總社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（6 c 末）
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳（7 c 後半）
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周濠跡
15	產業道路東遺跡	1966	縄文：住居跡
16	產業道路西遺跡	1966	縄文：住居跡
17	中尾遺跡	1976	奈良・平安：住居跡
18	日高遺跡	1977	弥生：水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農具・平安：水田跡
19	日高遺跡	(1978)	弥生：水田跡
20	鳥羽遺跡	1978～83	古墳：住居跡・鍛冶場跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
21	正觀寺遺跡Ⅰ～IV	1979～81	弥生：住居跡・古墳～平安：住居跡・中世：溝跡
22	上野国分寺・尼寺中間地域	1980～83	縄文：住居跡・配石遺構・弥生：住居跡・方形周溝墓・古墳～平安：住居跡・掘立柱建物跡
23	北原遺跡（群馬町）	1982	縄文：土坑・集石道構・古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
24	元総社明神遺跡Ⅰ～XⅢ	1982～96	古墳：住居跡・水田跡・堀跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：住居跡・溝跡
25	関泉舎遺跡	1983	奈良・平安：溝跡
26	榎木遺跡・Ⅱ遺跡	1983,88	奈良・平安：住居跡・溝跡
27	草作遺跡	1984	古墳：住居跡・平安：住居跡・中世：戸井跡
28	関泉舎南遺跡	1985	古墳：住居跡・奈良・平安：溝跡
29	塚田村東遺跡（群馬町）	1985	平安：住居跡
30	後丸間遺跡Ⅰ～Ⅲ	1985～87	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：道路状遺構
31	寺田遺跡	1986	平安：溝跡
32	天神遺跡・Ⅱ遺跡	1986,88	奈良・平安：住居跡
33	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡	1986,95	古墳：住居跡・平安：住居跡・中世：堀跡・石敷遺構
34	曇越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡
35	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古墳：住居跡・平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
36	勝呂遺跡	1987	平安・水田跡
37	村前遺跡	1987	平安：溝状遺構・水田跡
38	五反田遺跡	1987	平安・水田跡
39	熊野谷遺跡	1988	縄文：住居跡・平安：住居跡・溝跡
	熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1989	平安：住居跡
40	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・中世：堀跡
41	昌榮寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
42	曇越Ⅰ遺跡	1988	平安：住居跡
43	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ（事業団）	1988～91	古墳：水田跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
44	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡	1989,95	古墳：住居跡・平安：住居跡
45	国分境遺跡（事業団）	1990	古墳：平安：住居跡
	国分境Ⅱ遺跡	1991	古墳：平安：住居跡
	国分境Ⅲ遺跡（群馬町）	1991	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：土坑墓

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な造構・遺物	
			縄文	平安
46	大友屋敷Ⅰ～IV遺跡	1992～2000	縄文：住居跡、古墳～平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡、地下式土坑・溝跡	
47	元総社稻葉遺跡	1993	縄文：土坑、平安：住居跡、製鉄炉跡・瓦窯	
48	五反田Ⅱ遺跡	1995	平安：水田跡	
49	上野国分寺夢道遺跡	1996	古墳：住居跡、平安：住居跡	
50	大友宅地添道跡	1998	平安：水田跡	
51	總社開泉明神北遺跡	1999	古墳：島跡・水田跡・溝跡、中世：溝跡	
	總社開泉明神北Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、平安：住居跡・溝跡	
52	稻田川西遺跡	1999	古墳：溝状造構、平安：水田跡	
53	元総社西川遺跡（事業団）	2000	古墳：住居跡・島跡、奈良・平安：住居跡・溝跡	
54	元総社小見道遺跡	2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、道路状造構	
55	元総社宅地遺跡Ⅰ～23トレンチ	2000	古墳：住居跡、平安：住居跡・掘立柱建物跡、鍛冶場跡・溝跡、道路状造構、中世：溝跡、近世：住居跡	
56	元総社小見内Ⅲ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：掘立柱建物跡・溝跡	
57	總社甲福荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：島跡、近世：溝跡	
	總社甲福荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、近世：溝跡	
58	元総社小見Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡・道路状造構	
59	元総社小見Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・道路状造構	
	元総社草作Ⅷ遺跡		古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡	
60	元総社小見内Ⅵ遺跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：土坑墓	
	元総社小見Ⅳ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳～平安：住居跡、中世：溝跡	
	元総社甲福荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・島跡・溝跡	
61	總社開泉明神北遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳～平安：住居跡	
	總社甲福荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	古墳：島跡、中世：島跡	
62	元総社北川遺跡	2002～04	古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡・島跡、中近世：掘立柱建物跡・水田跡・火葬墓	
63	稻荷塚道東遺跡	2003	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・掘立柱建物跡・溝跡、井戸跡	
	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：土坑墓	
64	元総社小見内Ⅳ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：井戸跡	
65	元総社小見V遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳～平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡	
66	元総社小見内Ⅸ遺跡	2003	縄文：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：島跡・溝跡	
67	元総社小見内Ⅸ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：竖穴状造構	
	元総社小見IX遺跡	2004	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡	
	元総社小見内IX遺跡	2004	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡	
69	元総社小見内X遺跡	2004	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・粘土探査坑、中世：溝跡・土壤墓	
70	總社開泉明神北Ⅴ遺跡	2004	古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡	
71	大渡遺跡	2005	古墳：水田跡、平安：住居跡、中世：貨幣埋納造構・掘立柱建物跡・地下式坑・溝跡	
一	元総社普海遺跡群(1)	2005	奈良・平安：住居跡・溝、中世：溝・土壤墓	
一	元総社普海遺跡群(2)	2005	奈良・平安：住居跡・大溝、中世：溝跡・土壤墓	
一	元総社普海遺跡群(3)・元総社小見Ⅹ遺跡	2005	縄文：住居跡、古墳～平安：住居跡	
一	元総社普海遺跡群(4)	2005	縄文：住居跡、古墳～平安：住居跡	
一	元総社普海遺跡群(5)	2005	古墳：平安：住居跡、中世：周溝状造構・土壤墓	
一	元総社普海遺跡群(6)	2005	奈良・平安：住居跡・大溝、中世：島跡（普海城）・土壤墓	
一	元総社普海遺跡群(7)	2006	奈良・平安：住居跡・溝跡	
一	元総社普海遺跡群(8)	2006	奈良・平安：住居跡	
一	元総社普海遺跡群(9)(10)	2006	縄文：住居跡、古墳～平安：住居跡・掘立柱建物跡・大溝	
一	元総社普海遺跡群(11)	2006	古墳～平安：住居跡、中世：堀跡	
一	元総社普海遺跡群(12)	2008	古墳～平安：住居跡、中世：井戸跡	
一	元総社普海遺跡群(13)	2008	縄文：住居跡、古墳～平安：住居跡・工房跡、中世：土坑墓 ◇土偶・馬具	
一	元総社普海遺跡群(14)	2008	古墳：住居跡・水田・墓跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：堀跡（普海城）	
一	元総社普海遺跡群(15)	2008	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡	
一	元総社普海遺跡群(16)	2008	奈良・平安：住居跡・島跡	
一	元総社普海遺跡群(17)	2008	古墳～平安：住居跡、中世以降：土壤墓・井戸跡	
一	元総社普海遺跡群(18)	2008	平安：住居跡	
一	元総社普海遺跡群(19)	2008	古墳：小区画水田跡、中世：井戸跡 ◇木製舟形容器	
一	元総社普海遺跡群(20)	2009	古墳～平安：住居跡・溝跡、中世：土壤墓 ◇須恵器「壺G」	

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な構造・遺物
—	元総社蒼海遺跡群(21)	2009	中世：堀跡（蒼海城）
—	元総社蒼海遺跡群(22)	2009	古墳・平安：住居跡 ◇鉄鍬
—	元総社蒼海遺跡群(23)	2009	古墳：住居跡、中世：堀跡（蒼海城） ◇白磁（15c）・青磁（13~15c）・天目茶碗
—	元総社蒼海遺跡群(24)	2009	縄文：住居跡、古墳～平安：住居跡、中世：方形窓穴・井戸跡
—	元総社蒼海遺跡群(25)	2009	古墳・平安：住居跡 ◇青白磁梅壺（12~14c）
—	元総社蒼海遺跡群(26)	2009	古墳：住居跡、土塙墓。中世：堀跡（蒼海城） ◇縄錐・円面鏡・盤・高盤・腰帶具・墨書き「大鏡」
—	元総社蒼海遺跡群(27)	2009	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：堀跡（蒼海城）
—	元総社蒼海遺跡群(28)	2009	古墳・平安：住居跡・大溝。中世：堀跡（蒼海城） ◇馬具
—	元総社蒼海遺跡群(29)	2009	古墳・平安：住居跡、中世：堀跡（蒼海城）・土塙墓
—	元総社蒼海遺跡群(30)	2009	古墳・平安：住居跡、中世：堀跡（蒼海城）
—	元総社蒼海遺跡群(31)	2010	古墳：住居跡、中世：堀跡（蒼海城）
—	元総社蒼海遺跡群(32)(33)	2010	古墳・平安：住居跡、中世：堀跡（蒼海城）
—	元総社蒼海遺跡群(34)	2010	奈良・平安：住居跡、中世：堀跡（蒼海城）
—	元総社蒼海遺跡群(35)	2010	縄文：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：堀跡（蒼海城）
—	元総社蒼海遺跡群(36)	2011	古墳：壠頂、平安：住居跡・水田跡、中世：堀跡（蒼海城）
—	元総社蒼海遺跡群(37)	2012	古墳・平安：住居跡、中世：堀跡（蒼海城） ◇馬具・羽口・鉄滓・炉壁・耳環
—	元総社蒼海遺跡群(38)	2012	古墳～平安：住居跡・溝跡。中世：堀跡（蒼海城）
—	元総社蒼海遺跡群(39)	2013	古墳・平安：住居跡、中世：堀跡
—	元総社蒼海遺跡群(40)(46)(49)(50)	2013	縄文：住居跡、古墳：住居跡・竪穴状遺構。奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・網治道構・追跡状遺構
—	元総社蒼海遺跡群(41)(42)(43)	2013	縄文：住居跡、古墳～平安：住居跡・鐵冶遺構、中世：掘立柱建物跡 ◇奈良真三彩・灰釉（金付着）
—	元総社蒼海遺跡群(44)(45)	2013	古墳・平安：住居跡、中世：堀跡・地下式坑
—	元総社蒼海遺跡群(47)	2013	中世：堀跡（蒼海城）・柱列跡
—	元総社蒼海遺跡群(48)	2013	縄文：住居跡・古墳～平安：住居跡
—	元総社蒼海遺跡群(51)～(55)、(66)～(68)	2013	古墳・奈良：住居跡
—	元総社蒼海遺跡群(56)(61)(72)(73)	2014	古墳：方形周溝墓・住居跡・竪穴状遺構。奈良・平安：住居跡
—	元総社蒼海遺跡群(57)	2014	中世：堀跡（蒼海城）
—	元総社蒼海遺跡群(58)	2014	平安：大溝。中世：堀跡（蒼海城）
—	元総社蒼海遺跡群(59)	2014	平安：住居跡、中世：堀跡（蒼海城）
—	元総社蒼海遺跡群(60)	2014	古墳～平安：住居跡、中世：堀跡（蒼海城）
—	元総社蒼海遺跡群(62)(63)(64)	2014	奈良：製鐵炉、平安：住居跡、中世：土塙墓
—	元総社蒼海遺跡群(65)	2013	古墳・平安：住居跡、中世：堀跡（蒼海城）
—	元総社蒼海遺跡群(81)(82)(83)(84)	2014	古墳・平安：住居跡
—	元総社蒼海遺跡群(85)～(88)～(90)、(96)～(98)	2014	古墳～平安：住居跡、中世：堀跡（蒼海城）
—	元総社蒼海遺跡群(91)(95)(102)	2014	古墳～平安：住居跡、中世：堀跡（蒼海城） ◇金銅小仏
元総社蒼海遺跡群(99) 上野国府等範囲内内容確認調査 33・34トレンチ		2015	奈良・平安：堀込地廻建物跡
元総社蒼海遺跡群(100)(101)		2014	古墳～平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡
元総社蒼海遺跡群(103)		2015	縄文：住居跡・古墳～平安：住居跡
元総社蒼海遺跡群(117)		2016	古墳：住居跡、奈良・平安：大溝
元総社蒼海遺跡群(118)		2016	平安：住居跡・土塙墓。中世以降：粘土探柵坑
元総社蒼海遺跡群(120)		2016	平安・掘立柱建物跡・柱穴群・廻塗跡
元総社蒼海遺跡群(17街区)		2015	古墳～平安：住居跡、中世：土塙墓

III 調査方針と経過

1 調査方針

発掘調査を依頼された箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い新設される道路用地および宅地造成に伴い切土が必要になる部分である。総調査面積は約3,012m²である。現地の調査では、遺構の付番等における混乱をさけるため、調査区全体を1~9区に区分した。遺構番号は、各区ごとに個別に付番することとし、1区H-1号住居跡、2区H-1号住居跡のように遺構の前に必ず地区名を付すこととした。

グリッドの座標については、国家座標（日本測地系）X=+44000.000m・Y=-72200.000を基点（X 0・Y 0）とする4mピッチのものを使い、1区においては、西から東へX84、85、86……、北から南へY221、222、223……と付番し、グリッド呼称は北西杭の名称を使用した。

本遺跡1区のX85・Y222の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系 X = +43,112.000	Y = -71,860.000
緯 度 36°23'09".0422	経 度 139°01'56"7684
子午線収差角 28°30'.5	増 大 率 0.999963

調査方法については、表土掘削・遺構確認・方眼杭等設置・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真の順で行うこととした。このうち遺構確認については、基本的にAs-C軽石とAs-B軽石が混入する土層を手掛かりにした。

図面作成は、平板・簡易遺り方測量を行い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡庵は1/10の縮尺で作成した。遺物については、平面分布図を作成し、台帳に各種記録を記載しながら収納した。包含層の遺物は、グリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記録を行い収納した。

2 調査経過

発掘調査は平成28年6月6日から平成28年12月22日まで実施した。調査経過は下記のとおりである。

1区 元総社蒼海遺跡群の南西部、染谷川の左岸台地上に位置する。6月6日より重機による表土掘削を開始し、翌7日に掘削を終了した。表土掘削後、他の調査区（2・3・4区）の調査を先行して実施したため、実質的に調査を開始したのは、8月23日からになった。1区は約216m²と狭い調査区であったが、遺構が高い密度で検出されたため、新旧関係の判断に苦心した。また、調査区北側半分の遺構覆土が黒色粘性土であったため、乾くと非常に硬化し調査に時間を要したが、11月8日に高所作業車により調査区の全景写真を撮影し、10日に全体測量を行い調査を終了した。

2区 元総社蒼海遺跡群の南西部、染谷川の左岸台地上の県道前橋足門線沿いに位置する。今年度、一番最初に調査を実施した調査区である。6月7日より重機による表土掘削を開始し、6月10日にグリッド杭打設後、遺構掘下げ・精査と作業を進めた。調査区は全体的に後世の擾乱の影響を受け、何軒かの住居跡は部分的に破壊されていた。また、遺構が高い密度で検出されたため、遺構確認・掘下げに時間を要した。途中、区画整理課の依頼により他の調査区（5区）の調査を実施したため、調査を休止した時期もあったが、10月14日に高所作業車により調査区の全景写真を撮影し、21日に全体測量を行い調査を終了した。

3区 元総社蒼海遺跡群の南東部、牛池川の右岸台地上に位置する。平成26年度に堀込地業をもつ建物跡が検出された元総社蒼海遺跡群（99）に隣接する調査区になる。区画整理の建物移転に伴い敷地の一部が切上されるため、緊急的に調査を実施した。7月11日より重機による表土掘削、同日午後より遺構確認・掘下げを行った。調査区の大半は、従前道路用地であったため、水道管や排水管が埋設され残存状況があまり良くなかったが、蒼海（99）で検出された堀込地業をもつ建物跡の南東隅の地業跡を検出することができた。調査は19日に全景写真を

撮影し、その後全体測量を行い21日に終了した。

4区 元総社苔海遺跡群の中央やや西側、牛池川と染谷川に挟まれた台地のほぼ中央に位置し、区画整理に伴う下水道管理設工事のため急きょ調査を実施することになった。7月25日に現地で区画整理課と調査範囲を確認した後、28日に重機による表土掘削を開始し、同日中に遺構の確認を終えた。翌29日より遺構掘下・精査作業を行った。途中、降雨により調査区が水没する状況にもなったが、8月10日に調査区の全景写真を撮影し、15日に全体測量を行い調査を終了した。

5区 元総社苔海遺跡群の中央やや東側、御靈神社の北東約150mに位置する。平成22年度に苔海域の堀跡が検出された元総社苔海遺跡群（31）の西側隣接地になる。9月12日より重機による表土掘削を開始し、苔海（31）で検出された堀跡の続きを確認したため、重機および人力により掘下げを行った。約2.7m掘下げたところで重機のアームが届かない深さとなり、人力で掘り下げを進めたが、降雨により地盤が軟弱化し壁面崩落の危険があるため、掘り下げを中止し、16日に調査区の全景写真および全体測量を行い、翌17日に調査区の埋戻しを行い、調査を終了した。

6区 元総社苔海遺跡群の南西部、染谷川の左岸台地上に位置する。10月26日より重機による表土掘削を開始した。表土層が比較的浅かったため掘削は順調に進み、同日中に遺構の確認をほぼ終了した。翌27日から遺構の掘下げを開始し、11月7日にはほぼすべての調査を終えた。翌8日に高所作業車により調査区の全景写真撮影、10日に全体測量を行い調査を終了した。

7区 元総社苔海遺跡群の南西部、染谷川の左岸台地上に位置する。11月10日より重機による表土掘削を開始したが、從前アパート用地であったため、アパート解体に伴い埋められたと思われるコンクリートがら等の産業廃棄物が調査区全体に80~100cmの厚さで埋設されていた。遺構確認は翌11日より開始したが、調査区の中央~南側部分はコンクリートがら等の搅乱により遺構の残存状況はあまり良くなかった。15日より遺構掘下・精査作業を行い、12月7日に古代面の調査を終了し、翌8日に全景写真を撮影した。その後、調査区北側において縄文土器が比較的多量に出土していたため、千鳥格子に小グリット（1m×1m）を設定し縄文時代の遺構の確認を行ったが、遺構は検出されなかった。途中、9区と並行して調査を行ったため、20日に全体測量、28日に埋戻しを行い調査を終了した。

8区 苔海域本丸の北西に位置する。御靈神社北側の苔海域の土塁が頂部まで盛土されることとなるため、土塁本体及び苔海域堀跡の確認調査に着手した。11月8日より現況土塁の表土を鏿き取る作業から始め、14日より土塁周辺を重機による表土掘削を開始した。30日に調査区全体の空撮を行った後も遺構の掘り下げ・精査作業を進め、土塁の東・北・西から溝跡を検出し、土塁西端部の下から溝跡1条を検出した。12月20日に全体測量を行い、並行して土塁東側より埋め戻しを行った。翌21日に埋戻しを完了し調査終了となった。

9区 元総社苔海遺跡群の南西部、染谷川の左岸台地上に位置し、7区の南西側に隣接する調査区である。調査区は從前アパート用地であったため、アパートの曳移転終了後の12月12日から重機による表土掘削を開始した。掘削は比較的表土層が浅かったため順調に進み、同日中に遺構の確認を終えた。翌13日より遺構掘下・精査作業を行い、21日に全景写真、26日に全体測量、27日に埋戻しを行い調査を終了した。

翌年の1月10日より文化財保護課庁舎および現場プレハブにおいて、出土遺物・図面・写真等の整理作業及び報告書作成に当たり、3月17日までにすべての作業を終了した。

なお、9月6~8日の3日間前橋市立桂萱中学校の2年生3名、10月18~21日（各2名・2日間）に群馬県立前橋商業高等学校の1年生4人が職場体験として調査に参加した。



Fig. 3 元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図

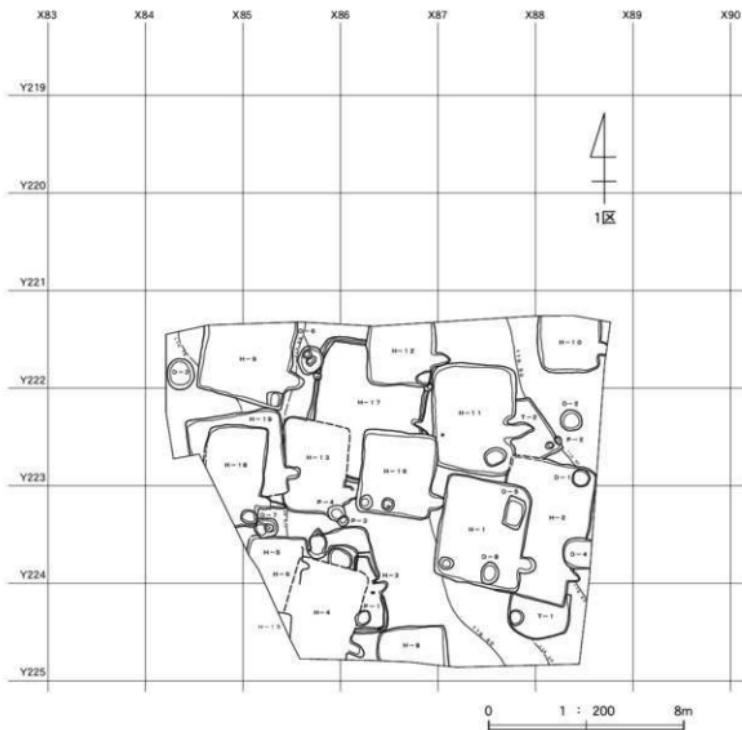


Fig. 4 元総社蒼海遺跡群 (122) 1区全体図

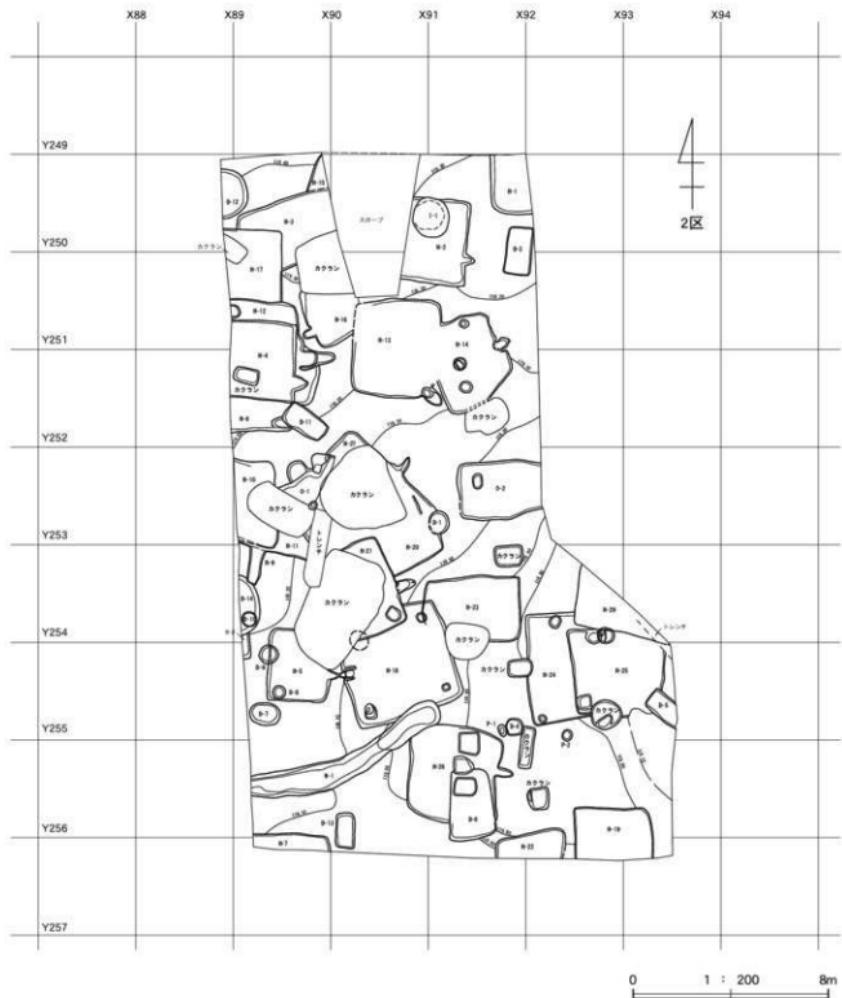


Fig. 5 元絶社蒼海遺跡群(122) 2区全体図

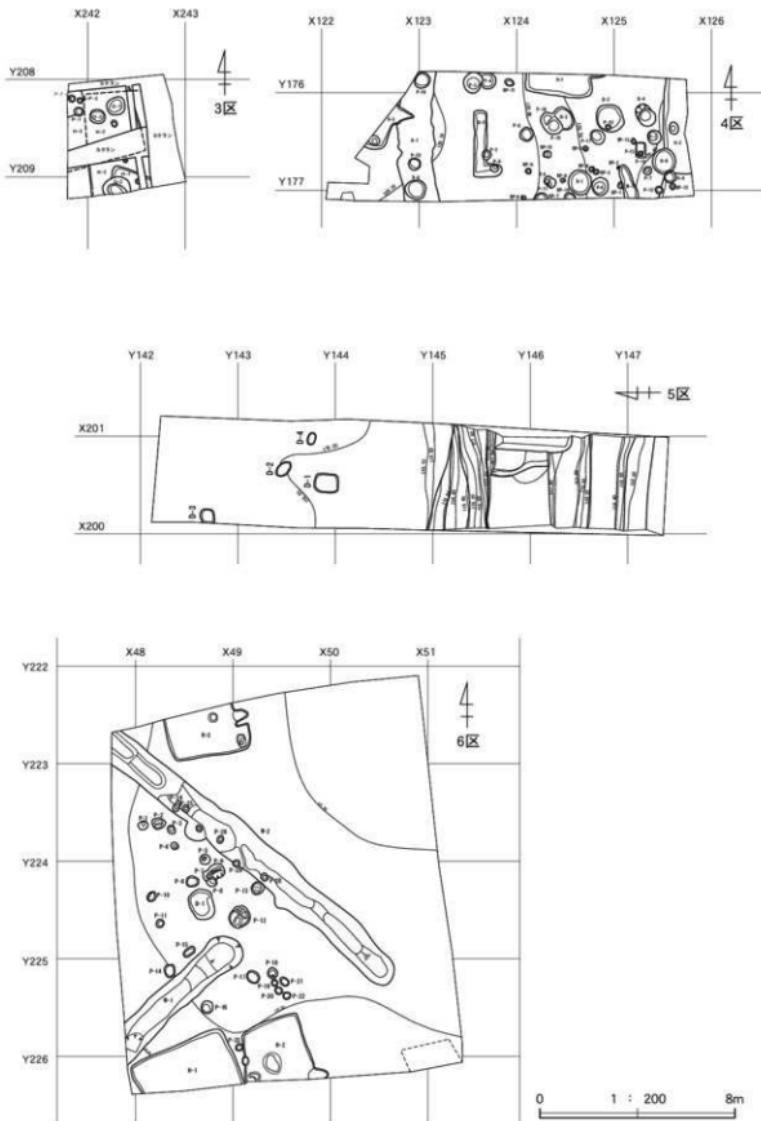


Fig. 6 元總社普海遺跡群 (122) 3 ~ 6 区全体図

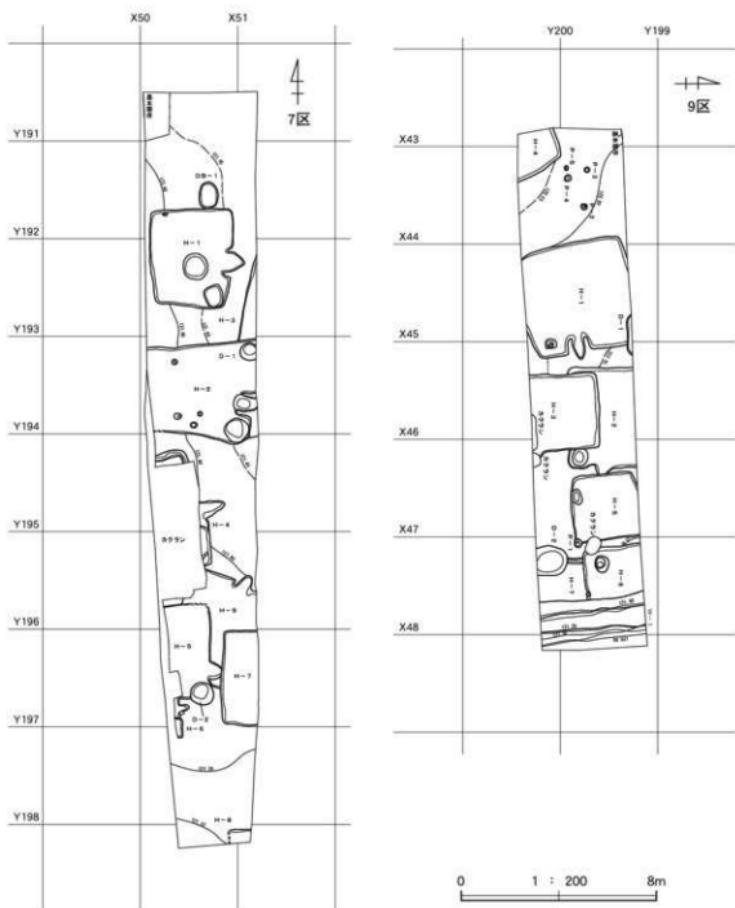


Fig. 7 元總社舊海遺跡群(122) 7・9区全体図

IV 基本層序

基本層序は、各調査区に確認用トレチを設定し、セクション図をもとに模式図を作成した。以下に土層説明を掲載する。また、各調査区の概要を補足を記した。

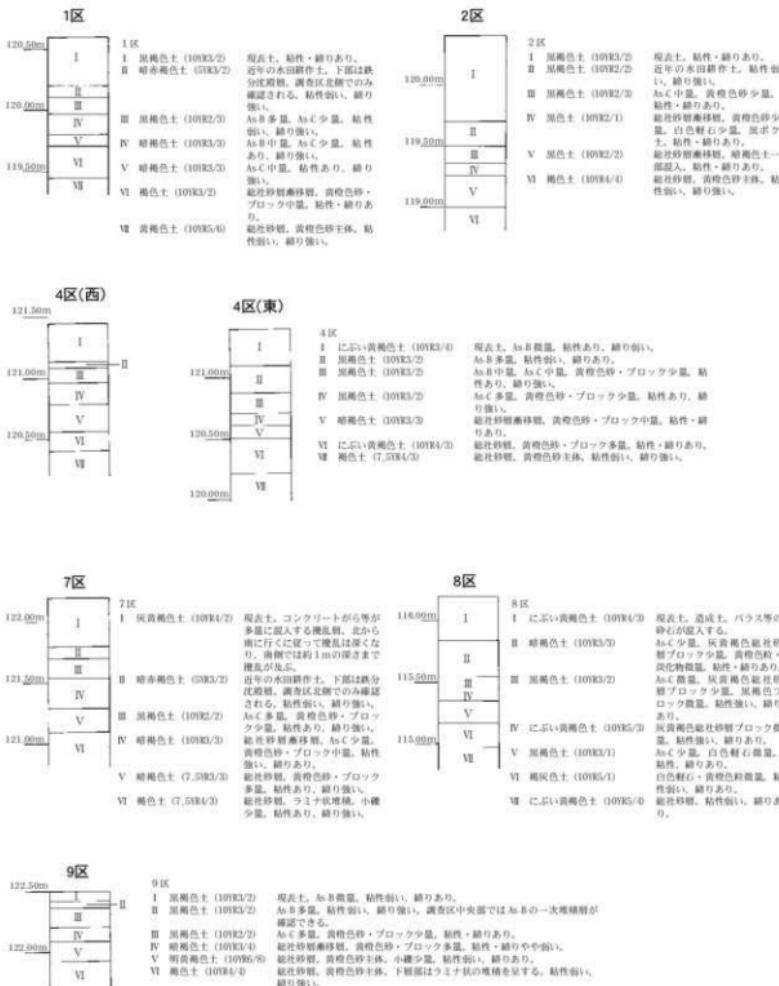


Fig. 8 基本層序

V 各区の遺構と遺物

1 区

調査区の概要

元総社普海遺跡群南西部、染谷川の左岸台地上に位置し、標高119.5m、西から東へ向かって緩やかに傾斜している。平成25年度に発掘調査を行った元総社普海遺跡群（60）A区の北側に隣接する調査区である。竪穴住居跡17軒、竪穴状遺構2基、土坑8基、ピット4基を検出した。竪穴住居跡は古墳時代後期～平安時代の範疇に帰属するものである。このうち、特徴的な様相を示す住居跡としてH-5・9・11・17号住居跡が挙げられる。H-5号住居跡は8世紀初頭の住居跡で、カマドが北壁の中央やや東寄りに配置されている。H-9号住居跡は10世紀前半の焼失住居で、床面から鉄製馬具（轡）と鉄鏃が一緒に出土している。H-11号住居跡は8世紀前半の住居跡で、両袖・天井部を凝灰岩の切石を使用した残存状態の良いカマドを検出した。また、ほぼ完形の須恵器の壊蓋が4個体出土している。H-17号住居跡は7世紀後半の住居跡で、柱穴の配置とカマドの造り方が特徴的である。柱穴は住居の東西の壁面にそれぞれ直径約30cmの柱穴が2基確認されている。また、カマドの袖部は地山の総社砂層を削り出して構築していた。

竪穴状遺構は2基確認されているが、そのうち、6世紀後半と考えられるT-2号竪穴状遺構では、土師器の鉢と上半部を打ち欠いた甕の底部が伏せて並べられ、その前面に壊と短頸壺が配置された状態で出土しており、何らかの祭祀行為を窺わせるものとなっている。

土坑は8基確認されているが、このうち6基が古墳時代～平安時代、2基がAs-B降下以降の所産である。

ピットは4基確認されているが、すべて古墳時代～平安時代の範疇に帰属するものと考えられる。このうちP-1から出土した縁釉陶器の皿は、縁辺3か所が意図的に打ち欠かれたような状態で出土したが、類例を確認することはできなかった。

（1）竪穴住居跡

H-1号住居跡（遺構：Fig. 9、Pl. 1／遺物：Fig. 17・22、Pl. 17・27）

位置：X86・87、Y222～224グリッド 主軸方位：N-101°—E 形状・規模等：長方形を呈する。東西3.55m、南北4.36m、壁現高21cm 面積：15.31m² 床面：ほぼ平坦であるが南西部は風倒木の影響により隆起している。龕前を中心に貼床が確認できる。 龕：東壁南寄りに位置する。全長70cm、最大幅55cm、焚口部幅44cm。構築材に粘土と川原石を用いる。 貯蔵穴等：南西隅に円形の貯蔵穴が設置される。柱穴は確認されなかった。 周溝：なし 重複：H-2・16号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構が最も新しい。 出土遺物：土師器263点、須恵器144点、灰釉陶器10点、瓦3点、鉄製品1点、石製品1点、計421点出土。そのうち須恵器椀2点、羽釜1点、石製品1点を図示。 時期：覆土や出土遺物、重複関係から10世紀後半と考えられる。

H-2号住居跡（遺構：Fig. 9、Pl. 1／遺物：Fig. 17・22、Pl. 17・26）

位置：X87・88、Y222～224グリッド 主軸方位：N-105°—E 形状・規模等：長方形を呈する。東西3.93m、南北5.72m、壁現高24cm、面積：(20.13)m² 床面：やや凹凸があるが、龕前を中心に硬化面が確認できる。 龕：東壁南寄りに位置する。全長49cm、最大幅47cm、焚口部幅36cm。構築材に粘土と川原石を用いる。 貯蔵穴等：南西隅に方形の貯蔵穴が設置される。柱穴は確認されなかった。 周溝：なし 重複：H-1・11号住居跡、T-1・2号竪穴状遺構と重複し、新旧関係はT-2→H-11→T-1→本遺構→H-1の順である。 出土遺

物：土師器399点、須恵器211点、灰釉陶器14点、瓦4点、鉄製品6点、計634点出土。そのうち須恵器坏3点、椀3点、鉄製品2点を図示。 時期：覆土や出土遺物、重複関係から10世紀前半と考えられる。

H-3号住居跡（遺構：Fig.10, PL. 1／遺物：Fig.17, PL.17）

位置：X85・86、Y223・224グリッド 主軸方位：N—59°—E 形状・規模等：方形を呈すると推定される。東西(1.45)m、南北4.40m、壁現高23cm。 面積：(6,70)m² 床面：平坦で堅地な貼床。 窟：東壁中央に位置する。全長45cm、最大幅60cm、焚口部幅37cm。構築材に粘土と凝灰岩を用いる。 貯蔵穴等：不明 周溝：あり 重複：H-4～6号住居跡と重複し、本遺構が最も古い。 出土遺物：土師器64点、須恵器36点、灰釉陶器1点、鉄製品1点、石製品1点、計103点出土。そのうち土師器坏4点、甕1点を図示。 時期：覆土や出土遺物、重複関係から7世紀後半と考えられる。

H-4号住居跡（遺構：Fig.10／遺物：Fig.17, PL.17）

位置：X85・86、Y223・224グリッド 主軸方位：N—115°—E 形状・規模等：長方形を呈すると推定される。東西(2.90)m、南北(3.65)m、壁現高(12)cm。 面積：(10,38)m² 床面：平坦で堅地な貼床。 窟：東壁南寄りに位置すると推定される。全長95cm、最大幅54cm、焚口部幅28cm。構築材に粘土と川原石を用いる。 貯蔵穴等：不明 周溝：なし 重複：H-3・5・6・15号住居跡と重複し、新旧関係はH-3→H-5→本遺構→H-6・15の順である。 出土遺物：土師器160点、須恵器60点、灰釉陶器2点、鉄製品1点、計224点出土。そのうち須恵器坏1点、灰釉陶器皿1点、羽釜1点を図示。 時期：覆土や出土遺物、重複関係から10世紀後半と考えられる。

H-5号住居跡（遺構：Fig.10・11, PL. 1・2／遺物：Fig.17, PL.17）

位置：X85・86、Y223・224グリッド 主軸方位：N—8°—E 形状・規模等：方形を呈ると推定される。東西4.55m、南北4.63m、壁現高22cm。 面積：(16,47)m² 床面：平坦で堅地な貼床。 窟：北壁中央やや東寄りに位置する。全長101cm、最大幅115cm、焚口部幅59cm。構築材に粘土と川原石を用いる。 貯蔵穴等：北東隅に楕円形の貯蔵穴が設置される。柱穴は4基確認されたが、P2は重複する住居の柱穴になると推定される。周溝：あり 重複：H-3・4・6・15号住居跡と重複し、新旧関係はH-3→本遺構→H-4→H-6・15の順である。 出土遺物：土師器487点、須恵器123点、灰釉陶器7点、計617点出土。そのうち土師器坏1点を図示。 時期：覆土や出土遺物、重複関係から8世紀初頭と考えられる。

H-6号住居跡（遺構：Fig.10, PL. 2／遺物：Fig.18, PL.18）

位置：X85、Y223・224グリッド 主軸方位：N—96°—E 形状・規模等：窓とその前面（西側）の貼床の一部を確認したが、全体の形状は確認できなかった。 面積：不明 床面：平坦で堅地な貼床。 窟：東壁に位置する。全長(35)cm、最大幅(40)cm、焚口部幅59cm。構築材に粘土と川原石、凝灰岩を用いる。 貯蔵穴等：不明 重複：H-3～5号住居跡等と重複すると推定される。新旧関係は本遺構が最も新しい。 出土遺物：土師器197点、須恵器82点、灰釉陶器2点、瓦1点、計282点出土。そのうち羽釜1点を図示。 時期：覆土や出土遺物、重複関係から11世紀代と考えられる。

H-7号住居跡 欠番

H-8号住居跡（遺構：Fig.11、PL. 2／遺物：Fig.18、PL.18）

位置：X86・87、Y224グリッド 主軸方位：N—93°—E 形状・規模等：一部調査区外であるが、長方形を呈すると推定される。東西2.38m、南北(1.67)m、壁現高6cm。面積：(3.82)m² 床面：風倒木の影響により全体的に凹凸のある床面。竈：不明 貯蔵穴等：不明 周溝：なし 重複：なし 出土遺物：土師器16点、須恵器8点、灰釉陶器1点、瓦3点、計28点出土。そのうち須恵器皿1点、羽釜1点を図示。時期：覆土や出土遺物から10世紀代と考えられる。

H-9号住居跡（遺構：Fig.12、PL. 2／遺物：Fig.18・21・22、口絵9、PL.18・26）

位置：X84・85、Y221・222グリッド 主軸方位：N—105°—E 形状・規模等：一部調査区外であるが、長方形を呈すると推定される。東西3.81m、南北(3.59)m、壁現高34cm。面積：(11.20)m² 床面：平坦で堅地な貼床。床面には多量の炭化材があり、焼失住居と推定される。竈：東壁南寄りに位置する。全長75cm、最大幅80cm、焚口部幅54cm。構築材に粘土と川原石を用いる。貯蔵穴等：南西隅に楕円形の貯蔵穴が設置される。柱穴は確認されなかった。周溝：なし 重複：なし 出土遺物：土師器179点、須恵器249点、灰釉陶器13点、瓦1点、鉄製品3点、計447点出土。そのうち須恵器壺2点、耳皿1点、土甕1点、羽釜2点、灰釉陶器壺1点、鉄製品2点を図示。時期：覆土や出土遺物、重複関係から10世紀前半と考えられる。

H-10号住居跡（遺構：Fig.11、PL. 2／遺物：Fig.20、口絵11）

位置：X88、Y221グリッド 主軸方位：N—98°—E 形状・規模等：一部調査区外であるが、長方形を呈すると推定される。東西2.61m、南北(2.35)m、壁現高24cm。面積：(5.80)m² 床面：平坦で堅地な貼床。竈：東壁南寄りに位置する。全長(43)cm、最大幅57cm、焚口部幅(46)cm。構築材に粘土と凝灰石を用いる。貯蔵穴等：不明 周溝：なし 重複：なし 出土遺物：土師器94点、須恵器101点、灰釉陶器6点、綠釉陶器1点、計202点出土。そのうち綠釉陶器段皿破片1点を図示。時期：覆土や出土遺物、重複関係から10世紀代と考えられる。

H-11号住居跡（遺構：Fig.12、PL. 3／遺物：Fig.18・19、PL.18）

位置：X86・87、Y221・222グリッド 主軸方位：N—86°—E 形状・規模等：長方形を呈する。東西3.45m、南北4.53m、壁現高48cm。面積：15.30m² 床面：平坦で堅地な貼床。竈：東壁中央やや南寄りに位置する。全長127cm、最大幅125cm、焚口部幅48cm。構築材に粘土、両袖部に凝灰岩、天井部に凝灰岩を用いる。貯蔵穴等：南西隅に楕円形の貯蔵穴が設置される。柱穴は1基確認されたが、本遺構に伴うものか不明。周溝：なし 重複：H-2号住居跡、T-2号堅穴状遺構と重複し、新旧関係はT-2→本遺構→H-2の順である。出土遺物：土師器411点、須恵器129点、灰釉陶器2点、瓦1点、石製品1点、計544点出土。そのうち土師器壺1点、須恵器蓋4点、壺1点、転用硯1点を図示。時期：覆土や出土遺物、重複関係から8世紀前半と考えられる。

H-12号住居跡（遺構：Fig.13、PL. 3／遺物：Fig.19、PL.18）

位置：X86・87、Y221グリッド 主軸方位：N—96°—E 形状・規模等：一部調査区外であるが、長方形を呈すると推定される。東西2.83m、南北(2.52)m、壁現高41cm。面積：(6.94)m² 床面：平坦で堅地な貼床。竈：東壁南寄りに位置する。全長83cm、最大幅63cm、焚口部幅35cm。構築材に粘土と川原石を用いる。貯蔵穴等：南西隅に楕円形の貯蔵穴が設置される。柱穴は確認されなかった。周溝：なし 重複：H-17号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構の方が新しい。出土遺物：土師器287点、須恵器123点、瓦2点、計412点出土。そのうち須恵器壺1点を図示。時期：覆土や出土遺物、重複関係から9世紀後半と考えられる。

H-13号住居跡（遺構：Fig.13, PL. 3／遺物：Fig.19・22, PL.19・26）

位置：X85・86, Y222・223グリッド 主軸方位：N-98°-E 形状・規模等：長方形を呈すると推定される。東西2.56m、南北3.78m、壁現高15cm。面積：(5.94)m² 床面：平坦で堅緻な床面 窯：東壁南寄りに位置する。全長45cm、最大幅65cm、焚口部幅46cm。構築材に粘土と川原石を用いる。貯蔵穴等：不明 周溝：なし 重複：H-16～19号住居跡と重複し、新旧関係はH-17→本遺構→H-16・18・19の順である。出土遺物：土師器365点、須恵器173点、灰釉陶器10点、瓦2点、鉄製品1点、計551点出土。そのうち須恵坏4点、椀2点、灰釉陶器椀1点、鉄製品1点を図示。時期：覆土や出土遺物、重複関係から10世紀中葉と考えられる。

H-14号住居跡 欠番

H-15号住居跡（遺構：Fig.10）

位置：X85, Y224グリッド 主軸方位：N-86°-E 形状・規模等：北東隅部のみの検出。東西(0.52)m、南北(0.93)m、壁現高11cm。面積：(0.32)m² 床面：不明 窯：不明 貯蔵穴等：不明 周溝：なし 重複：H-4・5号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構が最も新しい。出土遺物：土師器1点、須恵器3点、計4点出土。時期：覆土や出土遺物、重複関係から11世紀代と考えられる。

H-16号住居跡（遺構：Fig.13, PL. 3／遺物：Fig.19・20, PL.19）

位置：X86, Y222・223グリッド 主軸方位：N-98°-E 形状・規模等：正方形を呈する。東西3.08m、南北3.33m、壁現高27cm。面積：10.26m² 床面：平坦で堅地な貼床。窯：東壁南寄りに位置する。全長(65)cm、最大幅78cm、焚口部幅42cm。構築材に粘土を用いる。貯蔵穴等：南西隅に円形の貯蔵穴が設置される。南壁近くで浅い柱穴が1基確認された。周溝：なし 重複：H-1・13・17号住居跡と重複し、新旧関係はH-17→H-13本遺構→H-1の順である。H-1・13号住居跡との時期差はそれほどないと考えられる。出土遺物：土師器296点、須恵器167点、灰釉陶器4点、綠釉陶器1点、瓦9点、鉄製品1点、石製品1点、計479点出土。そのうち須恵坏1点、綠釉陶器椀破片1点を図示。時期：覆土や出土遺物、重複関係から10世紀中～後半と考えられる。

H-17号住居跡（遺構：Fig.14, PL. 3／遺物：Fig.19, PL.19）

位置：X85・86, Y221～223グリッド 主軸方位：N-101°-E 形状・規模等：長方形を呈する。東西4.65m、南北5.82m、壁現高57cm。面積：25.50m² 床面：平坦で堅地な貼床。窯：東壁中央やや南寄りに位置する。全長80cm、最大幅123cm、焚口部幅46cm。構築材に粘土と凝灰岩を用いる。両袖部は地山凝灰岩の削り出し。貯蔵穴等：貯蔵穴は不明。柱穴は東・西壁際部にそれぞれ2基、計4基確認された。周溝：あり 重複：H-12・13・16号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構が最も古い。出土遺物：土師器489点、須恵器79点、灰釉陶器3点、石製品2点、計573点出土。そのうち土師器坏1点、甕1点を図示。時期：覆土や出土遺物、重複関係から7世紀後半と考えられる。

H-18号住居跡（遺構：Fig.15, PL. 4／遺物：Fig.19・20, PL.19）

位置：X84・85, Y222・223グリッド 主軸方位：N-106°-E 形状・規模等：長方形を呈する。東西2.54m、南北4.12m、壁現高38cm。面積：(8.59)m² 床面：平坦で堅地な貼床。窯：東壁南寄りに位置する。全長113cm、最大幅55cm、焚口部幅18cm。構築材に粘土と凝灰岩を用いる。貯蔵穴等：南西隅に楕円形の貯蔵穴が設置される。柱穴は確認されなかった。周溝：なし 重複：H-13・19号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構

が最も新しい。 出土遺物：土繩文土器1点、土師器284点、須恵器172点、灰釉陶器10点、瓦2点、石製品1点、鉄製品1点、計471点出土。そのうち須恵器壺2点、椀3点、羽釜1点を図示。 時期：覆土や出土遺物、重複関係から10世紀後半と考えられる。

H-19号住居跡（遺構：Fig.15, PL. 4／遺物：Fig.20, PL.19）

位置：X84・85、Y222・223グリッド 主軸方位：N—82°—E 形状・規模等：正方形を呈する。東西3.92m、南北(3.56)m、壁現高22cm。 面積：(6.01)m² 床面：平坦で堅緻な床面 窈：東壁南寄りに位置する。全長68cm、最大幅51cm、焚口部幅33cm。構築材に粘土と川原石を用いる。 貯蔵穴等：不明 周溝：なし 重複：H-13・18号住居跡と重複し、新旧関係はH-13→本遺構→H-18の順である。 出土遺物：土師器147点、須恵器125点、灰釉陶器5点、計277点出土。そのうち須恵器壺2点、椀1点、羽釜1点、灰釉陶器転用硯1点を図示。 時期：覆土や出土遺物、重複関係から10世紀中葉と考えられる。

（2） 竪穴状遺構

T-1号竪穴状遺構跡（遺構：Fig.16）

位置：X87・88、Y224グリッド 主軸方位：N—96°—E 形状・規模等：長方形を呈する。東西2.53m、南北(1.63)m、壁現高11cm。 面積：(3.37)m² 床面：風倒木の影響により全体的に凹凸のある床面。 柱穴等：南西隅に橢円形の柱穴が1基確認された。 重複：H-2号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構の方がH-2よりも古い。 出土遺物：土師器7点、須恵器1点、計8点出土。 時期：覆土や出土遺物、重複関係から10世紀前半以前と考えられる。

T-2号竪穴状遺構跡（遺構：Fig.15, PL. 4／遺物：Fig.20, PL.19・20）

位置：X87・88、Y222グリッド 主軸方位：N—65°—E 形状・規模等：正方形を呈するものと推定される。東西(2.40)m、南北(2.60)m、壁現高26cm。 面積：(4.58)m² 床面：平坦で堅緻な床面 柱穴等：南東隅に円形の柱穴を1基確認。 重複：H-2・11号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構が最も古い。 出土遺物：土師器21点、須恵器2点、石製品1点、計24点出土。そのうち土師器壺1点、鉢1点、甕1点、短頸壺1点を図示。 時期：覆土や出土遺物、重複関係から6世紀代と考えられる。

（3） 土坑、ピット（遺構：Fig.16, PL. 4／遺物：Fig.20, PL. 20）

土坑・ピットについては、Tab. 4 土坑・ピット・井戸跡等計測表を参照のこと。遺物は、土師器47点、須恵器45点、瓦3点、計95点出土。そのうちD-5号土坑出土の土師器壺1点、P-1号ピット出土の綠釉陶器皿1点を図示。

（4） グリッド等出土遺物

土師器856点、須恵器479点、灰釉陶器21点、瓦8点、鉄製品1点、石製品3点、計1,368点出土。

2区

調査区の概要

元総社蒼海遺跡群南西部、染谷川の左岸台地上に位置し、標高119m、北西から南東へ向かって緩やかに傾斜している。平成25年度に発掘調査を行った元総社蒼海遺跡群（60）B区の南側に隣接する調査区である。竪穴住居跡28軒、溝跡1条、土坑13基、ピット3基、戸門跡1基、落ち込み2ヶ所を検出した。竪穴住居跡は古墳時代後期～平安時代の範疇に帰属するものである。このうち、特徴的な様相を示す住居跡としてH-18号住居跡が挙げられる。H-18号住居跡は本調査区の中で規模が最も大きい住居跡で、カマドが西壁のほぼ中央に造られていた。本調査区内ではこのH-18号住居跡の他にH-16号住居跡が西壁にカマドが造られていた。

土坑は13基確認されているが、覆土からみてこのうち6基が古墳時代～平安時代、4基がAs-B降下以降の所産で、残り3基は時期不明ある。このうち、D-14号土坑からは多数の須恵器壺や皿が出土しており上器埋設土坑の可能性も考えられる。

ピットは3基確認されているが、すべて古墳時代～平安時代の範疇に帰属するものと考えられる。

（1） 竪穴住居跡

H-1号住居跡（遺構：Fig.23, PL.4／遺物：Fig.35, PL.20）

位置：X91・92、Y248・249グリッド 主軸方位：N-88°-E 形状・規模：方形を呈するものと推定される。東西(1.66)m、南北(2.52)m、壁現高29cm 面積：(1.65)m² 床面：ほぼ平坦な床面 窟：不明 廉藏穴等：不明 周溝：なし 重複：なし 出土遺物：土師器97点、須恵器7点、瓦3点、計107点出土。そのうち土師器壺1点を図示。 時期：覆土や出土遺物から7世紀前半と考えられる。

H-2号住居跡（遺構：Fig.23, PL.4・5）

位置：X90・91、Y249・250グリッド 主軸方位：N-97°-E 形状・規模：東西(2.42)m、南北3.52m、壁現高34cm。面積：(3.62)m² 床面：平坦で堅密な貼床。窓：東壁南寄りに位置する。全長52cm、最大幅51cm、焚口部幅28cm。構築材に粘土と川原石を用いる。廉藏穴等：不明 周溝：なし 重複：I-1号戸門跡と重複し、新旧関係は本遺構の方がI-1より古い。出土遺物：土師器150点、須恵器34点、灰釉陶器1点、瓦1点、計186点出土。 時期：覆土や出土遺物、重複関係から10世紀前半と考えられる。

H-3号住居跡（遺構：Fig.23, PL.5／遺物：Fig.35, PL.20）

位置：X89、Y249・250グリッド 主軸方位：N-70°-E 形状・規模：東西(4.18)m、南北2.82m、壁現高38cm。面積：(5.05)m² 床面：ほぼ平坦な床面。窓：不明 廉藏穴等：不明 周溝：なし 重複：H-15・17号住居跡と重複し、新旧関係はH-15→本遺構→H-17の順である。出土遺物：土師器320点、須恵器52点、瓦1点、繩文土器1点、鉄製品2点、計376点出土。そのうち土師器壺1点を図示。 時期：覆土や出土遺物、重複関係から8世紀代と考えられる。

H-4号住居跡（遺構：Fig.24・25, PL.5／遺物：Fig.35, PL.20）

位置：X88・89、Y250・251グリッド 主軸方位：N-94°-E 形状・規模：長方形を呈すると推定される。東西(2.78)m、南北4.68m、壁現高35cm。面積：(5.42)m² 床面：平坦な貼り床。窓：東壁や南寄りに位置する。全長42cm、最大幅52cm、焚口部幅40cm。構築材に粘土、川原石を用いる。廉藏穴等：南東隅に長軸0.85m、短軸0.48m、深さ0.24mの楕円形状のピット状の掘り込みを1基検出した。周溝：なし 重複：H-

H-5号住居跡（遺構：Fig.25、PL.5／遺物：Fig.35、PL.20）
位置：X89・90、Y253・254グリッド 主軸方位：N—85°—E 形状・規模：住居北東の一部が搅乱を受け破壊されているが、長方形を呈すると推定される。東西2.70m、南北3.08m、壁現高34cm。面積：(3.24)m² 床面：堅緻な床面。竈：東壁やや南寄りに位置する。全長52cm、最大幅46cm、焚口部幅44cm。構築材に粘土を用いる。貯蔵穴等：南東隅に設置される。重複：なし 周溝：なし 出土遺物：土師器620点、須恵器181点、灰釉陶器3点、瓦1点、鉄製品1点、計806点出土。そのうち須恵器鉢1点を図示。時期：覆土や出土遺物、重複関係から10世紀後半と考えられる。

H-5号住居跡（遺構：Fig.25、PL.5／遺物：Fig.35、PL.20）

位置：X89・90、Y253・254グリッド 主軸方位：N—85°—E 形状・規模：住居北東の一部が搅乱を受け破壊されているが、長方形を呈すると推定される。東西2.70m、南北3.08m、壁現高34cm。面積：(3.24)m² 床面：堅緻な床面。竈：東壁やや南寄りに位置する。全長52cm、最大幅46cm、焚口部幅44cm。構築材に粘土を用いる。貯蔵穴等：南東隅に設置される。重複：なし 周溝：なし 出土遺物：土師器290点、須恵器220点、瓦6点、鉄製品2点、518点出土。そのうち須恵器楕1点、軒丸瓦1点を図示。時期：覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H-6号住居跡 H-4西壁部に竈の煙道部のみ検出。

H-7号住居跡（遺構：Fig.26／遺物：Fig.35、PL.20）

位置：X89、Y255・256グリッド 主軸方位：N—94°—E 形状・規模：大半が調査区外に存在するため、全体形状は不明。東西(3.74)m、南北(0.72)m、壁現高37cm。面積：(0.88)m² 床面：平坦な床面。竈：不明 貯蔵穴等：不明 周溝：なし 重複：なし 出土遺物：土師器168点、須恵器121点、計289点出土。そのうち須恵器壺1点を図示。時期：覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H-8号住居跡（遺構：Fig.26）

位置：X89、Y253・254グリッド 主軸方位：N—90°—E 形状・規模：大半が調査区外に存在するため、全体形状は不明。東西(0.36)m、南北2.48m。面積：(0.27)m² 床面：平坦な床面。竈：不明 貯蔵穴等：不明 周溝：なし 重複：D-10・14号土坑跡と重複し、新旧関係は本遺構→D-14→D-10の順である。出土遺物：土師器228点、須恵器208点、灰釉陶器1点、瓦9点、石製品1点、計447点出土しているが、その大部分は重複するD-14号土坑に伴うものと推定される。時期：覆土や出土遺物、重複関係から9世紀後半と考えられる。

H-9号住居跡（遺構：Fig.26、PL.5）

位置：X89、Y253グリッド 主軸方位：N—71°—E 形状・規模：東西(0.50)m、南北(1.58)m、壁現高31cm。面積：(0.75)m² 床面：平坦な床面。竈：不明 貯蔵穴等：不明 周溝：なし 重複：H-10・11号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構が最も古い。出土遺物：土師器7点、須恵器6点、計13点出土。時期：不明。

H-10号住居跡（遺構：Fig.26、PL.5／遺物：Fig.35、PL.20）

位置：X89、Y252・253グリッド 主軸方位：N—98°—E 形状・規模：東西(1.70)m、南北(3.50)m、壁現高9cm。面積：(4.03)m² 床面：堅緻な床面。竈：搅乱を受けており、破壊されている。貯蔵穴等：不明 周溝：なし 重複：H-9・11号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構が最も新しい。出土遺物：土師器208点、須恵器163点、瓦7点、鉄製品1点、計379点出土。そのうち須恵器楕1点、須恵器壺1点、灰釉陶器1点を図示。時期：覆土や出土遺物、重複関係から11世紀前半と考えられる。

H-11号住居跡（遺構：Fig.26、PL. 5／遺物：Fig.35、PL.20）

位置：X89、Y252・253グリッド 主軸方位：N-83°-E 形状・規模：東西(0.14)m、南北(2.88)m、壁現高26cm。面積：(0.80) m² 床面：ほぼ平坦な床面。竈：不明 貯蔵穴等：不明 周溝：なし 重複：H-9・10号住居跡と重複し、新旧関係はH-9→本遺構→H-10の順である。出土遺物：土師器55点、須恵器46点、鉄製品1点、計102点出土。そのうち須恵器皿1点、灰釉陶器皿1点、鉄製紡錘車（軸棒）1点を図示。時期：覆土や出土遺物、重複関係から10世紀後半と考えられる。

H-12号住居跡（遺構：Fig.24・25、PL. 5・6／遺物：Fig.35・36、PL.20・21）

位置：X88・89、Y250・251グリッド 主軸方位：N-95°-E 形状・規模：東西(4.04)m、南北4.16m、壁現高36cm。面積：(6.00) m² 床面：堅緻な床面。竈：東壁ほぼ中央に位置する。全長140cm、最大幅96cm、焚口部幅60cm、煙道部72cm。構築材に粘土、川原石を用いる。貯蔵穴等：貯蔵穴は不明。柱穴は調査区西壁隅に半円状の掘り込みを検出したが、残り半分は調査区外となるため、柱穴か否かは不明。周溝：なし 重複：H-4・17号住居跡と重複し、新旧関係はH-17→本遺構→H-4の順である。出土遺物：土師器323点、須恵器37点、計360点出土。そのうち土師器壺1点、甕3点・台付甕1点、須恵器壺1点、長頸瓶1点、砥石1点を図示。時期：覆土や出土遺物、重複関係から8世紀前半と考えられる。

H-13号住居跡（遺構：Fig.27、PL. 6／遺物：Fig.36、PL.21）

位置：X90・91、Y250・251グリッド 主軸方位：N-96°-E 形状・規模：東西3.78m、南北4.14m、壁現高52cm。面積：(6.39) m² 床面：平坦な床面。竈：南東隅に位置する。全長88cm、最大幅54cm、焚口部幅40cm。構築材に粘土、川原石を用いる。貯蔵穴等：不明 周溝：なし 重複：H-14・16号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構が最も新しい。出土遺物：土師器283点須恵器82点、灰釉陶器6点、瓦7点、鉄製品2点、土製品1点、計381点出土。そのうち須恵器長頸壺1点、刀子2点、須恵器転用紡錘車1点を図示。時期：覆土や出土遺物、重複関係から11世紀前半と考えられる。

H-14号住居跡（遺構：Fig.27、PL. 6／遺物：Fig.35、PL.20）

位置：X91・92、Y250・251グリッド 主軸方位：N-65°-E 形状・規模：東西3.30m、南北3.72m、壁現高30cm。面積：(4.72) m² 床面：平坦な床面。竈：東壁中央に位置。全長58cm、最大幅50cm、焚口部幅38cm。構築材に粘土、川原石を用いる。貯蔵穴等：貯蔵穴は不明。柱穴は南西隅の（P 1）、住居中央部の（P 2）、北東隅の（P 3）、それぞれ円形のピット状の掘り込みを検出したが、柱穴か否かは不明。周溝：なし 重複：H-13号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構の方が古い。出土遺物：土師器104点、須恵器71点、灰釉陶器2点、瓦2点、鉄製品3点、計182点出土。そのうち須恵器碗1点、土鍤1点を図示。時期：覆土や出土遺物、重複関係から10世紀代と考えられる。

H-15号住居跡（遺構：Fig.23、PL. 5）

位置：X89、Y249グリッド 主軸方位：攪乱の下部からごく一部の検出であり、不明。形状・規模：東西(0.95)m、南北(1.75)m、壁現高38cm。面積：(1.66) m² 床面：ほぼ平坦な床面。竈：不明 貯蔵穴等：不明 周溝：なし 重複：H-3号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構の方がH-3より古い。出土遺物：土師器6点、須恵器3点、計9点出土。時期：不明。

H-16号住居跡（遺構：Fig.28、PL. 6）

位置：X89・90、Y250グリッド 主軸方位：N—75°—W 形状・規模：住居の北側が搅乱を受けており、全体形状は不明だが、長方形を呈すると思われる。東西(2.00)m、南北2.60m、壁現高36cm。 面積：(1.46)m² 床面：ほぼ平坦な床面。 窓：西壁南寄りに位置する。全長44cm、最大幅52cm、焚口部幅28cm。構築材に粘土、川原石を用いる。 貯蔵穴等：不明 周溝：なし 重複：H-13号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構がH-13よりも古い。 出土遺物：土師器47点、須恵器6点、計53点出土。 時期：覆土や出土遺物、重複関係から8世紀前半と考えられる。

H-17号住居跡（遺構：Fig.24／遺物：Fig.36、PL.21）

位置：X88・89、Y249・250グリッド 主軸方位：N—87°—E 形状・規模：長方形を呈すると推定される。東西(2.20)m、南北(3.22)m、壁現高20cm。 面積：(4.02)m² 床面：ほぼ平坦な床面。 窓：検出されなかつた。 周溝：なし 重複：H-3・12号住居跡と重複し、新旧関係はH-3→本遺構→H-12の順である。 貯蔵穴等：精查を行ったが確認されなかつた。柱穴も確認されなかつた。 出土遺物：土師器53点、須恵器14点、瓦9点、計76点出土。そのうち須恵器壺1点・蓋1点を図示。 時期：覆土や出土遺物、重複関係から8世紀代と考えられる。

H-18号住居跡（遺構：Fig.29、PL. 6／遺物：Fig.36、PL.21）

位置：X90・91、Y253・254グリッド 主軸方位：N—110°—W 形状・規模：正方形を呈する。東西4.50m、南北4.68m、壁現高43cm。 面積：(8.75)m² 床面：ほぼ平坦な床面。 窓：西壁中央に位置する。全長78cm、最大幅(62)cm、焚口部幅38cm。構築材に粘土、川原石を用いる。 貯蔵穴等：柱穴は南西隅の(P1)、南東隅の(P2)、北東隅の(P3)の3基のピット状の掘り込みが検出されているが、柱穴か否かは不明。また、P1は貯蔵穴の可能性がある。 周溝：なし 重複：W-1号溝跡・H-21号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構が最も古い。 出土遺物：縄文土器1点、土師器279点、須恵器126点、瓦9点、石製品3点、鉄製品1点、計419点出土。うち土師器壺1点、棒状鉄製品1点、白玉1点を図示。 時期：覆土や出土遺物、重複関係から7世紀後半と考えられる。

H-19号住居跡（遺構：Fig.29、PL. 6／遺物：Fig.36・37、PL.21・23）

位置：X92・93、Y255・256グリッド 主軸方位：N—78°—E 形状・規模：南側半分が調査区外となり全体形状は不明。東西3.24m、南北(2.20)m、壁現高16cm。 面積：(2.12)m² 床面：平坦な床面。 窓：検出されなかつた。 貯蔵穴等：不明 周溝：なし 重複：なし 出土遺物：土師器181点、須恵器208点、灰釉陶器3点、瓦8点、鉄製品2点、計402点出土。そのうち須恵器壺1点・楕3点を図示。 時期：覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H-20号住居跡（遺構：Fig.30／遺物：Fig.37、PL.21）

位置：X90・91、Y251・252グリッド 主軸方位：N—62°—E 規模：遺構の大半が搅乱の下にあり、精査可能な範囲が限られていた。東西(2.45)m、南北(2.65)m、壁現高30cm。 面積：(6.72)m² 床面：堅緻な床面。 窓：不明 貯蔵穴等：不明 周溝：なし 重複：H-21・27号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構が最も古い。 出土遺物：土師器258点、須恵器24点、計282点出土。そのうち土師器壺2点を図示。 時期：覆土や出土遺物、重複関係から8世紀代と考えられる。

H-21号住居跡（遺構：Fig.30／遺物：Fig.37, PL.21・22）

位置：X89・90、Y253グリッド 主軸方位：N-71°—E 形状・規模：遺構の大半は搅乱の下にあり、東側の一部のみの検出である。全体形状は不明。東西搅乱により不明、南北3.94m、壁現高25cm。面積：(1.66)m² 床面：ほぼ平坦な床面。竈：東壁南寄りに位置する。全長78cm、最大幅52cm、焚口部幅42cm。構築材に粘土を用いる。貯蔵穴等：南東隅に長軸60cm、短軸54cm、深さ23cmの正方形の掘り込みを1基検出した。周溝：なし 重複：H-18・20号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構が最も新しい。出土遺物：土師器324点、須恵器272点、灰釉陶器1点、瓦6点、計603点出土。そのうち土師器壺1点・甕1点、須恵器椀4点を図示。時期：覆土や出土遺物、重複関係から10世紀前半と考えられる。

H-22号住居跡（遺構：Fig.28、PL.7／遺物：Fig.37, PL.22）

位置：X91・92、Y255・256グリッド 主軸方位：N-88°—E 形状・規模：南側大半が調査区外となるため、全体形状は不明。東西3.20m、南北(1.34)m、壁現高19cm。面積：(1.26)m² 床面：ほぼ平坦な床面。竈：不明 貯蔵穴等：不明 周溝：なし 重複：なし 出土遺物：土師器89点、須恵器47点、灰釉陶器2、瓦2点、計140点出土。そのうち須恵器平瓶1点を図示。時期：覆土や出土遺物から10世紀代と考えられる。

H-23号住居跡（遺構：Fig.28、PL.7／遺物：Fig.37, PL.22）

位置：X90・91、Y253グリッド 主軸方位：N-93°—E 形状・規模：長方形を呈する。東西4.14m、南北2.74m、壁現高18cm。面積：(4.14)m² 床面：ほぼ平坦な床面。竈：不明 貯蔵穴等：不明 周溝：なし 重複：H-18号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構の方がH-18より古い。出土遺物：土師器246点、須恵器198点、灰釉陶器4点、鉄製品1点、計449点出土。そのうち須恵器椀5点、刀子1点、釘1点を図示。時期：覆土や出土遺物、重複関係から9世紀後半と考えられる。

H-24号住居跡（遺構：Fig.31・32、PL.7／遺物：Fig.39, PL.23）

位置：X92、Y253・254グリッド 主軸方位：N-80°—E 形状・規模：長方形を呈すると推定される。東西(3.56)m、南北4.58m、壁現高8cm。面積：(6.60)m² 床面：平坦な床面。竈：H-25号住居跡との重複により破壊されており、ほとんど残存していない。全長(70)cm、最大幅(80)cm、焚口部幅(50)cm。貯蔵穴等：貯蔵穴は不明。柱穴は北西の(P1)南西隅の(P2)のいずれも円形のピット状の掘り込みを検出したが、柱穴か否かは不明。周溝：なし 重複：H-25号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構の方がH-25より古い。出土遺物：土師器40点、須恵器47点、瓦2点、計89点出土。そのうち須恵器椀1点を図示。時期：覆土や出土遺物、重複関係から10世紀代と考えられる。

H-25号住居跡（遺構：Fig.31・32、PL.7／遺物：Fig.38, PL.22）

位置：X92・93、Y253・254グリッド 主軸方位：N-84°—E 形状・規模：東側の一部が調査区外となるため、全体形状は不明だが、方形を呈すると推定される。東西3.74m、南北(3.52)m、壁現高20cm。面積：(5.64)m² 床面：堅緻な床面。竈：南東隅に焼土等の痕跡がみられたが、D-5土坑により破壊されていた。貯蔵穴等：貯蔵穴は不明。柱穴は北西隅の(P1)の円形、南西隅に(P2)の正方形、の掘り込みを検出したが、柱穴か否かは不明。周溝：なし 重複：H-24号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構の方が新しい。出土遺物：土師器52点、須恵器47点、計99点出土。そのうち須恵器椀1点・皿1点を図示。時期：覆土や出土遺物、重複関係から10世紀後半から11世紀前半と考えられる。

H-26号住居跡（遺構：Fig.31・32、PL. 7／遺物：Fig.38、PL.22）

位置：X 90・91、Y 254・255グリッド 主軸方位：N—96°—E 形状・規模：長方形を呈する。東西3.86m、南北4.00m、壁現高19cm。面積：(6.35) m² 床面：平坦な床面。竈：東壁中央に位置する。全長62cm、最大幅40cm、焚口部幅24cm。構築材に粘土、凝灰岩を用いる。貯蔵穴等：貯蔵穴は不明。柱穴は住居中央部から3基の掘り込みを検出した。いずれも正方形だが出土遺物がなく、本遺構との関係性は不明。周溝：なし 重複：なし 出土遺物：土師器160点、須恵器95点、灰釉陶器6点、計261点出土。そのうち須恵器1点を図示。時期：覆土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

H-27号住居跡（遺構：Fig.32、PL. 7）

位置：X 89～91、Y 251～253グリッド 主軸方位：N—45°—E 形状・規模：住居中央部から北西隅にかけて擾乱の影響を受けており、全体形状は不明。東西(1.40)m、南北(4.78)m、壁現高45cm。面積：(9.63) m² 床面：擾乱の影響を受けているが、一部貼り床。竈：東壁中央に位置する。全長76cm、最大幅50cm、焚口部幅30cm。構築材に粘土を用いる。貯蔵穴等：不明 周溝：なし 重複：H-20号住居跡・D-1号土坑跡と重複し、新旧関係は本遺構が最も古い。出土遺物：土師器17点、須恵器12点、鉄製品1点、計30点出土。時期：覆土や重複関係から8世紀前半と考えられる。

H-28号住居跡 欠番

H-29号住居跡（遺構：Fig.33、PL. 7）

位置：X 92・93、Y 253・254グリッド 主軸方位：N—98°—E 形状・規模：東西(4.40)m、南北(2.77)m。面積：(5.17) m² 床面：平坦な床面。竈：検出されなかった。貯蔵穴等：不明 周溝：なし 重複：H-24号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構が最も新しい。出土遺物：土師器39点、須恵器18点、灰釉陶器1点、瓦2点、計60点出土。時期：重複関係から11世紀前半と考えられる。

（2）溝跡

W-1号溝跡（遺構：Fig.33、PL. 7／遺物：Fig.38、PL.22）

位置：X 89～91、Y 254・255グリッド 主軸方位：N—64°—E 規模：長さ(8.52)m、上幅118cm 下幅80cm 深さ29cm。形状等：東西方向に走向し、断面U字状を呈する。重複：H-18・26号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構が最も新しい。出土遺物：須恵器1点を図示。覆土のため、重複している住居跡から混入したものと考えられる。時期：中世以降と考えられる。備考：通水の痕跡はみられなかった。

（3）土坑、ピット、井戸跡、落ち込み

（遺構：Fig.24・26・34、PL. 4・5／遺物：Fig.38、Tab. 5、PL. 22・23）

土坑、ピットについては、Tab. 4 土坑・ピット・井戸跡等計測表を参照のこと。

（4）グリッド等出土遺物（遺構：Fig.84・85、PL. 22・23）

縄文土器3点、土師器2,018点、須恵器1,277点、灰釉陶器11点、瓦56点、鉄製品11点、石製品4点、計3,380点を出土。そのうち土師器1点、須恵器1点・碗2点・皿2点を図示。

3 区

調査区の概要

元総社蒼海遺跡群内の国庁推定地案の一つとされている宮鍋神社南東約50mの場所に位置する。西側隣接地において平成26年度に元総社蒼海遺跡群（99）および上野国府33・34トレンチの発掘調査を実施し、堀込地業をもつ建物跡が検出されていることから区画整理事業の曳家移転に伴い緊急的に調査を行った。調査区は從前道路用地であったため、水道管や排水管が布設されており残存状況はあまり良くなかったが、蒼海（99）および国府33・34トレンチで検出した総地業建物跡の南東隅部になると推定される地業跡、竪穴住居跡3軒、土坑3基、ピット3基を検出した。

総地業建物跡は、11世紀代と推定される住居跡（H-2）に一部を壊されていたが、7世紀前半と推定される住居跡（H-3）を掘り込んでその住居の掘り方面（総社砂層面）に總社砂層ブロックの混入した土を入れ版築を行い構築されている状況を確認することが出来た。これにより総地業の南端は7世紀前半の住居を掘り込んでいる部分で確定され、南北約12.4mの規模になるものと推定される。東端については、蒼海（99）で確認された総地業の東西範囲が約12.3mあるのに対して今回確認された推定東西範囲は約11.2mになり約1.1m短くなるが、東端の境部分については、総地業を壊している住居跡（H-2）の下に住居跡（H-3）の埋土が確認できることから東端はこれ以上延びないと考えられる。これについては、総地業の北・西側で確認されている布地業が総地業と重複しており、今回確認された東端より東に延びている部分は布地業部分であり、布地業建物の後に総地業建物を建てた可能性も考えられる。

（1） 建物跡

B-1号建物跡（遺構：Fig.40・41、図版3～7）

位置：X241、Y208グリッド 主軸方位：N-9°-E 形状・規模等：総地業の一部が検出された。上野国府33・34トレンチおよび元総社蒼海遺跡群（99）で検出された総地業建物跡の南東隅部分と考えられ、正方形を呈するものと推定される。東西(11.2)m、南北(12.4)m。堀込地業はH-3号住居跡の床面をわずかに掘り下げた面で版築を行っており、最下層の版築土にはH-3号住居跡の床面に堆積していた灰や炭化物が混入する。重複：H-2・3号住居跡と重複し、新旧関係はH-3→本遺構→H-2の順である。出土遺物：総地業内から遺物はほとんど出土せず、繩文土器片1点、土師器表片2点が出土したのみである。時期：7世紀前半と推定されるH-3号住居跡の覆土を掘り込んで地業を行っており、その堀込地業が11世紀代のH-2号住居跡に掘り込まれていることから、その間に存在したものと考えられる。

（2） 竪穴住居跡

H-1号住居跡（遺構：Fig.41、図版3）

位置：X242、Y208・209グリッド 主軸方位：N-108°-E 形状・規模等：方形を呈するものと推定されるが、大部分は調査区外になる。東西(1.74)m、南北(1.18)m、壁現高24cm。面積：(1.84)m² 床面：ほぼ平坦であるが貼床は確認できなかった。竈：不明 貯蔵穴等：貯蔵穴は確認されなかった。柱穴は1基確認されたが、本遺構に伴うものは不明。周溝：なし 重複：H-2号住居跡、D-2号土坑と重複し、新旧関係はH-2→本遺構→D-2の順である。出土遺物：土師器19点、須恵器7点、計26点出土。時期：覆土や出土遺物、重複関係から10～11世紀代と考えられる。

H-2号住居跡（遺構：Fig.41、口絵3／遺物：Fig.41、PL.23）

位置：X241・242、Y208・209グリッド 主軸方位：N-82°—E 形状・規模等：方形を呈するものと推定される。東西(2.51)m、南北(4.05)m、壁現高30cm。 面積：(18.23)m² 床面：ほぼ平坦で堅地な床面。 窟：不明 貯蔵穴等：貯蔵穴は確認されなかった。柱穴は2基確認されたが、本遺構に伴うものは不明。 周溝：なし 重複：H-1・3号住居跡、B-1号建物跡と重複し、新旧関係はH-3→B-1→本遺構→H-1の順である。 出土遺物：土師器29点、須恵器17点、計46点出土。そのうち須恵器2点を図示。 時期：覆土や出土遺物、重複関係から11世紀代と考えられる。

H-3号住居跡（遺構：Fig.41、口絵3／遺物：Fig.41、PL.23）

位置：X241・242、Y208グリッド 主軸方位：N-88°—E 形状・規模等：方形を呈するものと推定される。東西(3.28)m、南北(2.78)m、壁現高22cm。 面積：(9.10)m² 床面：平坦で堅地な貼床。灰・炭化物が住居西側に多く分布する。 窟：不明。床面の灰・炭化物の分布状況から西壁に窓が設置されていた可能性が考えられる。 貯蔵穴等：不明 周溝：あり 重複：H-2号住居跡、B-1号建物跡と重複し、新旧関係は本遺構→B-1→H-2の順である。 出土遺物：縄文土器1点、土師器175点、須恵器32点、灰釉陶器3点、瓦1点、鉄製品2点、計215点出土。そのうち土師器1点を図示。 時期：覆土や出土遺物、重複関係から7世紀前半と考えられる。

（3） 土坑、ピット（遺構：Fig.41）

土坑・ピットについては、Tab.4 土坑・ピット・井戸跡等計測表を参照のこと。

（4） グリッド等出土遺物

土師器74点、須恵器43点、瓦7点、陶磁器1点、計125点出土。

4区

調査区の概要

元総社苔海遺跡群中西部、染谷川の左岸台地上に位置し、標高120.5m、西から東へ向かって緩やかに傾斜している。平成27年度に発掘調査を行った元総社苔海遺跡群（101）の西側に隣接する調査区である。苔海（101）では掘立柱建物跡や多数の土坑・ピット群が検出されたが、本調査区においても同様に多数の土坑・ピット群が検出されている。竪穴住居跡4軒、溝跡1条、道路状遺構1条、土坑7基、古代のピット20基、As-B降下以降のピット14基を検出した。竪穴住居跡はすべて平安時代に帰属するものと考えられる。土坑・ピット群の中には掘立柱建物跡や柱穴列を想定できるものもあったが、確定には至らなかった。

（1） 竪穴住居跡

H-1号住居跡（遺構：Fig.42、PL.8／遺物：Fig.44・45、PL.23・24）

位置：X124、Y175・176グリッド 主軸方位：N-95°—E 形状・規模等：方形を呈すると推定される。東西2.76m、南北(0.94)m、壁現高42cm。 面積：(2.30)m² 床面：比較的の平坦で部分的に硬化面が確認できる。 窟：東壁南寄りに位置するものと推定される。全長(70)cm、最大幅(20)cm、焚口部幅(10)cm。構築材に粘土、凝灰岩を用いる。 貯蔵穴等：不明 周溝：なし 重複：なし 出土遺物：土師器45点、須恵器58点、灰釉陶器1点、鉄製品1点、計105点出土。そのうち須恵器1点、焼付4点、壺1点、櫃1点を図示。 時期：覆土や出土

遺物、重複関係から10世紀前半と考えられる。

H-2号住居跡（遺構：Fig.42, PL. 8）

位置：X125, Y175・176グリッド　主軸方位：N—93°—E　形状・規模等：方形を呈すると推定される。東西(0.96)m、南北(3.90)m、壁現高39cm。面積：(2.60)m²　床面：平坦で堅地な貼床。竈：不明　貯蔵穴等：貯蔵穴不明。柱穴は西側の壁に近いところで1基検出された。本住居の床面で検出されている石と同じ石材が柱穴内より検出されている。周溝：なし　重複：H-4号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構の方が古い。出土遺物：土師器42点、須恵器19点、瓦1点、鉄製品1点、計63点出土。時期：覆土や出土遺物、重複関係から10世紀代と考えられる。

H-3号住居跡（遺構：Fig.42, PL. 8／遺物：Fig.45, PL. 24）

位置：X122, Y176グリッド　主軸方位：N—97°—E　形状・規模等：方形を呈すると推定される。東西(0.58)m、南北(2.20)m、壁現高13cm。面積：(1.32)m²　床面：南東隅部のみの検出のため不明。竈：東壁南寄りに位置すると推定される。全長86cm、最大幅62cm、焚口部幅44cm。構築材に粘土、瓦を用いる。貯蔵穴等：南東隅に円形の貯蔵穴が設置される。柱穴は確認されなかった。周溝：なし　重複：A-1号道路状遺構と重複し、新旧関係は本遺構の方が古い。出土遺物：土師器33点、須恵器15点、瓦3点、計51点出土。そのうち須恵器羽釜1点、瓦2点を図示。時期：覆土や出土遺物、重複関係から10世紀代と考えられる。

H-4号住居跡（遺構：Fig.42, PL. 8）

位置：X125, Y176・177グリッド　主軸方位：N—94°—E　形状・規模等：方形を呈すると推定される。東西(1.50)m、南北(1.02)m、壁現高8cm。面積：(1.14)m²　床面：平坦で堅地な貼床。竈：不明　貯蔵穴等：不明　周溝：なし　重複：H-2号住居跡と重複し、本遺構の方が新しい。出土遺物：土師器16点、須恵器7点、計23点出土。時期：覆土や出土遺物、重複関係から10～11世紀代と考えられる。

（2）溝跡

W-1号溝跡（遺構：Fig.43, PL. 8）

位置：X124, Y176・177グリッド　主軸方位：N—16°—W　形状等：調査範囲での長さは1.80m、最大上幅0.58m、最大下幅0.32m、深さ13cmを測る。形状はU字形を呈する。重複：なし　出土遺物：土師器1点。時期：覆土から中世と考えられる。

（3）道路状遺構

A-1号道路跡（遺構：Fig.43）

位置：X122・123, Y175～177グリッド　走行方向：N—4°—E　形状・規模等：調査範囲での長さは5.30m、幅1.30～1.46m。南北方向へほぼ直線に延びる。硬化面：中央から北側にかけて顕著な硬化面が確認できるが、南側は部分的に散在するのみである。重複：H-3号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構の方が新しい。出土遺物：土師器1点、須恵器11点、計12点出土。時期：覆土や出土遺物、重複関係から11世紀以降と考えられる。

（4）土坑、ピット（遺構：Fig.43・44／遺物：Fig.45, PL. 24）

土坑・ピットについては、Tab.4 土坑・ピット・井戸跡等計測表を参照のこと。

(5) グリッド等出土遺物

縄文土器 2 点、土師器 2 点、須恵器 1 点、計 5 点を出土。

5 区

調査区の概要

元総社蒼海遺跡群中東部、牛池川の右岸台地上に位置し、標高 119.0m、北から南へ向かって緩やかに傾斜している。平成 21 年度に調査を行った元総社蒼海遺跡群（31）の北側に隣接する調査区である。今回の調査では溝跡 1 条、土坑 4 基を検出した。検出された溝跡は蒼海（31）で検出された東西方向に走向する蒼海城の堀跡（W-1）と推定される。また、溝跡の北側で 4 基確認された土坑のうち D-1・2 号土坑については、骨片等の検出がないものの覆土中より寛永通宝が出土していることから近世の土壤墓の可能性が考えられる。

(1) 溝跡

W-1 号溝跡（遺構：Fig. 46, PL. 9）

位置：X 200・201, Y 144～147 グリッド 主軸方位：N=86°～W 規模：長さ (4.50)m、調査区内での最大上幅 (8.55)m、最大下幅 (2.90)m、深さ (3.25)m 形状等：調査区南端部で東西方向へ直線的に走向する。調査区が東西幅で約 5m と狭く、壁の崩落を防ぐために掘削深度を下げられず、堀の底面までの確認には至らなかつた。
出土遺物：土師器 8 点、須恵器 25 点、鉄・鉄製品 3 点、計 36 点出土。直接蒼海城に関係すると思われる遺物は出土しなかつた。
時期：周辺調査の状況から、蒼海城が機能していた時期（15～17 世紀前半）に帰属する
と考えられる。
備考：蒼海（31）において南側の立ち上がりを検出しており、今回北側の立ち上がりを確認したことにより最大上幅は約 11.7m になることがわかった。

(2) 土坑（遺構：Fig. 46, PL. 9 / 遺物：Fig. 46, PL. 27）

土坑・ピットについては、Tab. 4 土坑・ピット・井戸跡等計測表を参照のこと。寛永通寶 2 点を図示。

(3) グリッド等出土遺物

土師器 8 点、須恵器 25 点、灰釉陶器 1 点、鉄製品 3 点、計 37 点を出土。

6 区

調査区の概要

元総社蒼海遺跡群南西部、染谷川の左岸台地上に位置し、標高 121.5m、北東から南西へ向かって緩やかに傾斜している。平成 23 年度に発掘調査を行った元総社蒼海遺跡群（38）9 区の北側に隣接する調査区である。調査区中央部より東側は調査前に建っていた住宅の基礎部分の影響を受けており、遺構確認面まで壊され残存状況はあまり良くなかった。そのため、遺構は主に調査区の中央より西側で検出されており竪穴住居跡 3 軒、溝跡 2 条、土坑 2 基、ピット 28 基を検出した。竪穴住居跡は古墳時代後期 1 軒、平安時代に帰属するもの 2 軒と推定される。特徴的な様相を示す住居跡として H-2 号住居跡が挙げられる。H-2 号住居跡からは須恵器の墨書耳皿が出土したが、平成 20 年度に本調査区南東の蒼海（22）8 区 H-12 号住居跡から字体・作りのよく似た墨書耳皿が出土している。

溝跡、土坑、ピットは、覆土や出土遺物からいずれも古墳時代～平安時代の所産と考えられる。

(1) 穫穴住居跡

H-1号住居跡 (遺構: Fig.47, PL.10/遺物: Fig.50, PL.24)

位置: X47~49, Y225~226グリッド 主軸方位: N-69°—E 形状・規模: 方形を呈する。東西4.22m、南北(2.42)m、壁現高30cm。面積: (7.92)m² 床面: 平坦で堅緻な床面。竈: 不明 貯蔵穴等: 不明 周溝: なし 重複: なし 出土遺物: 土師器39点、須恵器15点、石器・石製品2点、計56点。そのうち須恵器転用硯1点を図示。時期: 覆土や出土遺物から10世紀代と考えられる。

H-2号住居跡 (遺構: Fig.47, PL.10/遺物: Fig.50, Tab. 5, PL.24)

位置: X50, Y225~226グリッド 主軸方位: N-70°—E 形状・規模: 長方形を呈すると推定される。東西2.90m、南北(2.46)m、壁現高13cm。面積: (6.84)m² 床面: ほぼ平坦な床面。竈: 東壁に位置する。全長58cm、最大幅(50)cm、焚口部幅(44)cm。構築材に粘土を用いる。貯蔵穴等: 住居中央部より(D-2)を検出した。長軸51cm、短軸36cm、深さ16.5cmの楕円形状。床下土坑の可能性もある。住居南東隅の(P1)は、長軸40cm、短軸26cm、深さ14cmの楕円形状を呈する。周溝: なし 重複: なし 出土遺物: 土師器114点、須恵器40点、瓦1点、計155点出土。そのうち須恵器耳皿1点、坏2点、椀3点を図示。時期: 覆土や出土遺物から10世紀代と考えられる。

H-3号住居跡 (遺構: Fig.47, PL.10/遺物: Fig.50, Tab. 5, PL.24)

位置: X48~49, Y222グリッド 主軸方位: N-76°—E 形状・規模: 方形を呈する。東西3.40m、南北(1.88)m、壁現高14cm。面積: (6.08)m² 床面: 堅緻な床面。竈: 東壁に位置する。全長56cm、最大幅60cm、焚口部幅50cm。構築材に粘土、川原石を用いる。焚口部は若干凹み、煙道部は緩やかに立ち上がる。貯蔵穴等: 南東隅に楕円形の貯蔵穴(長軸: 40cm、短軸: 26cm、深さ: 14cm)、柱穴は住居中央やや東寄りの場所で1基確認した(長軸: 40cm、短軸: 26cm、深さ: 14cmの楕円形)。周溝: なし 重複: なし 出土遺物: 土師器32点、須恵器3点、計35点。そのうち土師器坏1点、甕1点を図示。時期: 覆土や出土遺物から7世紀前半と考えられる。

(2) 溝跡

W-1号溝 (遺構: Fig.48, PL.11)

位置: X47~49, Y224~226グリッド 主軸方向: N-46°—E 形状等: 調査範囲での長さは6.72m、最大上幅1.50m、最大下幅0.94m、深さ86cmを測る。形状はU字形を呈する。重複: なし 出土遺物: 土師器81点、須恵器49点、灰釉陶器1点、瓦2点、繩文土器1点、土製品1点、計135点出土。時期: 覆土から古代と考えられる。

W-2号溝 (遺構: Fig.48, PL.11/遺物: Fig.50, PL.24)

位置: X47~50, Y222~225グリッド 主軸方向: N-132°—E 形状等: 調査範囲での長さは15.5m、最大上幅0.84m、最大下幅0.53m、深さ70cmを測る。形状はU字形を呈する。重複: なし 出土遺物: 土師器1点。時期: 覆土から古代と考えられる。

(3) 土坑・ピット (遺構: Fig.48, 49)

土坑・ピットについては、Tab. 4 土坑・ピット・井戸跡等計測表を参照のこと。

(4) グリッド等出土遺物

縄文土器 7点、土師器77点、須恵器47点、瓦4点、鉄製品4点、石製品4点、計143点を出土。

7区

調査区の概要

元総社晉海遺跡群南西部、染谷川の左岸台地上に位置し、標高121.4m、北から南へ向かって緩やかに傾斜している。平成24年度に発掘調査を行った元総社晉海遺跡群(50)の南側に隣接する調査区である。調査区は從前アパート用地であった為GLから約40cm~100cmの間は、コンクリートがら等が多量に存在する搅乱層であった。この搅乱層は部分的に遺構を破壊し、遺構確認は搅乱層の直下で行ったため残存状況はあまり良くなかったが、竪穴住居跡9軒、土坑2基、土塙墓1基を検出した。

竪穴住居跡は奈良・平安時代の範疇に帰属するものと推定され、特徴的な様相を示す住居跡として北壁にカマドを構築しているH-9号住居跡が挙げられる。

土坑は2基確認されているが、覆土および重複関係から2基とも平安時代の所産であると推定される。

土塙墓は全体に残存状態が悪く、四肢骨の一部のみを検出。頭部は確認できなかったが、四肢骨の状況から北頭位の屈葬と推定される。埋土から中世と考えられる。

なお、調査区の北側は緩やかな落ち込みが見られ、縄文土器が比較的多く出土したためグリッドにより掘り下げを行ったが、縄文時代の遺構は検出されなかった。

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡（遺構：Fig.51, PL.11／遺物：Fig.54, PL.25）

位置：X50・51、Y191・192グリッド 主軸方位：N-96°-E 形状・規模等：長方形を呈する。東西3.43m、南北3.98m、壁現高26cm。面積：12.40m² 床面：やや凹凸があるが、竪前を中心に硬化面が確認できる。竪：東壁中央に位置する。全長105cm、最大幅135cm、焚口部幅72cm。構築材に粘土、両袖部に凝灰岩を用いる。貯蔵穴等：南東隅に楕円形の貯蔵穴、中央部に円形の床下土坑が設置される。柱穴は確認されなかった。周溝：なし 重複：なし 出土遺物：縄文土器4点、土師器284点、須恵器96点、石製品2点、計386点出土。そのうち土師器壺1点、甕1点、須恵器壺1点、石製品1点を図示。 時期：覆土や出土遺物、重複関係から9世紀後半と考えられる。

H-2号住居跡（遺構：Fig.51, PL.12／遺物：Fig.54, PL.25・27）

位置：X50・51、Y193・194グリッド 主軸方位：N-97°-E 形状・規模等：長方形を呈する。東西(4.46)m、南北3.75m、壁現高29cm。西側端部は南北方向に給水管が埋設され壊されている。面積：(13.26)m² 床面：平坦で堅地な貼床。竪：東壁やや南寄りに位置する。全長98cm、最大幅120cm、焚口部幅52cm。構築材に粘土、瓦を用いる。貯蔵穴等：南東隅に楕円形の貯蔵穴が設置される。柱穴は4基確認され、P1・P2は主柱穴と想定される。周溝：なし 重複：H-3号住居跡、D-1号土坑と重複し、新旧関係はH-3→本遺構→D-1の順である。出土遺物：縄文土器20点、土師器332点、須恵器73点、陶磁器3点、石製品7点、計435点出土。そのうち土師器壺2点、須恵器壺2点、綠釉陶器椀破片1点を図示。 時期：覆土や出土遺物、重複関係から9世紀後半と考えられる。

H-3号住居跡（遺構：Fig.52, PL.12）

位置：X50・51, Y192・193グリッド 主軸方位：N—101°—E 形状・規模等：方形を呈すると推定される。東西(0.70)m, 南北(4.10)m, 壁現高34cm。面積：(3.40)m² 床面：ほぼ平坦であるが貼り床は確認できなかつた。竈：不明 貯蔵穴等：不明 周溝：なし 重複：H-2号住居跡、D-1号土坑と重複し、本遺構が一番古い。出土遺物：縄文土器1点、土師器19点、須恵器1点、計21点出土。時期：覆土や出土遺物、重複関係から古代と考えられる。

H-4号住居跡（遺構：Fig.52, PL.12／遺物：Fig.54, PL.25）

位置：X50, Y194・195グリッド 主軸方位：N—80°—E 形状・規模等：方形を呈すると推定される。東西(4.90)m, 南北(1.35)m, 壁現高28cm。竈を除く大部分が攪乱により壊されている。面積：(2.06)m² 床面：攪乱により南東・北東隅部しか床面は確認できないが、ほぼ平坦であると推定される。竈：東壁中央に位置する。全長(100)cm、最大幅(93)cm、焚口部幅(40)cm。構築材に粘土、凝灰岩を用いる。貯蔵穴等：南東隅に円形の落ち込みが検出されているが、大半が攪乱により壊されているため貯蔵穴になるか不明である。柱穴は確認されなかつた。周溝：あり 重複：なし 出土遺物：縄文土器4点、土師器82点、須恵器4点、計90点出土。そのうち土師器杯1点を図示。時期：覆土や出土遺物、重複関係から8世紀前半と考えられる。

H-5号住居跡（遺構：Fig.53, PL.12／遺物：Fig.54）

位置：X50, Y195・196グリッド 主軸方位：N—94°—E 形状・規模等：長方形を呈すると推定される。東西3.87m, 南北(1.76)m, 壁現高20cm。西側端部は南北方向に給水管が埋設され壊されている。面積：(6.20)m² 床面：平坦で堅地な貼床。竈：東壁南寄りに位置する。全長55cm、最大幅94cm、焚口部幅46cm。構築材に粘土、両袖部に凝灰岩を用いる。貯蔵穴等：貯蔵穴は南東隅に重複するD-2号土坑に壊されていると考えられる。柱穴は検出されなかつた。周溝：なし 重複：H-6・7・9号住居跡と重複し、新旧関係はH-9→H-6→本遺構→H-7の順である。出土遺物：縄文土器2点、土師器114点、須恵器21点、計137点出土。そのうち土師器甕1点を図示。時期：覆土や出土遺物、重複関係から9世紀後半と考えられる。

H-6号住居跡（遺構：Fig.53, PL.12・13）

位置：X50, Y196・197グリッド 主軸方位：N—84°—E 形状・規模等：方形を呈すると推定される。東西(1.60)m, 南北(0.30)m, 壁現高18cm。竈を除く大部分が攪乱により壊されている。面積：(0.64)m² 床面：不明 竈：東壁に位置する。全長50cm、最大幅40cm、焚口部幅21cm。構築材に粘土、川原石を用いる。貯蔵穴等：不明 周溝なし 重複：H-5号住居跡と重複し、本遺構の方が古い。出土遺物：縄文土器2点、土師器4点、計6点出土。時期：覆土や出土遺物、重複関係から9世紀代と考えられる。

H-7号住居跡（遺構：Fig.53, PL.13／遺物：Fig.54, PL.25）

位置：X50・51, Y196グリッド 主軸方位：N—94°—E 形状・規模等：方形を呈すると推定される。東西(1.42)m, 南北(3.90)m, 壁現高28cm。面積：(4.91)m² 床面：ほぼ平坦であるが貼り床は確認できなかつた。竈：不明 貯蔵穴等：不明 周溝なし 重複：H-5・9号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構が一番新しい。出土遺物：縄文土器10点、土師器183点、須恵器80点、瓦1点、石製品1点、計275点出土。そのうち須恵器椀1点、皿1点を図示。時期：覆土や出土遺物、重複関係から9世紀後半と考えられる。

H-8号住居跡（遺構：Fig.52, PL.13／遺物：Fig.54, PL.25）

位置：X50・51, Y198グリッド 主軸方位：N—88°—E 形状・規模等：方形を呈すると推定される。東西(1.12)m、南北(0.60)m、壁現高23cm。面積：(0.67)m² 床面：ほぼ平坦であるが貼床は確認されなかった。竈：不明 廉蔵穴等：不明 周溝：なし 重複：なし 出土遺物：土師器15点、須恵器12点、瓦3点、計30点出土。そのうち須恵器碗1点を図示。 時期：覆土や出土遺物から9世紀後半から10世紀前半頃と考えられる。

H-9号住居跡（遺構：Fig.53, PL.13）

位置：X50・51, Y195・196グリッド 主軸方位：N—113°—E 形状・規模等：方形を呈する。東西(4.43)m、南北(3.65)m、壁現高21cm。面積：(12.92)m² 床面：やや凹凸があるが、竈前を中心に硬化面が確認できる。竈：北壁に位置する。全長85cm、最大幅93cm、焚口部幅45cm。構築材に粘土、川原石を用いる。貯蔵穴等：不明 周溝：なし 重複：H-5・7号住居跡と重複し、本遺構が一番古い。出土遺物：土師器65点、須恵器5点、石製品1点、計71点出土。竈より土師器甕が出土したが図化にはいたらなかった。 時期：覆土や出土遺物、重複関係から8世紀代と考えられる。

（2） 土坑・土壤墓（遺構：Fig.52, 53／遺物：Fig.54, PL.25）

土坑・土壤墓については、Tab.4 土坑・ピット・井戸跡等計測表を参照のこと。

（3） グリッド等出土遺物

繩文土器59点、土師器79点、須恵器35点、瓦2点、鉄製品1点、石製品5点、計181点を出土。

8区

調査区の概要

元總社菖海遺跡群の中央部、菖海城「本丸」とされる郭の西側にある御靈神社北側に位置する。調査の結果、菖海城の土塁および堀跡等を検出した。土塁は堀の掘削土を使用して構築している状況が確認でき、大きく3層の土層が確認できた。堀跡については土塁の北側と東側で立ち上がりを検出したが、大部分が調査区外となるため堀底の検出には至らなかった。

（1） 土塁（遺構：Fig.55, PL.14）

土塁は東西方向に走行し、長さ：(35,80)m、最大幅：(8,60)m、現況GLからの比高差は最大2,60mを測る。土塁に対して5ヶ所のトレンチを設定して断面を確認した結果、土塁は当時の生活面であるAs-B・C混土層面上に堀の掘削土を盛り、構築されたものと考えられる。

（2） 溝跡

W-1号溝跡（遺構：Fig.55, PL.14）

位置：X173～182, Y183・184グリッド 主軸方向：N—88°—E 形状・規模等：土塁と並行して東西方向に走行する。調査区内での長さ：(36,10)m、最大上幅(2,60)m、深さ(128)cmを測る。土塁北側斜面裾からなだらかに落ち込んでいく状況は確認できるが、大部分が調査区外のため堀底の検出には至らなかった。出土遺物：なし。 時期：中世以降。 備考：本遺構は菖海城堀跡と想定される。

W-2号溝跡（遺構：Fig.55、PL.14）

位置：X182・183、Y184・185グリッド 主軸方向：N—7°—E 形状・規模等：土壘に対し垂直方向に走行する。調査範囲での長さは(3.60)m、最大上幅(3.30)m、深さ(61)cmを測る。土壘東端部からなだらかに落ち込む状況が確認できるが、東側の立ち上がりは、調査区外となるため、全体形状の確認には至らず。また、現況道路が近接しているため、掘削深度を下げられず堀底の確認はできなかった。 出土遺物：なし。 時期：中世以降。 備考：本遺構は蒼海城堀跡と想定される。

W-3号溝跡（遺構：Fig.55、PL.14）

位置：X171・172、Y183・184グリッド 主軸方向：N—8°—E 形状・規模等：調査範囲での長さは(4.00)m、最大上幅(2.80)m、深さ(161)cmを測る。土壘西端部からなだらかに落ち込む状況が確認できるが、堀底の確認には至らず。 出土遺物：なし。 時期：土壘構築以前。

W-4号溝跡（遺構：Fig.55、PL.14）

位置：X172・173、Y184・185グリッド 主軸方向：N—53°—E 形状・規模等：調査範囲での長さは(4.25)m、最大上幅(2.00)m、深さ(43)cmを測る。逆台形状を呈する。 出土遺物：なし。 時期：埋土から古代と想定される。 備考：土壘はW-4号溝が埋め戻され整地された後に構築されている。

（3） ピット

ピットについては、Tab. 4 土坑・ピット・井戸跡等計測表を参照のこと。

（4） グリッド等出土遺物（遺物：Fig.57、PL.27）

縄文土器1点、土師器19点、須恵器8点、灰釉陶器1点、瓦1点、鉄製品1点、石製品6点、軟質陶器23点、古銭3点、計63点を出土。そのうち須恵器坏1点、古銭3点を図示。

9区

調査区の概要

元総社蒼海遺跡群南西部、染谷川の左岸台地上に位置し、標高122m、南西から北東へ向かって緩やかに傾斜している。平成27年度に発掘調査を行った元総社蒼海遺跡群（120）の東側に隣接する調査区である。竪穴住居跡7軒、溝跡1条、土坑2基、ピット5基を検出した。竪穴住居跡は古墳時代～平安時代の範疇に帰属するものである。このうち、特徴的な様相を示す住居跡としてH-1・5号住居跡が挙げられる。H-1号住居跡は古墳時代後期の住居跡で、床面より土師器（坏・甕・瓶・鉢等）がまとまって出土しており、該期の良好なセッタ関係を窺うことのできる良い資料となっている。また、H-5号住居跡からは、破片であるが円面鏡の底部が出土している。

南北方向に走行する溝跡は、元総社蒼海遺跡群（26）7区で検出されているW-1号溝跡の続きと推定され、覆土からAs-B降下以降の所産であると考えられる。

土坑は2基確認されているが、このうち1基が奈良時代～平安時代、もう1基がAs-B降下以降の所産である。また、ピットは5基確認されているが、すべて古墳時代～平安時代の所産である。

(1) 穫穴住居跡

H-1号住居跡（遺構：Fig.58、PL.16／遺物：Fig.61、PL.25・26）

位置：X43～45、Y199・200グリッド 主軸方位：N-78°—E 形状・規模等：正方形を呈する。東西4.50m、南北(4.34)m、壁現高30cm。南壁側上面部は擾乱により壊されている。面積：(18.23)m² 床面：ほぼ平坦であるが縁りは弱く貼床は確認されなかった。竈：東壁中央やや南寄りに位置する。全長117cm、最大幅118cm、焚口部幅34cm。構築材に粘土、両袖部に川原石、支脚に凝灰岩を用いる。貯蔵穴等：南東隅に方形の貯蔵穴が設置される。柱穴は不明。周溝：なし 重複：D-1号土坑と重複し、新旧関係は本遺構→D-1の順である。出土遺物：縄文土器43点、土師器509点、須恵器42点、灰釉陶器3点、鉄製品2点、石製品1点、計600点出土。そのうち土師器壺12点、鉢1点、甕1点、壺1点、瓶1点、手捏1点、鉄製品1点を図示。時期：覆土や出土遺物から6世紀後半と考えられる。

H-2号住居跡（遺構：Fig.59、PL.16／遺物：Fig.61、PL.26）

位置：X45・46、Y199グリッド 主軸方位：N-85°—E 形状・規模等：長方形を呈すると推定される。東西4.10m、南北(2.60)m、壁現高30cm。面積：(11.20)m² 床面：平坦で堅地な貼床。竈：東壁南寄りに位置する。全長(34)cm、最大幅40cm、焚口部幅(23)cm。構築材に粘土を用いる。貯蔵穴等：南東隅に円形の貯蔵穴が設置される。柱穴は確認されなかった。周溝：なし 重複：H-3・5号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構が一番古い。重複：H-3・5号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構が最も古い。出土遺物：縄文土器16点、土師器338点、須恵器74点、瓦26点、鉄製品1点、石製品1点、計456点出土。そのうち土師器甕1点、須恵器椀1点を図示。時期：覆土や出土遺物、重複関係から9世紀後半と考えられる。

H-3号住居跡（遺構：Fig.59、PL.16／遺物：Fig.61、PL.26）

位置：X45・46、Y199・200グリッド 主軸方位：N-97°—E 形状・規模等：長方形を呈すると推定される。東西3.10m、南北(2.80)m、壁現高20cm。面積：(8.64)m² 床面：平坦で堅地な貼床。竈：搅乱により壊されているが東壁に竈の痕跡が確認できる。貯蔵穴等：不明 周溝：なし 重複：H-2号住居跡と重複し、新旧関係はH-2→本遺構の順である。出土遺物：縄文土器5点、土師器231点、須恵器106点、灰釉陶器3点、瓦3点、鉄製品1点、計349点出土。そのうち須恵器壺1点を図示。時期：覆土や出土遺物、重複関係から10世紀前半と考えられる。

H-4号住居跡（遺構：Fig.58）

位置：X42・43、Y199・200グリッド 主軸方位：N-79°—E 形状・規模等：大半は調査区外に存在するため、全体形状は不明であるが、方形を呈すると推定される。東西(1.80)m、南北(1.93)m、壁現高21cm。面積：(2.55)m² 床面：ほぼ平坦であるが硬化面は確認できなかった。炉跡：不明 貯蔵穴等：不明 周溝：なし 重複：なし 出土遺物：縄文土器2点、土師器9点、計11点出土。床面より土師器台付甕の脚部破片が出土したが図化にはいたらなかった。時期：覆土や出土遺物から4世紀代と考えられる。

H-5号住居跡（遺構：Fig.59、PL.16／遺物：Fig.61、PL.26）

位置：X46・47、Y199グリッド 主軸方位：N-83°—E 形状・規模等：長方形を呈すると推定される。東西2.72m、南北(2.75)m、壁現高15cm。面積：(6.94)m² 床面：やや凹凸があるが、竈前を中心へ硬化面が確認できる。竈：搅乱により壊されているが東壁に竈の痕跡が確認できる。貯蔵穴等：南西側に柱穴が確認され、柱穴の周りには周堤状の高まりが部分的にある。周溝なし 重複：H-2号住居跡と重複し、新旧関係

はH-2→本遺構の順である。 出土遺物：縄文土器16点、土師器193点、須恵器78点、灰釉陶器8点、瓦3点、鉄製品2点、石製品1点、計301点出土。そのうち灰釉陶器皿1点、須恵器円面鏡破片1点を図示。 時期：覆土や出土遺物、重複関係から10世紀代と考えられる。

H-6号住居跡（遺構：Fig.59, PL.16）

位置：X47、Y199グリッド 主軸方位：N-82°—E 形状・規模等：長方形を呈すると推定される。東西(2.25)m、南北(2.37)m、壁現高25cm。 面積：(6.02)m² 床面：平坦で堅地な貼床。 窓：W-1号溝跡により埋されているが東南隅に窓の痕跡が確認できる。 廉蔵穴等：南西隅に円形の貯蔵穴が設置される。柱穴は確認されなかった。 周溝：なし 重複：H-7号住居跡、W-1号溝跡と重複し、新旧関係はH-7→本遺構→W-1の順である。 出土遺物：縄文土器6点、土師器194点、須恵器70点、瓦5点、鉄製品1点、石製品1点、計277点出土。床面より瓦・羽釜が出土したが図化にはいたらなかった。 時期：覆土や出土遺物、重複関係から11世紀代と考えられる。

H-7号住居跡（遺構：Fig.60, PL.16）

位置：X47、Y199・200グリッド 主軸方位：N-84°—E 形状・規模等：長方形を呈すると推定される。東西(2.18)m、南北(2.85)m、壁現高29cm。 面積：(6.30)m² 床面：平坦で堅地な貼床。 窓：不明 貯蔵穴等：不明 周溝あり 重複：H-6号住居跡、W-1号溝跡、D-2号土坑と重複し、新旧関係は本遺構が一番古い。 出土遺物：縄文土器8点、土師器99点、須恵器24点、瓦1点、石製品2点、計134点出土。 時期：覆土や出土遺物、重複関係から8世紀代と考えられる。

（2）溝跡

W-1号溝跡（遺構：Fig.60, PL.16）

位置：X47・48、Y199・200グリッド 主軸方位：N-98°—E 形状・規模等：調査範囲での長さは(4.36)m、最大上幅(2.16)m、最大下幅(0.75)m、深さ1.64mを測る。形状は逆台形を呈するものと推定される。 重複：H-6・7号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構が一番新しい。 出土遺物：縄文土器2点、土師器54点、須恵器38点、灰釉陶器1点、瓦3点、石製品1点、陶磁器1点、計100点出土。 時期：元總社苔海遺跡群(26)7区で検出されたW-1号溝跡と同一であると推定される。 覆土や出土遺物、重複関係からAs-B降下以降と考えられる。 備考：流水の痕跡無し。溝の上端へ向かう傾斜の途中にテラス状の部分がある。

（3）土坑、ピット（遺構：Fig.60）

土坑、ピットについては、Tab.4 土坑・ピット・井戸跡等計測表を参照のこと。

（4）グリッド等出土遺物

縄文土器16点、土師器183点、須恵器79点、瓦6点、石製品1点、鉄製品1点、計286点を出土。

Tab. 2 住居跡等一覧表

1区

遺構名	位置	規模(m)			面積	主軸方向	窓		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	発現高(cm)			位置	構築材		土師器	須恵器	その他
H-1	X86・87 Y222・224	3.55	4.36	21	(15.31)	N-101°-E	東壁南寄り	粘土・川原石	無	楕・羽釜	砥石	
H-2	X87・88 Y222・224	3.93	5.72	24	(20.13)	N-105°-E	東壁南寄り	粘土・川原石	無	环・楕	鍍金具	
H-3	X85・86 Y223・224	(1.45)	4.40	23	(6.70)	N-59°-E	東壁中央	粘土・凝灰岩	有	环・甕		
H-4	X85・86 Y223・224	(2.90)	(3.65)	(12)	(10.38)	N-115°-E	東壁南寄り	粘土・川原石	無	环・羽釜	灰輪圓	
H-5	X85・86 Y223・224	4.55	4.63	22	(16.47)	N-8°-E	北壁中央	粘土・川原石	有	环		
H-6	X85 Y223・224	—	—	—	N-96°-E	東壁	粘土・凝灰岩	—		羽釜		
H-7	欠番											
H-8	X86・87 Y224	2.38	(1.67)	6	(3.82)	N-93°-E	—	—	無	皿・羽釜		
H-9	X84・85 Y221・222	3.81	(3.59)	34	(11.20)	N-105°-E	東壁南寄り	粘土・川原石	無	楕・羽釜	鉄製帶	
H-10	X88 Y221	2.61	(2.35)	24	(5.80)	N-98°-E	東壁南寄り	粘土・凝灰岩	無		綠釉	
H-11	X86・87 Y221・222	3.45	4.53	48	15.30	N-86°-E	東壁中央	粘土・凝灰岩	有	环	蓋・壺	
H-12	X86・87 Y221	2.83	(2.52)	41	(6.94)	N-96°-E	東壁南寄り	粘土・川原石	無	楕		
H-13	X85・86 Y222・223	2.56	3.78	15	(5.94)	N-98°-E	東壁南寄り	粘土・川原石	無	环・楕	灰輪楕	
H-14	欠番											
H-15	X85 Y224	(0.52)	(0.93)	11	(0.32)	N-86°-E	—	—	無			
H-16	X86 Y222・223	3.08	3.33	27	10.26	N-98°-E	東壁南寄り	粘土	無	环	綠釉	
H-17	X85・86 Y221・223	4.65	5.82	57	25.50	N-101°-E	東壁中央	粘土・凝灰岩	有	环・甕		
H-18	X84・85 Y222・223	2.54	4.12	38	(8.59)	N-106°-E	東壁南寄り	粘土・凝灰岩	無	环・楕・羽釜		
H-19	X84・85 Y222・223	3.92	(3.56)	22	(6.01)	N-82°-E	東壁南寄り	粘土・川原石	無	环・楕・羽釜		
T-1	X87・88 Y224	2.53	(1.63)	11	(3.37)	N-96°-E	—	—	無			
T-2	X87・88 Y222	(2.40)	(2.60)	26	(4.58)	N-65°-E	—	—	無	环・甕・鉢		

2区

遺構名	位置	規模(m)			面積	主軸方向	窓		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	発現高(cm)			位置	構築材		土師器	須恵器	その他
H-1	X91・92 Y248・249	(1.66)	(2.52)	29	(1.65)	N-88°-E	—	—	無	甕		
H-2	X90・91 Y249・250	(2.42)	3.52	34	(3.62)	N-97°-E	東壁南寄り	粘土・川原石	無	羽釜		
H-3	X89 Y249・250	(4.18)	2.82	38	(5.05)	N-70°-E	—	—	無	环	蓋	
H-4	X88・89 Y250・251	(2.78)	4.68	35	(5.42)	N-94°-E	東壁南寄り	粘土・川原石	無	环・羽釜		
H-5	X89・90 Y253・254	2.70	3.08	34	(3.24)	N-85°-E	東壁南寄り	粘土	無	楕	軒丸瓦	
H-6	遺煙道部のみ検出											
H-7	X89 Y255・256	(3.74)	(0.72)	37	(0.88)	N-94°-E	—	—	無	环		
H-8	X89 Y253・254	(0.36)	2.48	—	(0.27)	N-90°-E	—	—	無	环	文字瓦	
H-9	X89 Y253	(0.50)	(1.58)	31	(0.75)	N-71°-E	—	—	無			

遺構名	位置	規模(m)			面積	主軸方向	遺構		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	壁厚高(cm)			位置	構築材		土師器	須恵器	その他
H-10	X89 Y252 + 253	(1.70)	(3.50)	9	(4.03)	N-98°-E	—	—	無	楕		
H-11	X89 Y252 + 253	(0.14)	(2.88)	26	(0.80)	N-83°-E	—	—	無	皿	灰輪鉢	
H-12	X88 + 89 Y250 + 251	(4.04)	4.16	36	(6.00)	N-95°-E	東壁中央	粘土・川原石	环・甕	長頸瓶	砥石	
H-13	X90 + 91 Y250 + 251	3.78	4.14	52	(6.39)	N-96°-E	東南隅	粘土・川原石	無	壺	紡錘車	
H-14	X91 + 92 Y250 + 251	3.30	3.72	30	(4.72)	N-65°-E	東壁中央	粘土・川原石	無	楕		
H-15	X89 Y249	(0.95)	(1.75)	38	(1.66)	—	—	—	無			
H-16	X89 + 90 Y250	(2.00)	2.60	36	(1.46)	N-75°-W	西壁南寄り	粘土・川原石	無			
H-17	X88 + 89 Y249 + 250	(2.20)	(3.22)	20	(4.02)	N-87°-E	—	—	有	环		
H-18	X90 + 91 Y253 + 254	4.50	4.68	43	(8.75)	N-110°-W	西壁中央	粘土・川原石	無	甕	白玉	
H-19	X92 + 93 Y255 + 256	3.24	(2.20)	16	(2.12)	N-78°-E	—	—	無	环・楕		
H-20	X90 + 91 Y251 + 252	(2.45)	(2.65)	30	(6.72)	N-62°-E	—	—	無	环		
H-21	X89 + 90 Y253	—	3.94	25	(1.66)	N-71°-E	東壁南寄り	粘土	無	环・甕	楕	
H-22	X91 + 92 Y255 + 256	3.20	(1.34)	19	(1.26)	N-88°-E	—	—	無		平瓶	
H-23	X90 + 91 Y253	4.14	2.74	18	(4.14)	N-93°-E	—	—	無	楕	刀子	
H-24	X92 Y253 + 254	(3.56)	4.58	8	(6.60)	N-80°-E	東壁	—	無			
H-25	X92 + 93 Y253 + 254	3.74	(3.52)	20	(5.64)	N-84°-E	—	—	無	皿		
H-26	X90 + 91 Y254 + 255	3.86	4.00	19	(6.35)	N-96°-E	東壁中央	粘土・凝灰岩	無	环	花崗石	
H-27	X89 + 91 Y251 + 253	(1.40)	(4.78)	45	(9.63)	N-45°-E	東壁中央	粘土	無			
H-28	欠番											
H-29	X92 + 93 Y253 + 254	(4.40)	(2.77)	—	(5.17)	N-98°-E	—	—	無			

3区

遺構名	位置	規模(m)			面積	主軸方向	遺構		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	壁厚高(cm)			位置	構築材		土師器	須恵器	その他
B-1	X241 Y208	(11.2)	(12.4)	—	(138.88)	N-9°-E	—	—	—			
H-1	X242 Y208 + 209	(1.74)	(1.18)	24	(1.84)	N-108°-E	—	—	無	环		
H-2	X241 + 242 Y208 + 209	(2.51)	(4.05)	30	(18.23)	N-82°-E	—	—	無	环・羽釜		
H-3	X241 + 242 Y208	(3.28)	(2.78)	22	(9.10)	N-88°-E	—	—	有	环・甕		

4区

遺構名	位置	規模(m)			面積	主軸方向	遺構		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	壁厚高(cm)			位置	構築材		土師器	須恵器	その他
H-1	X124 Y175 + 176	2.76	(0.94)	42	(2.30)	N-95°-E	東壁南寄り	粘土・凝灰岩	無	环・楕・甕		
H-2	X125 Y175 + 176	(0.96)	(3.90)	39	(2.60)	N-93°-E	—	—	無			
H-3	X122 Y176	(0.58)	(2.20)	13	(1.32)	N-97°-E	東壁南寄り	粘土・瓦	無	羽釜		
H-4	X125 Y176 + 177	(1.50)	(1.02)	8	(1.14)	N-94°-E	—	—	無			

6区

遺構名	位置	規模(m)			面積	主軸方向	竪		主な出土遺物			
		東西	南北	變現高(cm)			位置	構築材	周溝	土師器	須恵器	その他
H-1	X47~49 Y225・226	4.22	(2.42)	30	(7.92)	N-69°-E	—	—	無			転用規
H-2	X50 Y225・226	2.90	(2.46)	13	(6.84)	N-70°-E	東壁	粘土	無		环・楕	耳皿
H-3	X48・49 Y222	3.40	(1.88)	14	(6.08)	N-76°-E	東壁	粘土・川原石	無	环・甕		

7区

遺構名	位置	規模(m)			面積	主軸方向	竪		主な出土遺物			
		東西	南北	變現高(cm)			位置	構築材	周溝	土師器	須恵器	その他
H-1	X50・51 Y191・192	3.43	3.98	26	12.40	N-96°-E	東壁中央	粘土・凝灰岩	無	环・甕	环	
H-2	X50・51 Y193・194	(4.46)	3.75	29	(13.26)	N-97°-E	東壁南寄り	粘土・瓦	無	环	环	
H-3	X50・51 Y192・193	(0.70)	(4.10)	34	(3.40)	N-101°-E	—	—	無	环		
H-4	X50 Y194・195	(4.90)	(1.35)	28	(2.06)	N-80°-E	東壁中央	粘土・凝灰岩	有	环		
H-5	X50 Y195・196	3.87	(1.76)	20	(6.20)	N-94°-E	東壁南寄り	粘土・凝灰岩	無	甕		
H-6	X50 Y196・197	(1.60)	(0.30)	18	(0.64)	N-84°-E	東壁	粘土・川原石	無			
H-7	X50・51 Y196	(1.42)	3.90	28	(4.91)	N-94°-E	—	—	無	椭・皿		
H-8	X50・51 Y198	(1.12)	(0.60)	23	(0.67)	N-88°-E	—	—	無	椭		
H-9	X50・51 Y195・196	(4.43)	(3.65)	21	(12.92)	N-113°-E	北壁	粘土・川原石	無	甕		

9区

遺構名	位置	規模(m)			面積	主軸方向	竪		主な出土遺物			
		東西	南北	變現高(cm)			位置	構築材	周溝	土師器	須恵器	その他
H-1	X43~45 Y199・200	4.50	(4.34)	30	(18.23)	N-78°-E	東壁中央	粘土・川原石・凝灰岩	無	环・甕・鉢	刀子	
H-2	X45・46 Y199	4.10	(2.60)	30	(11.20)	N-85°-E	東壁南寄り	粘土	無	甕	椭	
H-3	X45・46 Y199・200	3.10	(2.80)	20	(8.64)	N-97°-E	—	—	無	环		
H-4	X42・43 Y199・200	(1.80)	(1.93)	21	(2.55)	N-79°-E	—	—	無	台付甕		
H-5	X46・47 Y199	2.72	(2.75)	15	(6.94)	N-83°-E	—	—	無		円面鏡	灰陶皿
H-6	X47 Y199	(2.25)	(2.37)	25	(6.02)	N-82°-E	東南隅?	—	無			
H-7	X47 Y199・200	(2.18)	(2.85)	29	(6.30)	N-84°-E	—	—	有			

Tab. 3 溝跡・道路跡計測表

2区

道構名	位置	長さ (m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X89~91 Y254~255	(8,52)	29	27	118	76	80	28	N-64°-E	U字形	中世

4区

道構名	位置	長さ (m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X124 Y176~177	(1,8)	13.0	10.0	58	38	32	20	N-16°-W	U字形	中世
A-1	X122~123 Y175~177	(5,3)	—	—	—	—	146	130	N-4°-E	—	中世?

5区

道構名	位置	長さ (m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X200~201 Y144~147	(4,5)	(325)	—	(855)	—	(290)	—	N-86°-W	逆台形	15~17世紀前半

6区

道構名	位置	長さ (m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X47~49 Y224~226	(6,72)	86	27	150	115	94	54	N-46°-E	逆台形	古代
W-2	X47~50 Y222~225	(15,50)	70	39	84	55	53	14	N-132°-E	逆台形	9世紀中頃

8区

道構名	位置	長さ (m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X173~182 Y183~184	(36,1)	(128)	—	(260)	(80)	(120)	(50)	N-88°-E	逆台形か	15~17世紀前半
W-2	X182~183 Y184~185	(3,60)	(61)	—	(330)	(60)	(90)	(80)	N-7°-E	逆台形か	15~17世紀前半
W-3	X171~173 Y183~185	(4,00)	(161)	—	(280)	(270)	(220)	(205)	N-8°-E	逆台形か	土恩構築以前
W-4	X171~173 Y184~185	(4,25)	(43)	—	(200)	(180)	(80)	(60)	N-53°-E	U字形	古代か

9区

道構名	位置	長さ (m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X47~48 Y199~200	(4,36)	69.5	46.0	(216)	(202)	(75)	(18)	N-98°-E	逆台形	中世

Tab. 4 土坑・ピット・井戸跡等調査表

1区

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備 考
D-1	X88 Y222・223	74	71	25	円 形	土22、須13	As-B 降下以降
D-2	X88 Y222	87	84	22	円 形	土3、須5	
D-3	X84 Y221・222	125	110	28	円 形	土4、須1	
D-4	X88 Y223	(105)	118	38	円 形		As-B 降下以降
D-5	X87 Y223	124	81	31	方 形	土14、須5	
D-6	X85 Y221	118	(86)	54	円 形		
D-7	X85 Y223	98	77	64	椭 圆 形	土1、須2	
D-8	X87 Y223・224	91	71	15	椭 圆 形		
P-1	X86 Y224	62	60	10	椭 圆 形	縁1	古代(平安時代)
P-2	X88 Y222	35	27	32	椭 圆 形		
P-3	X85・86 Y223	45	39	42	円 形	土2、須2、瓦1	
P-4	X85・86 Y223	71	65	26	円 形		

※土…土師器、須…須恵器、縁…綠釉陶器

2区

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備 考
D-1	X91 Y252	184	(170)	34	円 形	土4、須2	
D-2	欠番						
D-3	X91・92 Y249・250	196	108	21	長 方 形	土19、須7	
D-4	X91 Y254	70	70	25	長 方 形	土9、須6、鉄1	
D-5	X93 Y254	(146)	90	50	長 方 形	土8、須10	
D-6	X91 Y253・256	(31)	(19)	25	長 方 形	土125、須49、瓦2	
D-7	X89 Y254	126	92	92	椭 圆 形	土26、須31、瓦1	
D-8	X89 Y254	54	50	50	円 形		
D-9	X89 Y254	86	80	80	円 形	土24、須14、瓦1	
D-10	X89 Y253	64	60	15	円 形	土7、須2	
D-11	X89 Y251	186	98	27	長 方 形	土1	
D-12	X88・89 Y249	202	(100)	29	円 形	土19、須2、瓦1	
D-13	X90 Y255・256	148	76	26	長 方 形		
D-14	X89 Y253・254	260	(108)	37	椭 圆 形		
P-1	X91 Y254	50	30	32	椭 圆 形		
P-2	X92 Y254・255	48	40	36	円 形		
P-3	X91 Y253・254	67	65	36	円 形		
I-1	X90・91 Y249	160	147		円 形		
O-1	X89・90 Y252	23	16	49	不 明	土59、須42	
O-2	X91・92 Y252	346	240	43	長 方 形	土122、須86、瓦4	D-2から変更

※土…土師器、須…須恵器、鉄…鉄製品

3区

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備 考
D-1	X242 Y208	77	73	36	円 形	土42、須14	古代(平安時代)
D-2	X242 Y209	94	(72)	53	円 形	土16、須4、瓦1	As-B 降下以降
D-3	X242 Y208	65	58	20	円 形	土3、須1	古代
P-1	X241 Y208	40	38	20	円 形		古代(堀込地業より新しい)
P-2	X241 Y208	34	34	20	円 形		古代(堀込地業より新しい)
P-3	X241 Y208	(25)	(25)	23	円 形		As-B 降下以降

※土…土師器、須…須恵器

4区

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備 考
D-1	X124 Y176・177	102	96	17	円 形	刀子1	
D-2	X124・125 Y176	112	112	53	円 形	土4、須4	
D-3	X124 Y176	97	(60)	31	椭 圆 形	土11、須11	
D-4	X125 Y176	96	70	73	椭 圆 形		
D-5	X123 Y176	272	52	53	長 方 形	土5、須1	As-B 降下以降
D-6	X125 Y176	106	58	39	円 形	土1、須3	
D-7	X122・123 Y176・177	86	82	24	円 形		

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備 考
P-1	X125 Y176	58	56	38	円 形		
P-2	X123 Y176	42	(30)	42	円 形		
P-3	X123 Y175	68	(62)	27	円 形	鉄1	
P-4	X123 Y175・176	88	80	60	円 形		
P-5	X124 Y176	37	(32)	44	円 形		
P-6	X124 Y176	74	67	77	円 形		
P-7	X125 Y176	34	34	47	円 形		
P-8	X124 Y176	57	57	59	円 形	土1	
P-9	X123 Y176	34	29	32	円 形		
P-10	X124 Y176	24	22	11	円 形		
P-11	X124 Y176	35	(24)	26	円 形		
P-12	X125 Y176	50	48	48	円 形		
P-13	X125 Y176	62	42	40	長 方 形		
P-14	X125 Y176	20	18	31	正 方 形		
P-15	X124 Y176	(68)	(60)	44	椭 圓 形		
P-16	X124 Y176	(64)	(50)	55	椭 圓 形		
P-17	X124 Y176	65	56	78	椭 圓 形	土1	
P-18	X125 Y176	32	30	10	円 形		
P-19	X122・123 Y175	68	64	51	円 形		
P-20	X122・123 Y176	50	50	61	円 形		

※土…土師器、須…須恵器、鉄…鉄製品

5区

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備 考
D-1	X200 Y143・144	100	80	13	椭 圓 形	寛永通宝	近世
D-2	X200 Y143	74	48	17	椭 圓 形	寛永通宝	近世
D-3	X200 Y142	60	56	66	椭 圓 形		
D-4	X200・201 Y143	51	32	15	椭 圓 形		

6区

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備 考
D-1	X48 Y224	127	99	34	椭 圓 形	土5、須3	
D-2	X50 Y225・226	90	75	21	椭 圓 形		
P-1	X48 Y223	45	43	26	円 形		
P-2	X48 Y223	55	45	25	円 形		
P-3	X48 Y223	40	30	35	円 形	土1	
P-4	X48 Y223	30	30	9	円 形		
P-5	X48 Y223・224	43	40	29	円 形	須1	
P-6	X48 Y224	52	44	17	円 形		
P-7	X48 Y224	42	40	53	円 形		
P-8	X48 Y224	44	40	43	円 形		
P-9	X48 Y224	65	68	46	円 形	須4	
P-10	X48 Y224	45	36	27	椭 圓 形		
P-11	X48 Y224	35	30	29	円 形		
P-12	X48・49 Y224	88	85	55	円 形	土1	
P-13	X49 Y224	53	51	45	円 形	須1	
P-14	X48 Y225	54	44	22	円 形	土2	
P-15	X48 Y224	55	30	20	椭 圓 形		
P-16	X48 Y225	50	49	27	円 形		
P-17	X50 Y225	60	48	21	円 形		
P-18	X50 Y225	45	43	16	円 形	土1	
P-19	X50 Y225	28	27	14	円 形		
P-20	X50 Y225	38	29	15	円 形		
P-21	X50 Y225	43	30	12	椭 圓 形	土1	
P-22	X50 Y225	34	33	13	円 形		
P-23	X49 Y225	30	30	17	円 形		
P-24	X49 Y223	46	26	55	椭 圓 形		
P-25	X49 Y223	30	25	24	円 形		
P-26	X49 Y223	38	26	29	円 形		

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備 考
P-27	X 49 Y 223	30	30	24	円 形		
P-28	X 49 Y 224	30	30	22	円 形		

※土…土師器、須…須恵器

7区

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備 考
D-1	X 51 Y 193	(66)	72	56	円 形	土 1	
D-2	X 56 Y 196	96	91	33	円 形	縄 1、土 33、須 17	
DB-1	X 51 Y 190・191	218	155	19	楕 円 形		中世

※土…土師器、須…須恵器、縄…縄文土器

8区

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備 考
P-1	X 172 Y 184	95	60	29	楕 円 形		
P-2	X 171 Y 184	75	65	40	楕 円 形		
P-3	X 171 Y 184	60	55	47	円 形		

9区

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備 考
D-1	X 44・45 Y 199	170	(23)	46	楕 円 形	土 1、須 1	As-B 降下以降
D-2	X 47 Y 199・200	126	123	46	楕 円 形		
P-1	X 47 Y 199	37	29	22	楕 円 形		
P-2	X 43 Y 199	24	24	21	円 形		
P-3	X 43 Y 199	22	22	15	円 形		
P-4	X 43 Y 199	27	27	24	円 形		
P-5	X 43 Y 199	22	14	16	円 形		古代(平安時代)

※土…土師器、須…須恵器

Tab. 5 出土遺物觀察表

1区

番号	出土構 造	器種名	①口径 ②底径	③始 ④底存	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1-1	H-1 床直 楕	直邊器 鉢	①12.0 ②6.0 ③6.2	④2.5 ⑤完形	外底：輪縫整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内底：輪縫整形。	1-57	
1-2	H-1 床直 楕	直邊器 鉢	①13.6 ②7.0 ③8.6	④2.5 ⑤完形	外底：輪縫整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内底：輪縫整形。	6	
1-3	H-1 覆土 羽釜	直邊器 羽釜	①(20.2) ②(18.0)	③— ④—	外底：輪縫整形、鈎貼付。 内底：輪縫整形。	11-24	
1-4	H-2 覆土 环	直邊器 环	①10.6 ②2.7 ③4.4	④2.5 ⑤完形	外底：輪縫整形、底部回転糸切り。 内底：輪縫整形。	6	墨書き？
1-5	H-2 環	直邊器 环	①10.7 ②3.6 ③5.5	④2.5 ⑤完形	外底：輪縫整形、底部回転糸切り。 内底：輪縫整形。	64-72-73	
1-6	H-2 床直 环	直邊器 环	①10.6 ②3.5 ③5.4	④2.5 ⑤完形	外底：輪縫整形、底部回転糸切り。 内底：輪縫整形。	40	
1-7	H-2 環	直邊器 楕	①(10.9) ②4.5 ③5.6	④2.5 ⑤完形	外底：輪縫整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内底：輪縫整形。	59	内外面黒色 観理
1-8	H-2 床直 楕	直邊器 楕	①(11.0) ②4.0 ③5.6	④2.5 ⑤完形	外底：輪縫整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内底：輪縫整形。	23-24	
1-9	H-2 床直 鉢	直邊器 鉢	①(10.8) ②4.3 ③6.0	④2.5 ⑤完形	外底：輪縫整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内底：輪縫整形。	29	
1-10	H-3 床直 环	土師器 环	①(15.6) ②4.7 ③—	④2.5 ⑤完形	外底：口縁部輪削ナデ。体～底部へラ削り。 内底：口縁～体側輪削ナデ。底部ナデ。	9	
1-11	H-3 床直 鉢	土師器 鉢	①(13.3) ②4.2 ③—	④2.5 ⑤完形	外底：口縁部輪削ナデ。体～底部へラ削り。 内底：口縁～体側輪削ナデ。底部ナデ。	1-10-15	
1-12	H-3 床直 环	土師器 环	①(13.8) ②3.2 ③—	④2.5 ⑤完形	外底：口縁部輪削ナデ。体～底部へラ削り。 内底：口縁～体側輪削ナデ。底部ナデ。	14-16	
1-13	H-3 床直 环	土師器 环	①(19.8) ②3.7 ③—	④2.5 ⑤完形	外底：口縁部輪削ナデ。体～底部へラ削り。 内底：口縁～体側輪削ナデ。底部ナデ。	20	
1-14	H-3 床直 裏	土師器 裏	①(22.0) ②(10.0)	③— ④2.5	外底：口縁部輪削ナデ。胴部上位横削ナデ。	19	
1-15	H-4 覆土 环	直邊器 环	①(12.0) ②3.2 ③(5.7)	④2.5 ⑤完形	外底：輪縫整形、底部回転糸切り。 内底：輪縫整形。	覆土	
1-16	H-4 灰陶器 皿	直邊器 皿	①(14.8) ②2.6 ③8.2	④2.5 ⑤完形	外底：輪縫整形、底部回転へらナデ後、高台貼付。 内底：輪縫整形。	H 3-7	
1-17	H-4 直邊器 羽釜	直邊器 羽釜	①(18.0) ②(12.4)	③— ④2.5	外底：輪縫整形、胴部上位横削へラ削り。鈎貼付。	H 3-5	
1-18	H-5 床直 环	土師器 环	①(16.5) ②3.8 ③—	④2.5 ⑤完形	外底：口縁部輪削ナデ。体～底部へラ削り。 内底：口縁～体側輪削ナデ。底部ナデ。	4	
1-19	H-6 直邊器 羽釜	直邊器 羽釜	①(15.5) ②(10.9)	③— ④2.5	外底：輪縫整形、底部斜位へラ削り。鈎貼付。	14	
1-20	H-8 直邊器 皿	直邊器 皿	①(11.6) ②1.5 ③6.5	④2.5 ⑤完形	外底：輪縫整形、底部回転糸切り。	3	
1-21	H-8 直邊器 皿	直邊器 皿	①(23.2) ②(8.5)	③— ④2.5	外底：輪縫整形、鈎貼付。	2	
1-22	H-9 直邊器 楕	直邊器 楕	①(13.6) ②5.2 ③6.9	④2.5 ⑤完形	外底：輪縫整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内底：輪縫整形。	63	
1-23	H-9 環	直邊器 楕	①(13.1) ②4.9	③— ④2.5	外底：輪縫整形、底部回転糸切り後、高台貼付。	36	
1-24	H-9 直邊器 耳皿	直邊器 耳皿	①(9.3) ②6.0	③— ④2.6	外底：輪縫整形、底部回転糸切り。	50	
1-25	H-9 灰陶器 楕	直邊器 楕	①(16.0) ②5.2 ③(7.6)	④2.5 ⑤完形	外底：輪縫整形、底部回転へらナデ後、高台貼付。 内底：輪縫整形。	23	
1-26	H-9 環	土師器 裏	①(19.8) ②(15.4)	③— ④2.5	外底：口縁部輪削ナデ。胴部上位横削へラ削り。中位輪 削へラ削り。 内底：口縁～胴部上位横削ナデ。	69	
1-27	H-9 直邊器 羽釜	直邊器 羽釜	①(19.4) ②26.8 ③7.2	④2.5 ⑤完形	外底：輪縫整形、鈎貼付。 内底：輪縫整形。	55-59	
1-28	H-9 直邊器 羽釜	直邊器 羽釜	①(21.0) ②(14.8)	③— ④2.5	外底：輪縫整形、鈎貼付。 内底：輪縫整形。	51	
1-29	H-11 床直 环	土師器 环	①(12.7) ②3.6 ③—	④2.5 ⑤完形	外底：口縁部輪削ナデ。体～底部へラ削り。 内底：口縁～体側輪削ナデ。底部ナデ。	9	
1-30	H-11 床直 皿	直邊器 皿	①(18.4) ②4.7	③— ④2.5 (痛み)	外底：輪縫整形、天井部回転へラ削り。環状溝み貼付。	19-20	
1-31	H-11 覆土 皿	直邊器 皿	①(13.6) ②2.2	③— ④2.6 (痛み)	外底：輪縫整形、天井部回転へラ削り。環状溝み貼付。	31	
1-32	H-11 床直 皿	直邊器 皿	①(13.8) ②2.2	③— ④2.5 (痛み)	外底：輪縫整形、天井部回転へラ削り。環状溝み貼付。 内底：輪縫整形。	32	
1-33	H-11 床直 皿	直邊器 皿	①(15.6) ②2.3.1	③— ④2.5 (痛み)	外底：輪縫整形、天井部回転へラ削り。環状溝み貼付。	45	
1-34	H-11 覆土 長頭舟	直邊器 長頭舟	①— ②(11.7)	③— ④2.3	外底：輪縫整形、胴部上ナデ。中下部回転へラ削り。 内底：輪縫整形。	58-64	長頭舟欠

番号	出土構造 層位	器種名	①口径 ②高さ ③厚さ	④胎土 ⑤焼成 色調 ⑥遺存度	器種の特徴・整形・調製技術	登録番号	備考
1-35	H-11 床直	須恵器 転用鏡	①10.8 ②11.0 ③0.9(厚)	①細粒 ②還元焰 ③灰白 ④定形	須恵器等を転用。底部外面は十分な使用を窺わせるほど研磨されている。一部墨付。	40	
1-36	H-12 床直	須恵器 壺	①15.2 ②23.5 ③7.6	①細粒 ②還元焰 ③灰黄 ④1/2	外面部・輪縁整形、底部回転角切り後、高台貼付。	15-61	
1-37	H-13 床直	須恵器 壺	①12.8 ②4.2 ③5.9	①細粒 ②焼成化焰 ③灰白 ④3/5	外面部・輪縁整形、底部回転角切り。 内面部・輪縁整形。	16	
1-38	H-13 覆土 壺	須恵器 壺	①12.8 ②4.9 ③5.5	①細粒 ②焼成化焰 ③にぶい黄橙 ④3/5	外面部・輪縁整形、底部回転角切り。 内面部・輪縁整形。	31	
1-39	H-13 床直	須恵器 壺	①10.8 ②3.0 ③5.6	①細粒 ②還元焰 ③灰白 ④1/2	外面部・輪縁整形、底部回転角切り。 内面部・輪縁整形。	52	
1-40	H-13 床直	須恵器 壺	①11.7 ②4.0 ③6.7	①細粒 ②還元焰 ③灰白 ④1/2	外面部・輪縁整形、底部回転角切り。 内面部・輪縁整形。	X85-Y222	
1-41	H-13 覆土 壺	須恵器 壺	①15.0 ②6.5 ③8.8	①細粒 ②焼成化焰 ③橙 ④4/5	外面部・輪縁整形、底部回転へらナデ後、高台貼付。	1	
1-42	H-13 覆土 壺	須恵器 壺	①11.6 ②4.7 ③6.2	①細粒 ②焼成化焰 ③橙 ④定形	外面部・輪縁整形、底部回転角切り後、高台貼付。	23	
1-43	H-13 床直	灰釉陶器 壺	①16.6 ②4.9 ③8.8	①細粒 ②還元焰 ③灰白 ④2/3	外面部・輪縁整形、底部回転へらナデ後、高台貼付。 内面部・輪縁整形。	4-13-19- 20-21	
1-44	H-16 覆土 壺	須恵器 壺	①11.4 ②3.3 ③5.2	①細粒 ②燒し ③暗灰 ④1/2	外面部・輪縁整形、底部回転角切り。 内面部・輪縁整形。	56	黒色處理
1-45	H-17 床直	土師器 壺	①11.0 ②2.8 ③—	①細粒 ②焼成化焰 ③橙 ④1/2	外面部・口縁部横ナデ。体～底部分ヘラ削り。 内面部・口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	51-59	
1-46	H-17 覆土 壺	土師器 壺	①22.8 ②(6.7)	①細粒 ②焼成化焰 ③明赤褐 ④—	外面部・口縁部横ナデ。胸部側面ヘラ削り。 内面部・口縁～胴部上位横ナデ。	10-37	
1-47	H-18 覆土 壺	須恵器 壺	①11.3 ②3.3 ③5.4	①細粒 ②焼成化焰 ③橙 ④4/5	外面部・輪縁整形、底部回転角切り。 内面部・輪縁整形。	36	
1-48	H-18 床直	須恵器 壺	①10.7 ②3.3 ③5.0	①細粒 ②焼成化焰 ③黄橙 ④5/6	外面部・輪縁整形、底部回転角切り。 内面部・輪縁整形。	59	
1-49	H-18 床直	須恵器 壺	①11.6 ②3.8 ③6.6	①細粒 ②還元焰 ③褐灰 ④3/5	外面部・輪縁整形、底部回転角切り後、高台貼付。 内面部・輪縁整形。	54	
1-50	H-18 床直	須恵器 壺	①11.8 ②4.8 ③6.5	①細粒 ②焼成化焰 ③にぶい橙 ④4/5	外面部・輪縁整形、底部回転角切り後、高台貼付。 内面部・輪縁整形。	67	
1-51	H-18 床直	須恵器 壺	①11.7 ②5.0 ③6.0	①細粒 ②焼成化焰 ③にぶい黄 ④定形	外面部・輪縁整形、底部回転角切り後、高台貼付。 内面部・輪縁整形。	68	
1-52	H-18 床直	須恵器 羽釜	①21.6 ②(29.0)	①細粒 ②焼成化焰 ③にぶい橙 ④口・胴部	外面部・輪縁整形、胴部下位部位ヘラ削り。鈎貼付。	42-47	
1-53	H-19 覆土 壺	須恵器 壺	①15.2 ②3.9 ③6.3	①細粒 ②焼成化焰 ③浅黄褐 ④3/4	外面部・輪縁整形、底部回転角切り。 内面部・輪縁整形。	6	
1-54	H-19 床直	須恵器 壺	①11.2 ②4.1 ③6.1	①細粒 ②焼成化焰 ③にぶい黄 ④口・胴部	外面部・輪縁整形、底部回転角切り後、高台貼付。 内面部・輪縁整形。	18	
1-55	H-19 覆土 壺	須恵器 壺	①10.8 ②3.0 ③4.8	①細粒 ②焼成化焰 ③明黄褐 ④3/3	外面部・輪縁整形、底部回転角切り。 内面部・輪縁整形。	X85-Y222	
1-56	H-19 覆土 転用鏡	灰釉陶器 転用鏡	①8.3 ②8.7 ③1.5(厚さ)	①細粒 ②還元焰 ③灰白 ④定形	灰釉陶器等を転用。底部内面は十分な使用を窺わせるほど研磨されている。一部墨付。	X85-Y222	
1-57	H-19 覆土 壺	須恵器 壺	①20.8 ②(11.1)	①細粒 ②焼成化焰 ③にぶい橙 ④口・胴部	外面部・輪縁整形、鈎貼付。 内面部・輪縁整形。	20-21	
1-58	T-2 床直	土師器 壺	①12.6 ②4.9 ③—	①細粒 ②焼成化焰 ③橙 ④定形	外面部・口縁部横ナデ。体～底部分ヘラ削り。 内面部・口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	12	
1-59	T-2 床直	土師器 鉢	①23.3 ②8.2 ③—	①中粒 ②焼成化焰 ③にぶい黄 ④定形	外面部・口縁部横ナデ。体～底部ヘラ削り。 内面部・口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	6	
1-60	T-2 床直	土師器 鉢	①— ②(12.6)	①中粒 ②焼成化焰 ③にぶい黄 ④底部	外面部・体～底部ヘラ削り。 内面部・口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	11	
1-61	T-2 床直	土師器 鉢	①10.8 ②11.8 ③—	①細粒 ②焼成化焰 ③にぶい黄 ④ほぼ 定形	外面部・口縁部横ナデ。胸～底部横位ヘラ削り。 内面部・口縁～体部横ナデ。底部穿孔。	7	内面黒色處理
1-62	D-5 覆土 壺	土師器 壺	①10.4 ②3.2 ③—	①細粒 ②焼成化焰 ③橙 ④2/3	外面部・口縁部横ナデ。体～底部ヘラ削り。 内面部・口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	1	
I-1	H-10 覆土 段皿	縁鉢陶器 段皿	①— ②—	①細粒 ②良好 ③灰オリーブ ④鉢片	外面部・輪縁整形、底部ナデ。		東濃産
I-1	H-16 覆土 壺	縁鉢陶器 壺	①— ②—	①細粒 ②良好 ③灰オリーブ ④鉢片	外面部・輪縁整形、底部ナデ。	4	東濃産
I-1	P-1 縁鉢陶器 皿	縁鉢陶器 皿	①13.6 ②2.6 ③7.3	①細粒 ②良好 ③オリーブ ④鉢片	外面部・輪縁整形、高台貼付。 内面部・輪縁整形。	H3-21	東濃産
I-1	H-2 鉄製品 馬具	鍛金具(2個体が癒合) 「U」字状の吊手部と板状の脚部からなり「八」字状に開く脚部に片面2本ずつの新釘が打たれる。	長さ: 7.5 幅: 5.9 厚さ: 1.8 重さ: 99.9g (2個体分)			54	
I-1	H-2 鉄製品 刀子	断面三角形。長さ: (4.1) 刀部幅: 1.5 基部幅: 0.9 最大厚: 0.3 重さ: 22.0g				17	
I-1	H-9 鉄製品 馬具	法量・特徵等はまとめに記載				60	等
I-1	H-9 鉄製品 刀子	長さ: (10.3) 幅: 2.1 厚さ: 0.4 重さ: 33.6g				60	
I-1	H-13 鉄製品 箭鏃車	長さ: 5.9 幅: 6.0 厚さ: 0.1 重さ: 29.0g				5	筋輪

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ③底径	②器高 ④道存度	⑤胎土 ⑥焼成 ⑦色調 ⑧道存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考	
1—石1	H—1 覆土	砥石	長さ:11.9	幅:4.7	厚さ:3.5	重さ:260g	凝灰岩製 2面使用	1	

2区

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ③底径	②器高 ④道存度	⑤胎土 ⑥焼成 ⑦色調 ⑧道存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
2—1	H—1 床直	土師器 甕	①(21.6)	②(11.3)	③中粒 ④燒化焰 ⑤にぶい	外面:口縁部横ナデ。胴部上位辺にへラ削り。 内面:横ナデ。胴部上位横部へラ削り。	3	
2—2	H—3 覆土	土師器 甕	①(11.8)	②(3.2)	③細粒 ④燒化焰 ⑤相 ⑥2/5	外面:口縁部横ナデ。体~底部へラ削り。 内面:口縁~体部横ナデ。底部ナデ。		
2—3	H—4 床直 高台貼	土師器 甕	①(25.0)	②(13.1)	③細粒 ④燒化焰 ⑤相 ⑥1/5	外面:口縁部横ナデ。高台添付後へラ削り。 内面:横ナデ。	20・27	
2—4	H—5 床直	土師器 甕	①(14.5)	②(5.4)	③細粒 ④燒化焰 ⑤相 ⑥6.5	外面:横ナデ。底部回転糸切り後、高台貼付。 内面:横ナデ。	4	外表面黒色 處理
2—5	H—7 覆土	土師器 甕	①(14.0)	②(3.9)	③細粒 ④燒元焰 ⑤灰白 ⑥4/1	外面:横ナデ。底部回転糸切り。 内面:横ナデ。		
2—6	D—14 覆土	土師器 甕	①(12.6)	②(3.6)	③細粒 ④燒元焰 ⑤にぶい ⑥黄	外面:横ナデ。底部回転糸切り。 内面:横ナデ。	H—8 覆土	
2—7	H—10 覆土	土師器 甕	①(16.0)	②(5.3)	③細粒 ④燒元焰 ⑤オーリー黒 ⑥7.2	外面:横ナデ。底部回転糸切り後、高台貼付。 内面:横ナデ。	23	
2—8	H—10 覆土	土師器 甕	①(14.1)	②(4.1)	③細粒 ④燒元焰 ⑤灰白 ⑥6.1	外面:横ナデ。底部回転糸切り。	24・25	
2—9	H—10 床直	灰釉陶器 甕	①(12.1)	②(3.7)	③細粒 ④燒元焰 ⑤灰白 ⑥6.7	外面:横ナデ。底部回転糸切り後、高台貼付。 内面:横ナデ。	2	
2—10	H—11 覆土	灰釉陶器 甕	①(12.8)	②(2.9)	③細粒 ④燒元焰 ⑤灰白 ⑥3.9	外面:横ナデ。底部回転糸切り後、高台貼付。 内面:横ナデ。		底部ベンガ ラ?付着
2—11	H—11 床直	灰釉陶器 甕	①(12.6)	②(2.4)	③細粒 ④燒元焰 ⑤灰白 ⑥7.2	外面:横ナデ。底部回転糸切り後、高台貼付。 内面:横ナデ。	4	油燈付着
2—12	H—12 床直	土師器 甕	①(16.6)	②(3.2)	③細粒 ④燒化焰 ⑤相 ⑥1/2	外面:口縁部横ナデ。体~底部へラ削り。 内面:口縁~体部横ナデ。底部ナデ。	5	
2—13	H—12 床直 台付甕	土師器 甕	①(11.9)	②(14.3)	③細粒 ④燒化焰 ⑤にぶい ⑥黄	外面:口縁部横ナデ。体~底部辺位へラ削り。 内面:口縁部横ナデ。体部~底部ナデ。へラ削り。 完形	6	
2—14	H—12 甕	土師器 甕	①(11.4)	②(4.0)	③細粒 ④燒元焰 ⑤灰白 ⑥7.7	外面:横ナデ。底部へラ削り。	10	
2—15	H—12 甕	土師器 甕	①(23.2)	②(33.3)	③細粒 ④燒化焰 ⑤にぶい	外面:口縁部横ナデ。体~底部辺位へラ削り。 内面:口縁部横ナデ。体部~底部ナデ。へラ削り。 ほぼ完形	鑑1	
2—16	H—12 甕	土師器 甕	①(22.4)	②(32.3)	③細粒 ④燒化焰 ⑤相 ⑥ほぼ完形	外面:口縁部横ナデ。体~底辺部辺位へラ削り。 内面:口縁部横ナデ。	鑑2	
2—17	H—12 甕	土師器 甕	①(16.0)	②(17.6)	③細粒 ④燒化焰 ⑤にぶい	外面:口縁部横ナデ。体~底辺部辺位へラ削り。 内面:口縁部横ナデ。体~底辺部ナデ。へラ削り。	3	
2—18	H—12 床直 長頭瓶	土師器 甕	①(—)	②(25.1)	③細粒 ④燒元焰 ⑤灰 ⑥8.1	外面:横ナデ。底部回転へラ削り。	7	
2—19	H—13 覆土 長頭瓶	土師器 甕	①(—)	②(10.6)	③細粒 ④燒元焰 ⑤灰白 ⑥4/3	外面:横ナデ。底部回転へラ削り。 内面:横ナデ。		
2—20	H—14 床直	土師器 甕	①(13.6)	②(6.2)	③細粒 ④燒元焰 ⑤灰 ⑥7.5	外面:横ナデ。底部回転糸切り後、高台貼付。 内面:横ナデ。	3	
2—21	H—17 覆土	土師器 甕	①(15.2)	②(24.2)	③細粒 ④燒化焰 ⑤にぶい ⑥黄	外面:横ナデ。底部回転糸切り。 内面:横ナデ。		
2—22	H—17 覆土	土師器 甕	①(19.1)	②(3.3)	③細粒 ④燒元焰 ⑤灰白 ⑥3.7	外面:横ナデ。天井部回転へラ削り。腰端み貼付。 内面:横ナデ。	H—3—2	
2—23	H—18 甕	土師器 甕	①(22.0)	②(30.0)	③細粒 ④燒化焰 ⑤にぶい	外面:口縁部横ナデ。体~底辺位へラ削り。 内面:口縁部横ナデ。体部~底辺ナデ。へラ削り。	鑑1	
2—24	H—19 覆土	土師器 甕	①(13.8)	②(5.2)	③細粒 ④燒化焰 ⑤にぶい	外面:横ナデ。縁書き「奉」。		内部黒色 處理
2—25	H—19 床直	土師器 甕	①(20.5)	②(29.1)	③細粒 ④燒元焰 ⑤オーリー黒 ⑥9.1	外面:横ナデ。底部回転糸切り後、高台貼付。 内面:横ナデ。	2	
2—26	H—20 覆土	土師器 甕	①(18.2)	②(6.2)	③細粒 ④燒化焰 ⑤相 ⑥1/2	外面:口縁部横ナデ。体~底辺へラ削り。 内面:口縁~体部横ナデ。底部ナデ。		
2—27	H—20 覆土	土師器 甕	①(13.0)	②(3.2)	③細粒 ④燒化焰 ⑤相 ⑥1/3	外面:口縁部横ナデ。体~底辺へラ削り。 内面:口縁~体部横ナデ。底部ナデ。		
2—28	H—21 甕	土師器 甕	①(12.6)	②(3.5)	③細粒 ④燒化焰 ⑤相 ⑥4/1	外面:口縁部横ナデ。体~底辺へラ削り。	鑑1	
2—29	H—21 甕	土師器 甕	①(14.0)	②(3.9)	③細粒 ④燒元焰 ⑤にぶい	外面:横ナデ。底部回転糸切り。	X90-Y253 2	
2—30	H—21 甕	土師器 甕	①(14.4)	②(6.5)	③細粒 ④燒元焰 ⑤灰黄 ⑥3.7	外面:横ナデ。底部回転糸切り後、高台貼付。 内面:横ナデ。	3	
2—31	H—21	土師器 甕	①(14.8)	②(4.5)	③細粒 ④燒元焰 ⑤灰 ⑥4/5	外面:横ナデ。底部回転糸切り後、高台貼付。 内面:横ナデ。	7	
2—32	H—21 甕	土師器 甕	①(15.6)	②(5.1)	③細粒 ④燒元焰 ⑤黄 ⑥3.7	外面:横ナデ。底部回転糸切り後、高台貼付。 内面:横ナデ。		

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②底高 ③底径	④胎土 ⑤焼成 ⑥色調 ⑦存度	器種の特徴・整形・調製技術	登録番号	備考
2-33	H-21	直腹 桶	①14.9 ②6.1 ③7.2	①細粒 ②還元焰 ③褐灰 ④ぼけ形	外面：輪縁整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内面：輪縁整形。	2	
2-34	H-21 覆土	土師陶 甕	①13.5 ②(8.0) ③—	①細粒 ②焼成化焰 ③灰褐 ④(1)～胴上部	外面：口縁部楕円ナデ。体～底部腰位へラ削り。 内面：口縁部楕円ナデ。体上部楕円ナデ。ラ削り。		
2-35	H-22	直腹 平甕	①8.8 ②(8.0) ③—	①細粒 ②還元焰 ③灰白 ④口～頸	外面：輪縁整形、 内面：輪縁整形。	1	
2-36	H-23	直腹 桶	①(15.3) ②5.7 ③7.5	①細粒 ②還元焰 ③灰白 ④2/3	外面：輪縁整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内面：輪縁整形。	5・6	
2-37	H-23	直腹 桶	①16.1 ②6.5 ③6.5	①細粒 ②還元焰 ③灰白 ④4/5	外面：輪縁整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内面：輪縁整形。	3	
2-38	H-23	直腹 桶	①(14.0) ②4.8 ③7.5	①細粒 ②還元焰 ③灰白 ④3/5	外面：輪縁整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内面：輪縁整形。[十]の墨書き。	4	墨書き
2-39	H-23 覆土	直腹 桶	①(14.5) ②5.2 ③7.2	①細粒 ②還元焰 ③にぼく黄褐 ④1/2	外面：輪縁整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内面：輪縁整形。		
2-40	H-23	直腹 桶	①(14.4) ②4.6 ③7.4	①細粒 ②焼成化焰 ③灰白 ④2/3	外面：輪縁整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内面：輪縁整形。	7	
2-41	H-25	直腹 甕	①17.3 ②6.2 ③8.4	①細粒 ②焼成化焰 ③灰白 ④3/4	外面：輪縁整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内面：輪縁整形。	3	
2-42	H-25 覆土	直腹 甕	①13.2 ②3.0 ③6.2	①細粒 ②還元焰 ③にぼく黄褐 ④3/4	外面：輪縁整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内面：輪縁整形。	X93-Y254 1	
2-43	H-26 覆土	直腹 甕	①(13.1) ②(3.8)	①細粒 ②還元焰 ③灰白 ④1/4	外面：輪縁整形、底部回転糸切り後。 内面：輪縁整形。		
2-44	W-1 覆土	直腹 甕	①11.1 ②3.4 ③5.6	①細粒 ②還元焰 ③灰白 ④3/4	外面：輪縁整形、底部回転糸切り。 内面：輪縁整形。		
2-45	D-2 覆土	直腹 桶	①(14.7) ②4.8 ③6.1	①細粒 ②還元焰 ③灰白 ④1/2	外面：輪縁整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内面：輪縁整形。		
2-46	D-13 覆土	直腹 甕	①14.4 ②3.7 ③7.4	①細粒 ②還元焰 ③灰白 ④4/5	外面：輪縁整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内面：輪縁整形。		
2-47	D-14 覆土	直腹 甕	①12.7 ②2.7 ③7.2	①細粒 ②還元焰 ③黒 ④4/5	外面：輪縁整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内面：輪縁整形。	H-8 14	内外面黒色 處理
2-48	D-14 覆土	直腹 甕	①(13.4) ②2.3 ③6.3	①細粒 ②還元焰 ③灰黃褐色 ④3/4	外面：輪縁整形、底部回転糸切り。 内面：輪縁整形。	H-8 16	
2-49	D-14 覆土	直腹 甕	①(15.0) ②6.5 ③7.8	①細粒 ②還元焰 ③灰白 ④1/3	外面：輪縁整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内面：輪縁整形。	H-8 12-13	
2-50	D-14 覆土	直腹 甕	①(14.9) ②5.6 ③7.2	①細粒 ②還元焰 ③灰白 ④4形	外面：輪縁整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内面：輪縁整形。	H-8 46	
2-51	D-14 覆土	直腹 甕	①(14.3) ②5.2 ③6.7	①細粒 ②還元焰 ③にぼく黄褐 ④3/5	外面：輪縁整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内面：輪縁整形。	H-8 30-39	
2-52	D-14 覆土	直腹 桶	①(14.5) ②6.6 ③7.1	①細粒 ②還元焰 ③灰 ④1/2	外面：輪縁整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内面：輪縁整形。	H-8 18	
2-53	H-19 床直	直腹 桶	①(14.3) ②6.0 ③6.9	①細粒 ②還元焰 ③黒 ④ぼけ形	外面：輪縁整形、底部回転糸切り後、高台貼付。	X93-Y255 2	内外面黒色 處理
2-54	H-19 覆土	直腹 桶	①(14.8) ②4.7 ③7.6	①細粒 ②還元焰 ③灰黃褐色 ④2/3	外面：輪縁整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内面：輪縁整形。	X92-Y255 3	
2-55	H-24 覆土	直腹 桶	①(15.2) ②6.1 ③7.8	①細粒 ②還元焰 ③灰黃 ④3/5	外面：輪縁整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内面：輪縁整形。	X93-Y254 3	
2-56	X89 Y252	直腹 甕	①— ②(2.0) ③6.6	①細粒 ②還元焰 ③黒褐 ④2/5	外面：輪縁整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内面：輪縁整形。墨書き[?]。	3	内外面黒色 處理
2-57	X90 Y255	直腹 甕	①13.0 ②3.2 ③6.0	①細粒 ②還元焰 ③灰黃 ④3/5	外面：輪縁整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内面：輪縁整形。		
2-58	X90 Y255	土師陶 甕	①(13.4) ②(3.7)	①細粒 ②焼成化焰 ③橙 ④1/3	外面：口縁部楕円ナデ。体～底部へラ削り。 内面：口縁～底部楕円ナデ。底部ナデ。		
2-59	X91 Y253	直腹 甕	①(13.8) ②3.0 ③7.0	①細粒 ②還元焰 ③褐灰 ④1/2	外面：輪縁整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内面：輪縁整形。		
2-60	X92 Y252	直腹 甕	①10.5 ②3.8 ③5.3	①細粒 ②焼成化焰 ③にぼく黄褐色 ④ぼけ形	外面：輪縁整形、底部回転糸切り。	1	
2-61	X92 Y255	直腹 小型甕	①(9.0) ②(2.1) ③4.8	①細粒 ②焼成化焰 ③にぼく黄褐色 ④2/3	外面：輪縁整形、底部回転糸切り。		
2-62	X93 Y255	直腹 桶	①(14.9) ②6.7 ③6.5	①細粒 ②還元焰 ③灰白 ④3/5	外面：輪縁整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内面：輪縁整形。	1	
2-鉄1	H-11 鉄製品 鉄鋤頭	長さ	18.6	幅0.6 厚さ25.8g		2	鉄棒
2-鉄2	H-13 鉄製品 刀子	断面三角形	長さ9.8	刃幅1.1 最大厚0.3 重さ13.2g			
2-鉄3	H-13 鉄製品 刀子	断面三角形	長さ4.8	刃幅1.2 最大厚0.3 重さ5.1g			
2-鉄3	H-18 鉄製品 伏鉄製品	同一個体と推定される。棒状の鉄製品。断面は四角形状。	長さ33.2	幅0.7 重さ57.7g			
2-鉄4	H-18 鉄製品 伏鉄製品						
2-鉄5	H-18 鉄製品 伏鉄製品						

番号	出土遺構 層・位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	④土台 ⑤焼成 ⑥色調 ⑦遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
2-鉄6	H-23 覆土	鉄製品 刀子			断面三角形。長さ(10.6) 幅刀幅1.0 基部幅0.8 最大厚0.2 重さ14.8g		
2-鉄7	H-23 覆土	鉄製品 釘			角釘。長さ(6.3) 幅0.4 厚さ0.4 重さ5.8g		
2-石1	H-12 覆土	石製品 砥石	長さ6.1 幅3.5 厚さ5.2	重さ200g 砂灰岩製 6面使用		8	
2-石2	H-18 覆土	石製品 臼玉	長さ1.0 幅1.0 厚さ0.5	重さ0.8g 滑石製			
2-石3	H-2 覆土	石製品 砥石	長さ5.0 幅3.9 厚さ2.8	重さ45.8g 砂灰岩製 4面使用			
2-土1	H-13 覆土	土質器 砂利罐車	長さ6.8 幅6.7 厚さ1.3	重さ80g		6	彷彿
2-土2	H-14 埴	土質器 土鍤	長さ(4.1) 幅1.9 厚さ1.8	重さ5g		7	
2-瓦1	H-5 覆土	軒丸瓦	①長さ(12.1) ②厚さ1.4	①細粒 ②焼成焰 ③にぶい焰④瓦当破片	二重脊瓦并蓮草文。	23	

3区

番号	出土遺構 層・位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	④土台 ⑤焼成 ⑥色調 ⑦遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
3-1	H-2 覆土	須恵器 环	①(10.2) ②2.8 ③6.0	①細粒 ②焼成焰 ③橙 ④1/3	外面：輪縁整形、底部回転糸切り。 内面：輪縁整形。	H-3 覆土	
3-2	H-2 覆土	須恵器 环	①(10.0) ②3.6 ③(5.6)	①細粒 ②焼成焰 ③にぶい黄色 ④1/2	外面：輪縁整形、底部回転糸切り。 内面：輪縁整形。	H-3 内面油付 着	
3-3	H-3 覆土	土師器 环	①(12.0) ②(3.6) ③—	①細粒 ②焼成焰 ③橙 ④1/5	外面：口縁部横ナデ。体～底部ヘラ削り。 内面：口縁～体部横ナデ		

4区

番号	出土遺構 層・位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	④土台 ⑤焼成 ⑥色調 ⑦遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
4-1	H-1 床直	須恵器 环	①(12.1) ②4.1 ③6.1	①細粒 ②焼成焰氣味 ③灰黄 ④完形	外面：輪縁整形、底部回転糸切り。 内面：輪縁整形。	12	
4-2	H-1 覆土	須恵器 环	①(12.8) ②5.1 ③6.0	①細粒 ②焼成焰 ③灰黄 ④1/2	外面：輪縁整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内面：輪縁整形。	2	
4-3	H-1 床直	須恵器 环	①(13.9) ②4.9 ③6.4	①細粒 ②焼成焰氣味 ③にぶい黃色 ④3/5	外面：輪縁整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内面：輪縁整形。	10	内部油付 着
4-4	H-1 床直	須恵器 环	①(13.0) ②5.4 ③(5.6)	①細粒 ②透光焰 ③灰白 ④ほぼ完形	外面：輪縁整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内面：輪縁整形。	14	内部油付 着
4-5	H-1 床直	須恵器 环	①(13.4) ②4.7 ③6.7	①細粒 ②透光焰 ③灰白 ④3/5	外面：輪縁整形、底部回転糸切り後、高台貼付。 内面：輪縁整形。	17	
4-6	H-1 床直	灰釉陶器 壺	①— ②(11.2) ③(8.8)	①細粒 ②透光焰 ③灰白 ④削～底部	外面：輪縁整形、底部回転ナデ後、高台貼付。 内面：輪縁整形。	15	
4-7	H-1 覆土	須恵器 瓶	①— ②(25.6) ③—	①細粒 ②焼成焰 ③灰黄 ④削～底部	外面：輪縁整形、胴部下段側面ヘラ削り。鈕貼付。 内面：輪縁整形。	7・8	
4-8	H-3 床直	須恵器 釜	①(16.1) ②(13.6) ③—	①細粒 ②透光焰 ③灰 ④—	外面：輪縁整形、鈕貼付。 内面：輪縁整形。	3	
4-9	P-12 覆土	土師器 环	①(12.6) ②4.0 ③7.0	①細粒 ②焼成焰 ③橙 ④ほぼ完形	外面：口縁部横ナデ。体～底部ヘラ削り。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	5	
4-鉄1	D-1 覆土	鉄製品 刀子?			断面三角形。長さ：(8.4) 刀幅1.3 基部幅0.7 最大厚0.2 重さ：8.1g	1	
4-石1	全体覆土	砾石	長さ：6.4 幅：3.3 厚さ：2.2	重さ：80g 砂灰岩製 3面使用			
4-瓦1	H-3 埴	平瓦	①長さ (28.6) ②厚さ 2.1	①細粒 ②良好 ③灰 ④1/4	凹面：布目。 凸面：ナデ。2箇所に「廣」のスタンプ	13	
4-瓦2	H-3 埴	平瓦	①長さ (28.6) ②厚さ 2.1	①細粒 ②良好 ③灰 ④破片	凹面：布目。「大」のヘラ書き文字。 凸面：ナデ。	14	

5区

番号	出土遺構 層・位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	④土台 ⑤焼成 ⑥色調 ⑦遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
5-鉄1	D-1 覆土	鉄貨 銅製品	寛永通宝(初鋳：1636年)	直径2.30 空孔径0.65 厚さ0.11 重さ2.8g 依存度：完形			
5-鉄2	D-2 覆土	鉄貨 銅製品	寛永通宝(初鋳：1636年)	直径2.25 空孔径0.58 厚さ0.12 重さ3.2g 依存度：完形			

6区

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径 ④存度	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
6-1	H-1 床直	須恵器 軋用器	①7.3 ②0.6 ③—	①細粒 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色 ④完形	須恵器軋用。底部外表面を使用。墨付着。	4	
6-2	H-2 覆土	須恵器 耳皿	①8.7 ②3.0 ③4.5	①細粒 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色 ④完形	外面：輪縁整形。底部に墨書き。	2	墨書き
6-3	H-2 床直	須恵器 鉢	①13.2 ②3.6 ③6.2	①細粒 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色 ④1/2	外面：輪縁整形。底部回転糸切り。	5	
6-4	H-2 覆土	須恵器 鉢	①13.0 ②4.5 ③6.5	①細粒 ②酸化焰 ③灰灰 ④1/2	外面：輪縁整形。底部回転糸切りか？		油槽付着
6-5	H-2 床直	須恵器 鉢	①14.4 ②5.1 ③6.1	①細粒 ②酸化焰 ③灰白 ④1/3	外面：輪縁整形。底部回転糸切り後、高台貼付。	3	
6-6	H-2 床直	須恵器 鉢	①14.7 ②4.4 ③6.6	①細粒 ②還元焰 ③にぶい黄褐色 ④2/5	外面：輪縁整形。底部回転糸切り後、高台貼付。	1	
6-7	H-2 覆土	須恵器 鉢	①13.9 ②4.9 ③7.0	①細粒 ②還元焰 ③灰白 ④1/4	外面：輪縁整形。底部回転糸切り後、高台貼付。	9	
6-8	H-3 電	土師器 甕	①23.8 ②20.0 ③—	①中粒 ②酸化焰 ③にぶい赤褐色 ④口部 肩部	外面：口縁部横ナデ。胸部上位窓位へラ削り。 内面：口縁～肩部上位窓ナデ。		カマド3
6-9	H-3 電	土師器 壺	①13.0 ②4.0 ③—	①細粒 ②酸化焰 ③橙 ④1/3	外面：口縁部横ナデ。体～底部へラ削り。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。		カマド1
6-10	W-2 覆土	土師器 壺	①12.0 ②3.0 ③—	①細粒 ②酸化焰 ③黒褐 ④1/3	外面：口縁部横ナデ。体～底部へラ削り。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。		
6-石1	H-1 床直	石瓶	長さ：10.0 幅：6.1 厚さ：1.6 重さ：100.5g	石材：黑色頁岩			

7区

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径 ④存度	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
7-1	H-1 床直	土師器 鉢	①12.8 ②3.3 ③9.7	①細粒 ②酸化焰 ③相 ④2/5	外面：口縁部横ナデ。体～底部へラ削り。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	2・29	
7-2	H-1 床直	土師器 甕	①18.4 ②8.7 ③—	①細粒 ②酸化焰 ③相 ④口縁部	外面：口縁部横ナデ。胸部上位窓位へラ削り。 内面：口縁～胸部上位窓ナデ。	24・26	
7-3	H-1 床直	須恵器 鉢	①12.3 ②3.8 ③6.2	①細粒 ②還元焰 ③灰 ④2/5	外面：輪縁整形。底部回転糸切り。	20	
7-4	H-2 床直	土師器 鉢	①12.1 ②3.6 ③—	①細粒 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色 ④1/4	外面：口縁部横ナデ。体～底部へラ削り。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	16	
7-5	H-2 覆土	土師器 鉢	①12.0 ②3.4 ③10.0	①細粒 ②良好 ③にぶい黄褐色 ④1/4	外面：口縁部横ナデ。体～底部へラ削り。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	17	指標瓶有
7-6	H-2 床直	須恵器 鉢	①12.8 ②3.6 ③8.2	①細粒 ②還元焰 ③灰白 ④1/5	外面：輪縁整形。底部へラ削り。	10	
7-7	H-2 床直	須恵器 鉢	①11.5 ②3.8 ③6.2	①細粒 ②還元焰 ③灰灰 ④完形	外面：輪縁整形。底部回転糸切り。	33	
7-8	H-4 床直	土師器 鉢	①11.8 ②4.3 ③—	①細粒 ②酸化焰 ③相 ④完形	外面：口縁部横ナデ。体～底部へラ削り。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	3	
7-9	H-5 床直	土師器 甕	①18.4 ②15.3 ③—	①細粒 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色 ④口縁部	外面：口縁部横ナデ。胸部上位窓位へラ削り。 内面：口縁～胸部上位窓ナデ。	3	整形鋏 指標瓶有
7-10	H-7 覆土	須恵器 鉢	①14.8 ②5.2 ③7.0	①細粒 ②還元焰 ③灰白 ④2/5	外面：輪縁整形。底部回転糸切り後、高台貼付。	2	
7-11	H-7 覆土	須恵器 鉢	①12.5 ②3.0 ③6.1	①細粒 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色 ④2/5	外面：輪縁整形。底部回転糸切り後、高台貼付。	1	
7-12	H-8 覆土	須恵器 鉢	①14.8 ②5.2 ③7.3	①細粒 ②還元焰 ③灰灰 ④2/3	外面：輪縁整形。底部回転糸切り後、高台貼付。	2	
7-13	D-2 覆土	須恵器 鉢	①12.6 ②4.2 ③6.3	①細粒 ②還元焰 ③灰黃 ④4/5	外面：輪縁整形。底部回転糸切り。	1	
7-14	D-2 覆土	須恵器 鉢	①12.7 ②4.1 ③6.1	①細粒 ②酸化焰 ③相 ④1/3	外面：輪縁整形。底部回転糸切り。	2・3・7	
7-15	D-2 覆土	須恵器 鉢	①14.7 ②4.5 ③7.1	①細粒 ②酸化焰 ③灰白 ④3/5	外面：輪縁整形。底部回転糸切り後、高台貼付。	8	底部に一部 油槽付着
7-縁1	H-2 電	縁箱陶 鉢	①— ②— ③—	①細粒 ②良好 ③灰オリーブ ④破片	外面：輪縁整形。		
7-石1	H-1 覆土	砾石	長さ：7.6 幅：4.9 厚さ：4.9	重さ：180g 砾石岩質	2面使用	3	

8区

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径 ④存度	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
8-1	3トレンチ 覆土	須恵器 小型鉢	①10.2 ②2.0 ③7.4	①細粒 ②酸化焰 ③浅黄褐 ④1/2	外面：輪縁整形。底部回転糸切り。	1	焼付着
8-鉢1	全体 電	鉢 銅質品	寛永通宝(初判：1636年)	直径：2.75 穿孔径：0.61 厚さ：0.11 重さ：4.5g 依存度：完形		2	

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②高さ ③底径	④土台 ⑤焼成 ⑥色調 ⑦造存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
8-鉄2	全体 覆土	銅貨 銅製品	文久永保(初鋳: 1863年)	直径: 2.60 穿孔径: 0.65 厚さ: 0.09 重さ: 2.1g 依存度: 完形		4	
8-鉄3	全体 覆土	銅貨 銅製品	天保通宝(初鋳: 1835年)	直径: 4.8 穿孔径: 0.61 厚さ: 0.28 重さ: 20.6g 依存度: 完形		3	

9区

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②高さ ③底径	④土台 ⑤焼成 ⑥色調 ⑦造存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
9-1	H-1 床直	土師器 环	①11.2 ②3.6 ③—	①細粒 ②焼成化 ③粗 ④ほぼ完形	外底: 口縁部楕円ナデ。体~底部へラ削り。 内底: 口縁~体部楕円ナデ。底部ナデ。	1	埋付着
9-2	H-1 床直	土師器 环	①11.7 ②4.3 ③—	①細粒 ②焼成化 ③粗 ④4/5	外底: 口縁部楕円ナデ。体~底部へラ削り。 内底: 口縁~体部楕円ナデ。底部ナデ。	2	
9-3	H-1 床直	土師器 环	①11.0 ②3.5 ③—	①細粒 ②焼成化 ③粗 ④完形	外底: 口縁部楕円ナデ。体~底部へラ削り。 内底: 口縁~体部楕円ナデ。底部ナデ。	5	
9-4	H-1 床直	土師器 环	①11.4 ②3.9 ③—	①細粒 ②焼成化 ③粗 ④完形	外底: 口縁部楕円ナデ。体~底部へラ削り。 内底: 口縁~体部楕円ナデ。底部ナデ。	14	
9-5	H-1 床直	土師器 环	①11.0 ②3.1 ③—	①細粒 ②焼成化 ③粗 ④1/2	外底: 口縁部楕円ナデ。体~底部へラ削り。 内底: 口縁~体部楕円ナデ。底部ナデ。	9+15	
9-6	H-1 床直	土師器 环	①11.2 ②3.8 ③—	①細粒 ②焼成化 ③粗 ④完形	外底: 口縁部楕円ナデ。体~底部へラ削り。 内底: 口縁~体部楕円ナデ。底部ナデ。	16	
9-7	H-1 床直	土師器 环	①11.0 ②3.9 ③—	①細粒 ②焼成化 ③粗 ④完形	外底: 口縁部楕円ナデ。体~底部へラ削り。 内底: 口縁~体部楕円ナデ。底部ナデ。	13+21	
9-8	H-1 床直	土師器 环	①11.4 ②4.2 ③—	①細粒 ②焼成化 ③粗 ④完形	外底: 口縁部楕円ナデ。体~底部へラ削り。 内底: 口縁~体部楕円ナデ。底部ナデ。	24	
9-9	H-1 床直	土師器 环	①11.1 ②4.3 ③—	①細粒 ②焼成化 ③粗 ④完形	外底: 口縁部楕円ナデ。体~底部へラ削り。 内底: 口縁~体部楕円ナデ。底部ナデ。	25	
9-10	H-1 床直	土師器 环	①11.1 ②3.6 ③—	①細粒 ②焼成化 ③粗 ④ほぼ完形	外底: 口縁部楕円ナデ。体~底部へラ削り。 内底: 口縁~体部楕円ナデ。底部ナデ。	26	
9-11	H-1 床直	土師器 环	①12.2 ②3.9 ③—	①細粒 ②焼成化 ③粗 ④完形	外底: 口縁部楕円ナデ。体~底部へラ削り。 内底: 口縁~体部楕円ナデ。底部ナデ。	27	
9-12	H-1 床直	土師器 环	①14.4 ②4.7 ③—	①細粒 ②焼成化 ③にぶい黄澄 ④ほぼ 完形	外底: 口縁部楕円ナデ。体~底部へラ削り。 内底: 口縁~体部楕円ナデ。底部ナデ。	28	
9-13	H-1 覆土	土師器 手程	①(4.0) ②3.6 ②4.4	①細粒 ②焼成化 ③浅黄澄 ④2/3	外底: 口縁部楕円ナデ。体~底部へラ削り。 内底: 口縁~体部楕円ナデ。底部ナデ。	覆土	
9-14	H-1 床直 跡	土師器 环	①(26.9) ②10.3 ③—	①細粒 ②焼成化 ③浅黄澄 ④3/5	外底: 口縁部楕円ナデ。体~底部焼斜位へラ削り。 内底: 口縁~体部楕円ナデ。底部ナデ。	8	
9-15	H-1 床直 小切妻	土師器 环	①(12.6) ②10.4 ③—	①細粒 ②焼成化 ③にぶい黄澄 ④3/5	外底: 口縁部楕円ナデ。胴~底部楕円位へラ削り。 内底: 口縁~体部楕円ナデ。底部ナデ。	10+12+22	
9-16	H-1 床直 小型器	土師器 环	①(8.4) ②(7.0) ③—	①細粒 ②焼成化 ③粗 ④1/2	外底: 口縁部楕円ナデ。胴~底部焼斜位へラ削り。 内底: 口縁~体部楕円ナデ。底部ナデ。	9	
9-17	H-1 床直 蓋	土師器 环	①(17.4) ②10.1 ③4.7	①細粒 ②焼成化 ③にぶい黄澄 ④4/5	外底: 口縁部楕円ナデ。胴~底部焼斜位へラ削り。 内底: 口縁~体部楕円ナデ。底部ナデ。	7+8+11	
9-18	H-2 床直 蓋	土師器 环	①(18.6) ②(6.7) ③—	①細粒 ②焼成化 ③粗 ④1/1部	外底: 口縁部楕円ナデ。胴部上位焼位へラ削り。 内底: 口縁~胴部上位焼位ナデ。	8	
9-19	H-2 直筒 柄	直筒器 柄	①(15.9) ②6.5 ③8.5	①細粒 ②還元焰 ③灰白 ④1/3	外底: 燃燒整形。底部凹軸孔切り後、高台貼付。	6	
9-20	H-3 直筒 柄	直筒器 柄	①(9.4) ②3.7 ③3.9	①細粒 ②還元焰 ③灰 ④1/2	外底: 燃燒整形。底部凹軸孔切り後、高台貼付。	覆土	
9-21	H-5 灰釉陶器 直筒 柄	灰釉陶器 直筒 柄	①(15.2) ②3.9 ③7.4	①細粒 ②還元焰 ③灰黄 ④1/3	外底: 燃燒整形。底部凹軸孔ナデ後、高台貼付。	4	
9-22	H-5 直筒 柄	直筒器 柄	①— ②(3.5) ③(17.8)	①細粒 ②還元焰 ③灰 (④底部破片)	外底: 燃燒整形。 内底: 燃燒整形。		
9-鉄1	H-1 覆土	鉄製品 刀子	断面三角形。長さ: 7.4	刃部幅: 0.8 基部幅: 0.5 最大厚: 0.2 重さ: 4.9g			

注) ① 層位は、「床直」: 床面より10cm以内。「覆土」: 床面より10cm以上。「難」: 難から出た土とした。

② 口径、高さ、底径等の単位はcmである。現存値を()、復元値を〔 〕で示した。

VI まとめ

本年度調査を実施した元總社蒼海遺跡群（122）からは古墳時代から奈良・平安時代にかけての集落跡、中世の蒼海域関連遺構等を検出した。各調査区の概要についてはV章の「遺構と遺物」に記したため、本章では1区のH-9号住居跡から出土した鉄製馬具（轡）について、若干の考察を加えまとめてみたい。

1区H-9号住居跡出土の鉄製馬具（轡）の特徴 1区H-9号住居跡は埋没土中に焼土が多量に含まれていることと、炭化材が床面全体より多量に出土していることから焼失住居跡と考えられる。炭化材および焼土は住居跡の中央から西側に集中しており、炭化材の下からは家屋の倒壊により5個体の羽釜が押しつぶされた状態で出土し、本件轡も住居跡の中央や南寄りの床面にめり込んだ状態で出土した。本件轡は、共伴する遺物から10世紀前半の所産と比定でき明確な時期が判定できるものとしては元總社蒼海遺跡群においては2例目である。この時期の馬具（轡）の出土例は全国的に見てもそれほど多くなく、該期の馬具（轡）の良い資料になるものと思われ、その特徴は以下のとおりである。

今回出土した轡は、鏡板が環状の鉄製複環鏡板付轡になる。轡は馬の口に入れて噛ませる棒状の衝と、手綱を連結するための引手、衝の両端に取付けた衝の脱落を防ぎ、かつ面懸に連結する鏡板によって構成されるが、今回出土した轡は図1の実測図（以下「図」という。）のとおり一式揃った状態で出土している。

鏡板 環状（複環） で、外環と内環は1本の板状鉄棒

（全長：約75cm 幅：中央部に最大幅部1.2cmがあり両端になるにしたがい幅が狭くなり、末端部の最小幅は0.7cmを測る。厚さ：0.3cm）を一筆書きのよう屈曲させ成形している。外環・内環の径は以下のとおりである。

図左 外環 外径：縦11.3cm×横11.0cm

内径：縦9.1cm×横8.6cm

内環 外径：縦6.8cm×横6.2cm

内径：縦4.7cm×横4.8cm

図右 外環 外径：縦10.5cm×横11.2cm

内径：縦8.2cm×横8.8cm

内環 外径：縦6.2cm×横6.3cm

内径：縦4.3cm×横4.4cm

立開 全長8.3cm。棒状部は角柱状（幅：0.9cm×0.7cm）で、棒状部端を鏡板の外環に巻付け環状にしている。立開蓋（外幅：4.2cm×1.6cm、内幅3.3cm×0.9cm）は隅丸長方形状を呈する。

衝 二連衝（図左全長：9.8cm、図右全長9.9cm）。棒状部は角柱状（幅：1.0cm×0.9cm）。轡金は両側の鉄棒の先を巻付け環状にし連結しており、衝先環は外環と内環との間の環状部及び遊金（外径4.0cm）に連結している。

引手 一本引手（図左全長：14.6cm、図右全長14.5cm）。棒状部は角柱状（図左幅：0.7cm×0.8cm、図左幅：

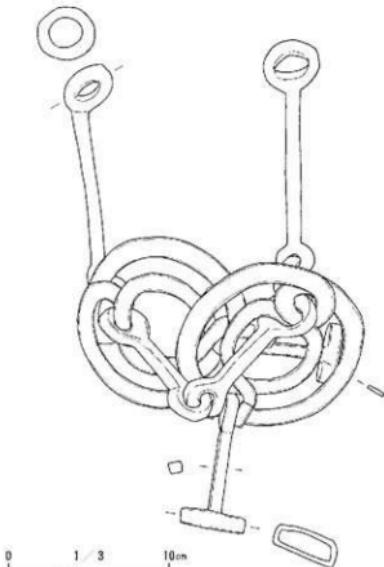


図1 1区H-9号住居跡出土鐵製馬具（轡）

0.9cm×0.7cm)で、引手壺は円形(図左外径3.4cm・内径2.3cm、図右外径3.5cm・内径2.4cm)

連結法 銜先環を鏡板の外環と内環の間の環状部および遊金(環)(図左外径4.1cm×4.1cm、図右外径4.0cm×横4.0cm)に連結している。遊金(環)には引手も連結する。

重量 約680g。

以上のようにこの時期の馬具(轡)としては、比較的大型の部類となり、引手が鏡板の内側に位置するものは後出の形態となるが、本件は鏡板の外側に引手がくることから比較的古い形態をとどめるものと考えられる。

元総社蒼海遺跡群での馬具出土例 これまでの元総社蒼海遺跡群における馬具の出土例は下記一覧表のとおりである。

表1 元総社蒼海遺跡群出土馬具一覧表

No	遺跡名	遺構	種類	部位・出土位置等	時期
1	元総社小見遺跡	5区H-3号住居跡	轡	引手、埋土。	8世紀代
2	元総社小見内VI遺跡	A1KW-4号溝跡	轡	引手破片、埋土。	古代
3	元総社蒼海遺跡群(13)	11区D-27号土坑	轡	引手、立開、鏡板、埋土。	11世紀代
4	元総社蒼海遺跡群(28)	D-15号土坑	杏葉轡	引手、立開、鏡板、銜、埋土。	中世
5	元総社蒼海遺跡群(37)	B-77号住居跡	轡	引手、立開、鏡板、龜右脇。	10世紀後半
6	元総社蒼海遺跡群(39)	D-37号土坑	鏡	吊金具破片、埋土。	不明
7	元総社蒼海遺跡群(97)	B-3号住居跡	轡	引手、埋土。	10世紀後半
8	本遺跡	1区B-2号住居跡	鏡	吊金具、床直。	10世紀後半
9	本遺跡	1区B-9号住居跡	轡	引手、立開、鏡板、銜、床直。	10世紀前半

※時期は遭構の時期

このうち比較的状態の良いものとしては、元総社蒼海遺跡群(13)・(28)から出土した馬具が挙げられる。

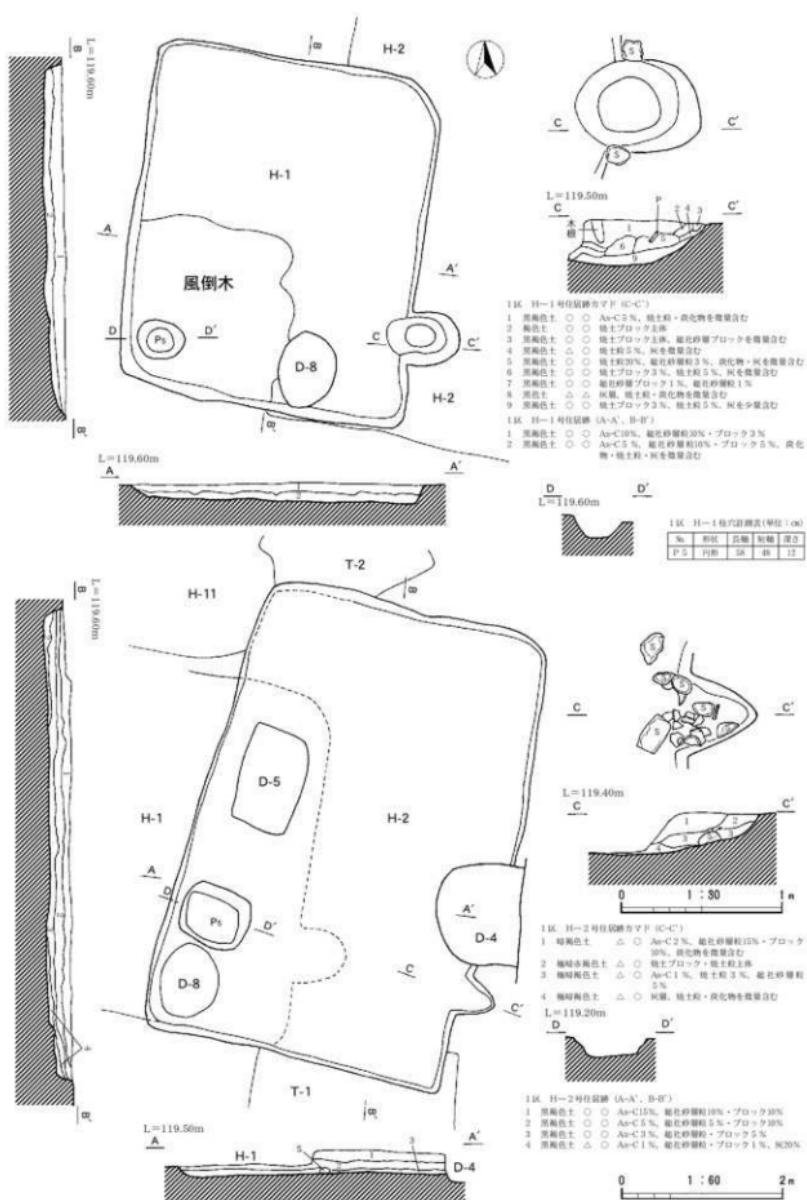
元総社蒼海遺跡群(13) 11区D-27号土坑から出土した馬具は、鏡板が環状(素環)の鉄製環状鏡板付轡になる。土坑は覆土上層に多量の炭化物を含み、馬具(轡)の他に須恵器の小型杯・椀・皿、鐵滓、羽口、鍛造片等が出土しており、北側に近接する鍛冶工房との関連が指摘されている。時期は出土遺物から11世紀代に帰属すると想定されている。

元総社蒼海遺跡群(28) D-15号土坑から出土した馬具は、鏡板が逆ハート形を呈する鉄製杏葉轡になる。土坑からは鉄製鎌車も出土しており、時期は重複関係等から中世に帰属するものと想定されている。

小結 前橋市内において馬具が出土した遺跡・遺構は多数確認されているが、その大部分は古墳に副葬されたものである。本件馬具(轡)のように集落内の住居跡からの出土例はほとんど確認されておらず、僅かに「芳賀東部团地遺跡Ⅱ」H216号住居跡西壁周溝内から銚具2点の出土が確認されるのみである。しかしながら、元総社蒼海遺跡群からは上記のとおり比較的多くの出土例が確認され、他の地域に比べて特殊な状況にあると言えよう。この要因の一つとしては、群馬県(上野国)では奈良・平安時代にかけて大和政権の蝦夷征伐等に伴う兵馬の繁殖・育成が盛んに行われていたことが挙げられ、特に本遺跡地は上野国府城にあたるため、兵馬や國府を支えるための輸送馬が多数存在したものと推測される。これについては、本遺跡群や元総社町周辺の遺跡から多数の馬骨・馬歯が出土していることからも窺うことができ、本件馬具(轡)もそれらの兵馬や輸送馬に装着されていたものと推測される。なお、農耕に馬が使用されたのは近年の研究により鎌倉時代以降の説が有力になっており、本件馬具(轡)のすぐ脇からは鐵鎌が出土していることや造りの精巧さから兵馬に装着されていた可能性が高いものと考えられる。

◀参考文献▶

- 坂本英夫 1985年 『馬具』 ニュー・サイエンス社
長谷川一郎ほか 2001年 『元總社小見遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
高橋一彦・高板麻子 2004年 『元總社小見内V・VI遺跡』 前橋市埋蔵文化発掘財調査団
阿久沢真一・神宮聰・清水亮介 2008年 『元總社蒼海遺跡群(13)』 前橋市埋蔵文化発掘財調査団
日沖剛史ほか 2010年 『元總社蒼海遺跡群(28)』 前橋市埋蔵文化発掘財調査団
山下歳信ほか 2011年 『元總社蒼海遺跡群(32)(33)』 前橋市教育委員会
日沖剛史ほか 2012年 『元總社蒼海遺跡群(37)』 前橋市教育委員会
伊藤順一ほか 2013年 『元總社蒼海遺跡群(39)』 前橋市教育委員会
小峰篤・渡辺亮介 2015年 『元總社蒼海遺跡群(85), (88), (89), (90), (96), (97), (98)』 前橋市教育委員会
井野誠一ほか 1988年 『芳賀東部田地遺跡II』 前橋市教育委員会
加部二生ほか 1996年 『群馬県内出土の馬具・馬形埴輪』 群馬県古墳時代研究会
田中広明 2006年 『国司の館』 学生社



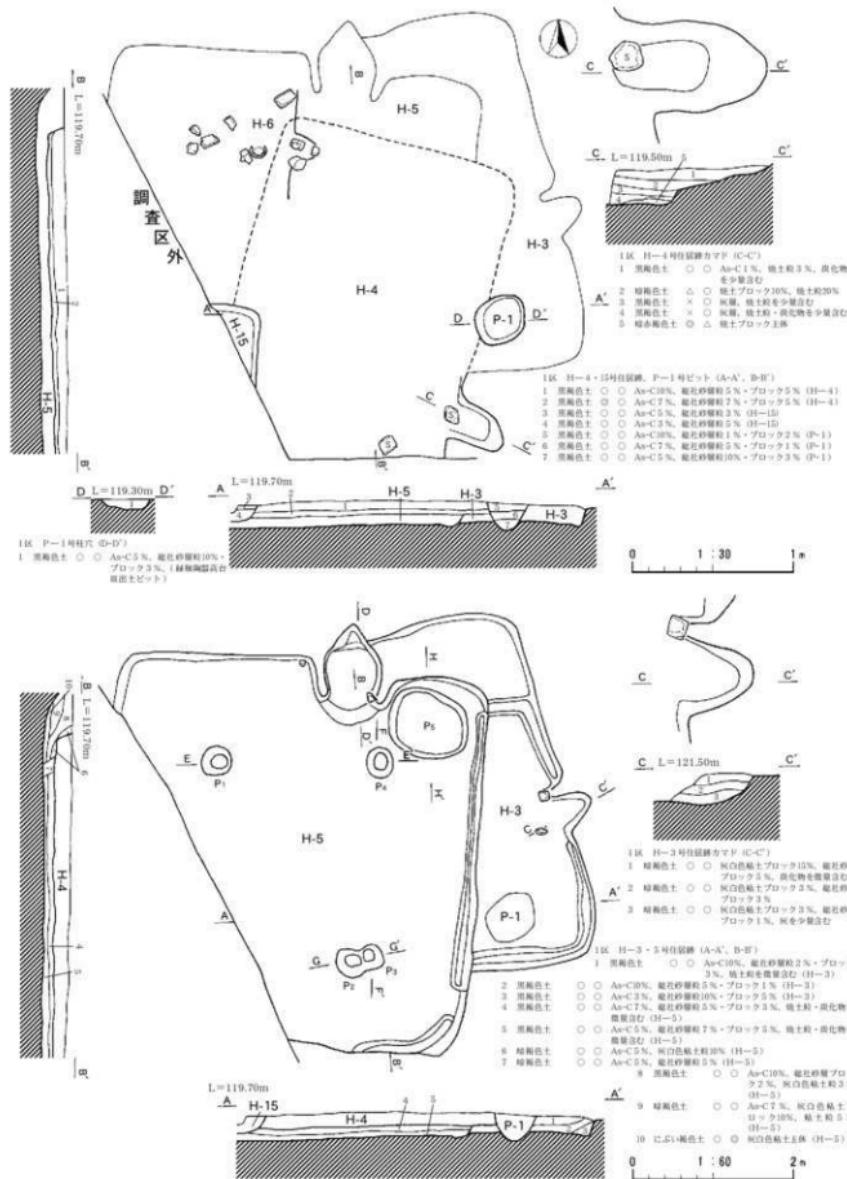


Fig. 10 1区H-3~6・15号住居跡

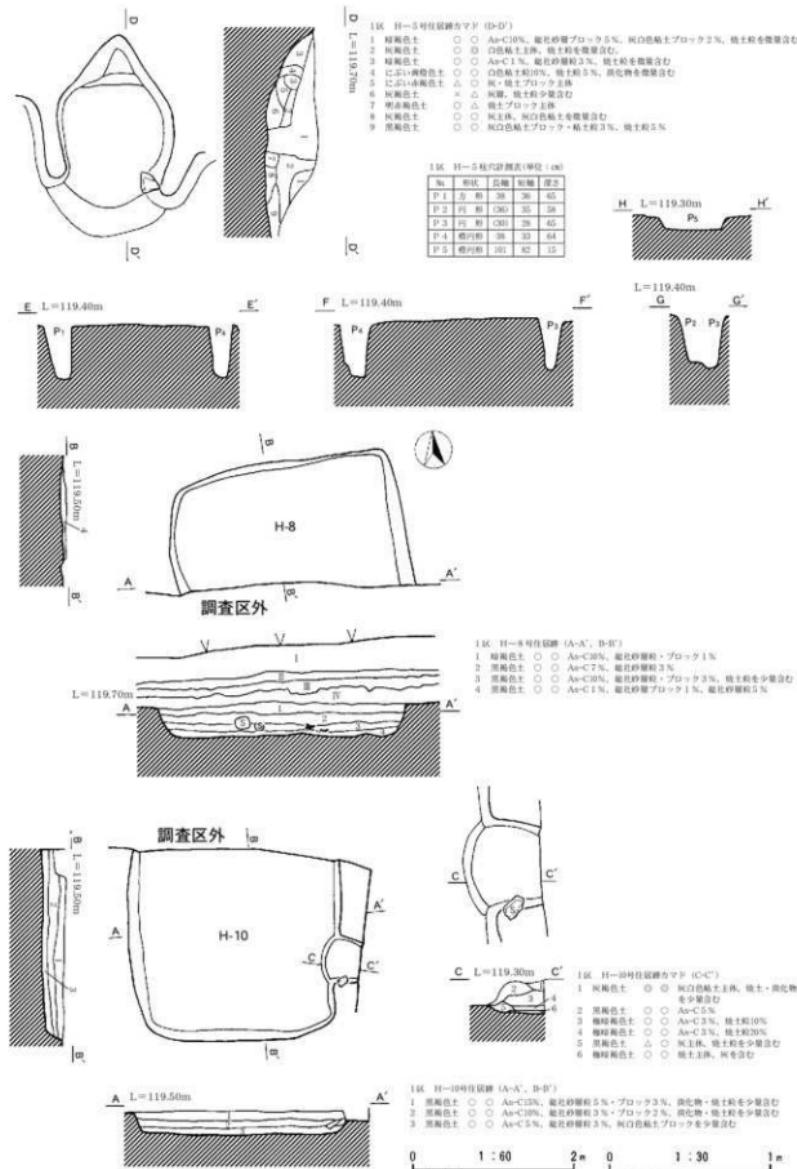


Fig. 11 1区H-1・5・8・10号住居跡

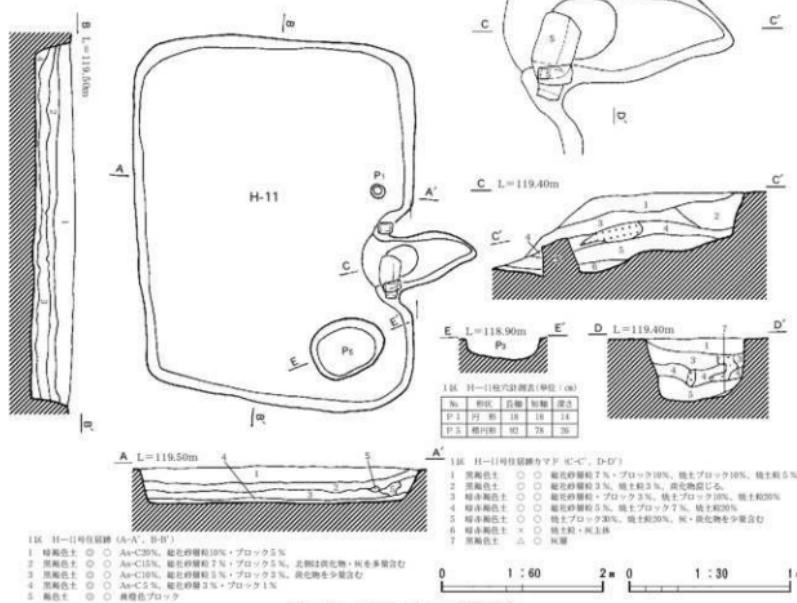
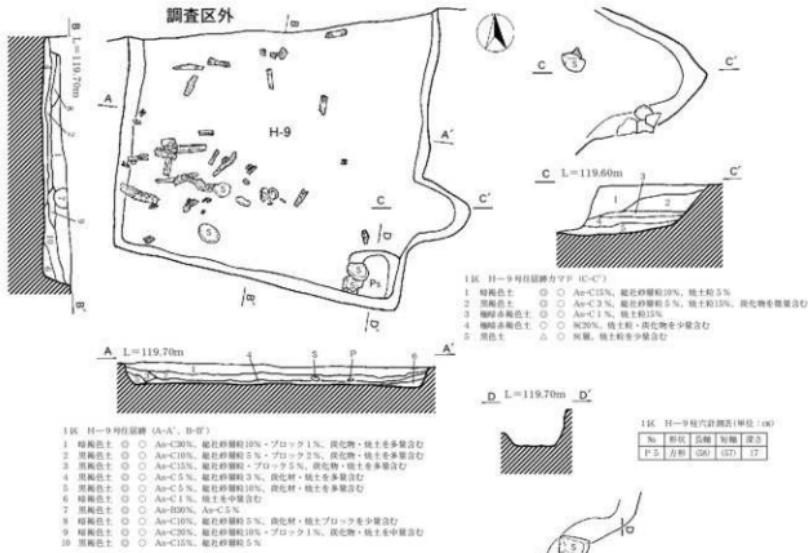
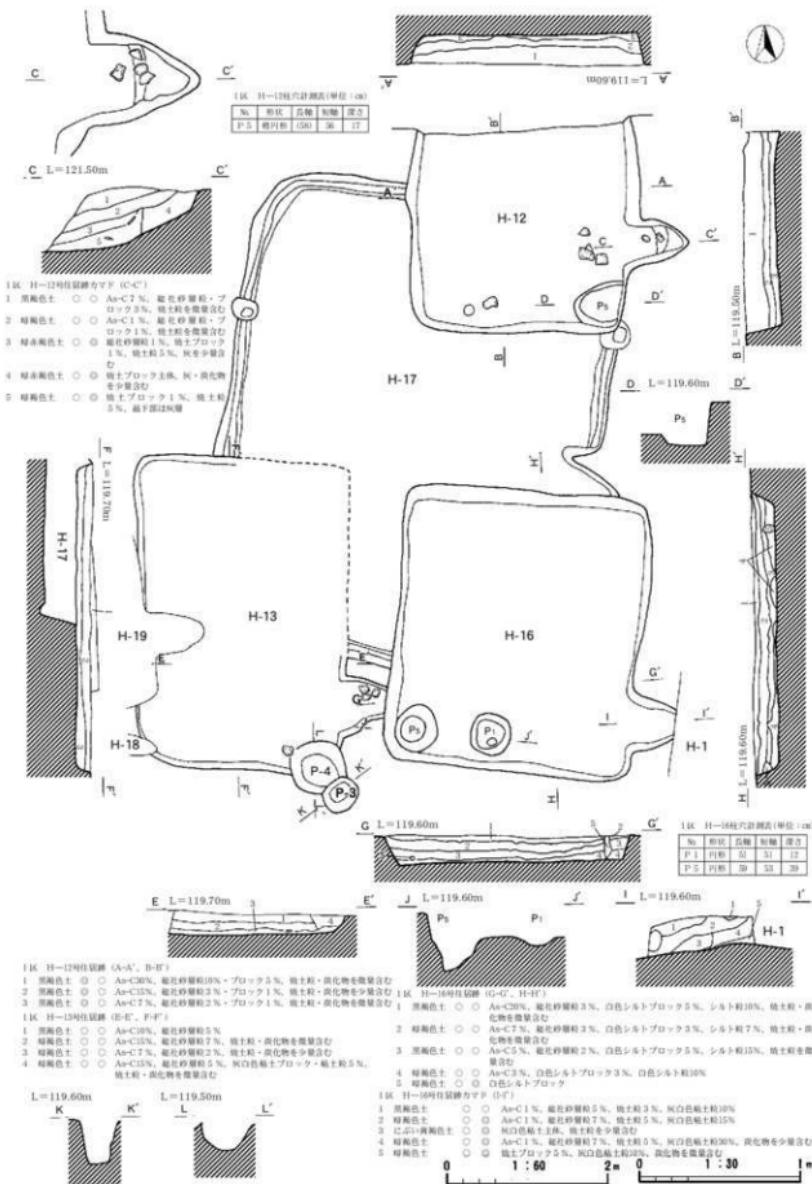
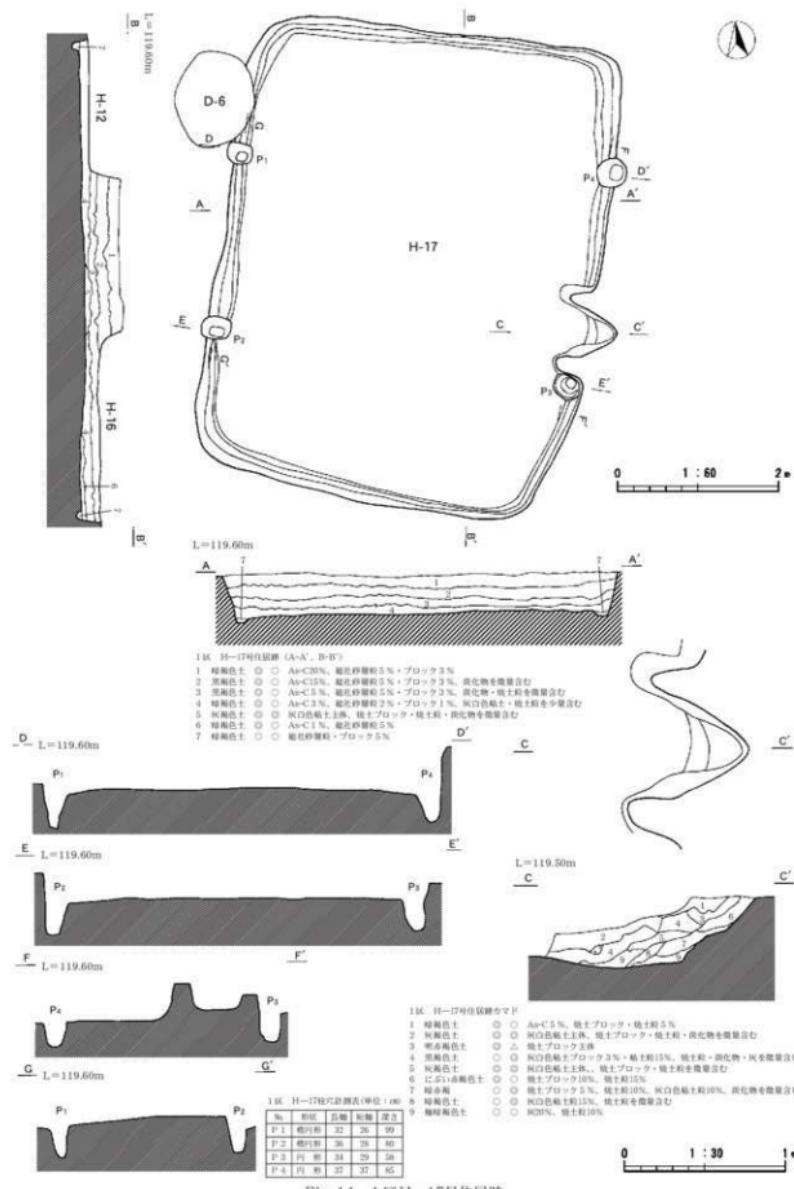


Fig. 12 1区H—9·11号住居跨





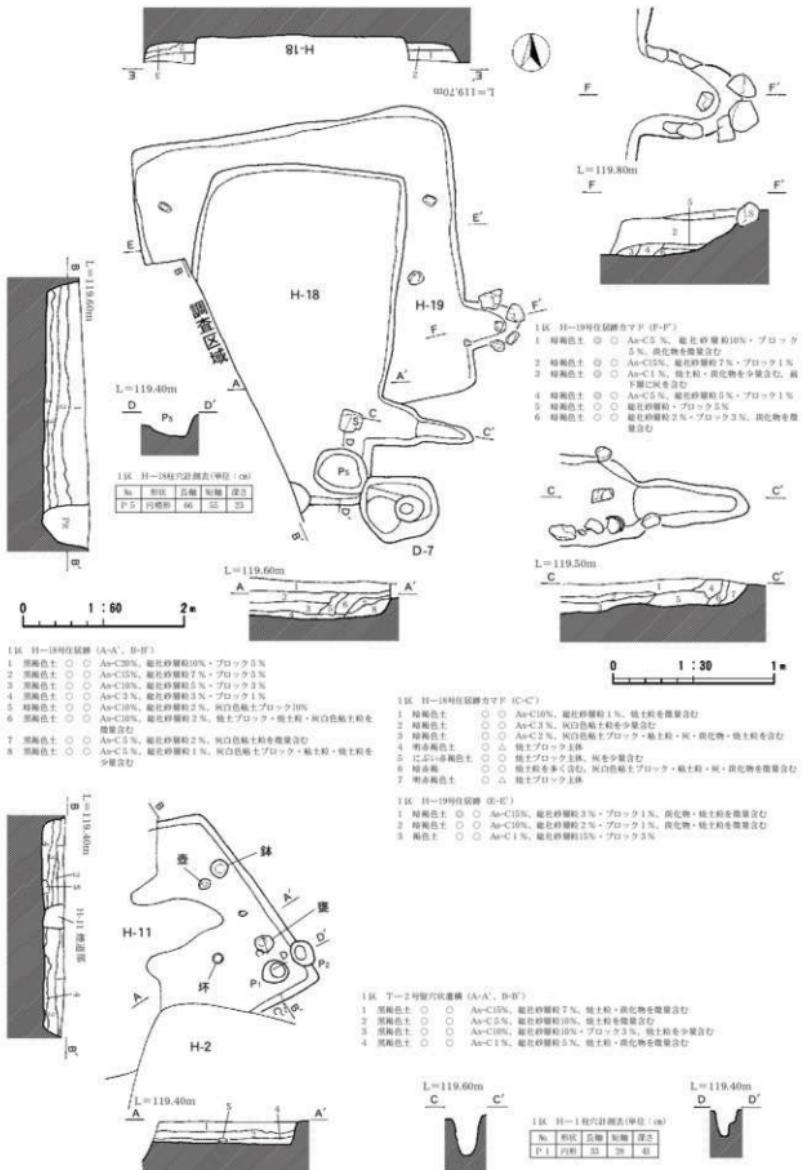


Fig. 15 1区H-18·19号住居跡、T-2号竪穴状遺構

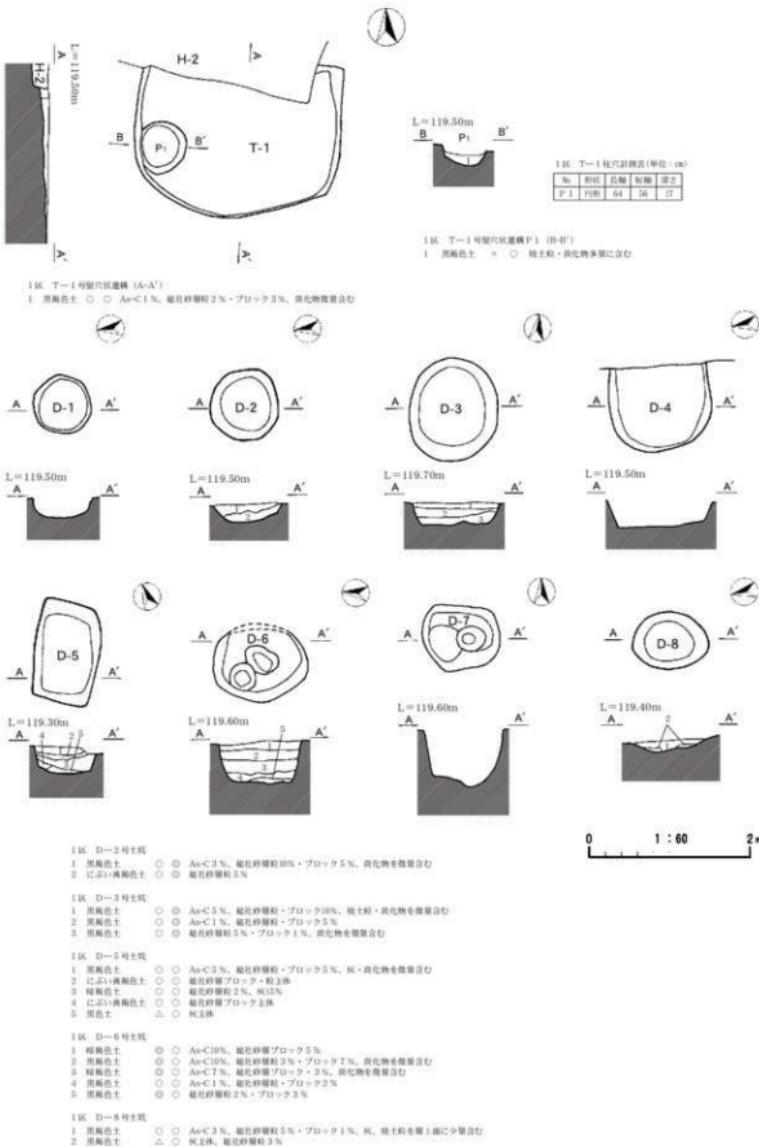


Fig. 16 I区 T-1号堅穴状遺構、D-1～8号土坑

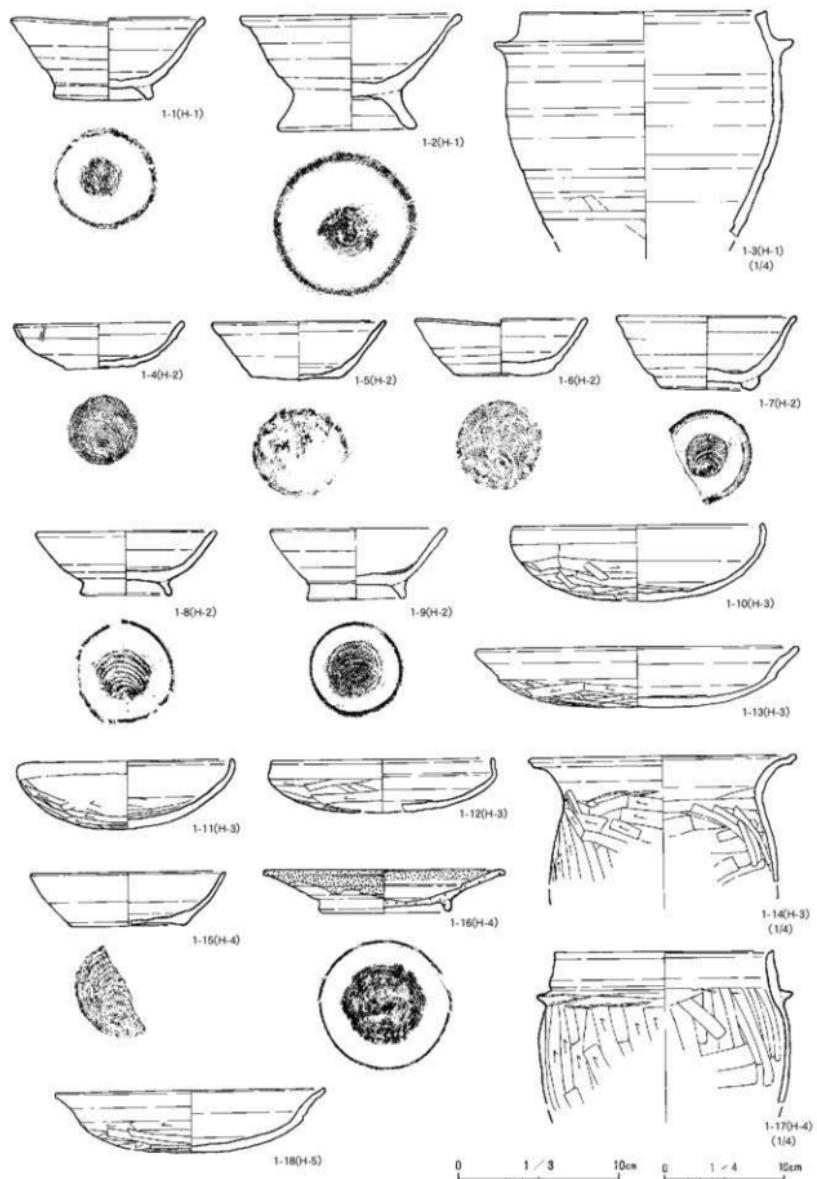


Fig. 17 1区出土遺物(1)

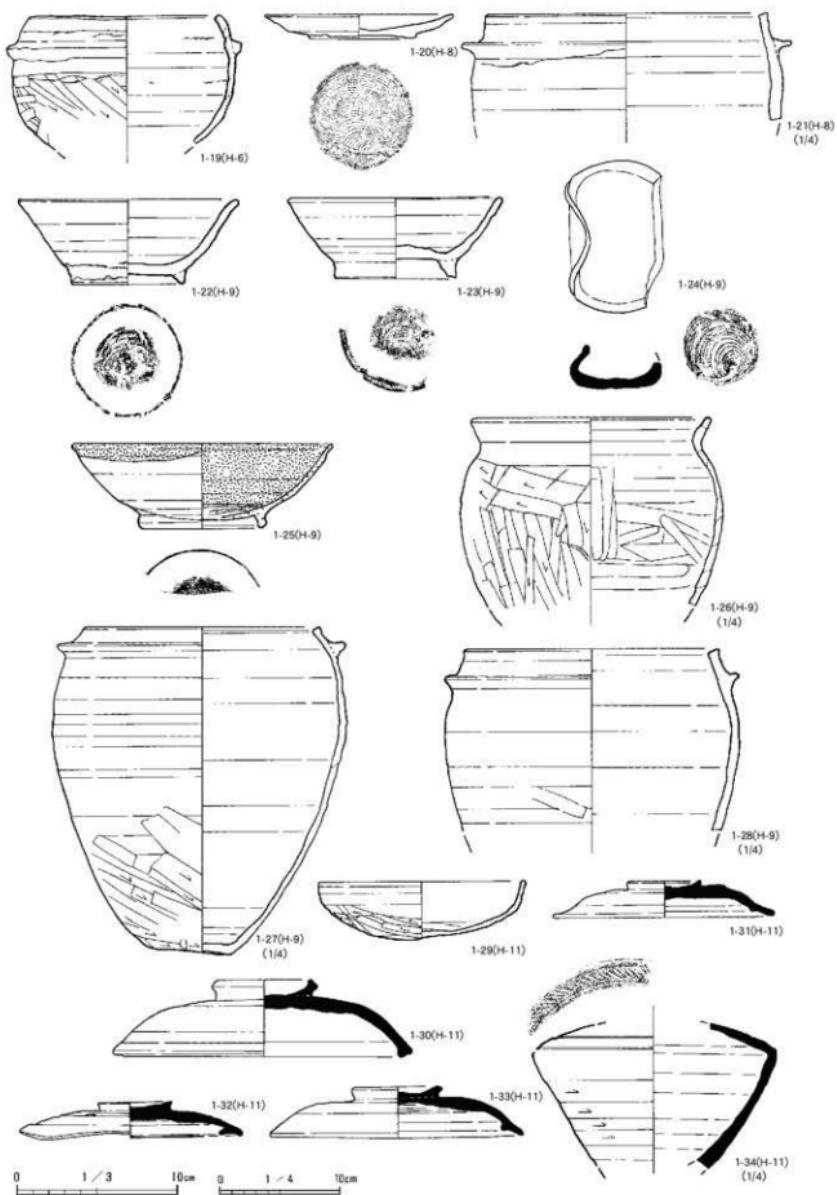


Fig. 18 1区出土遺物(2)

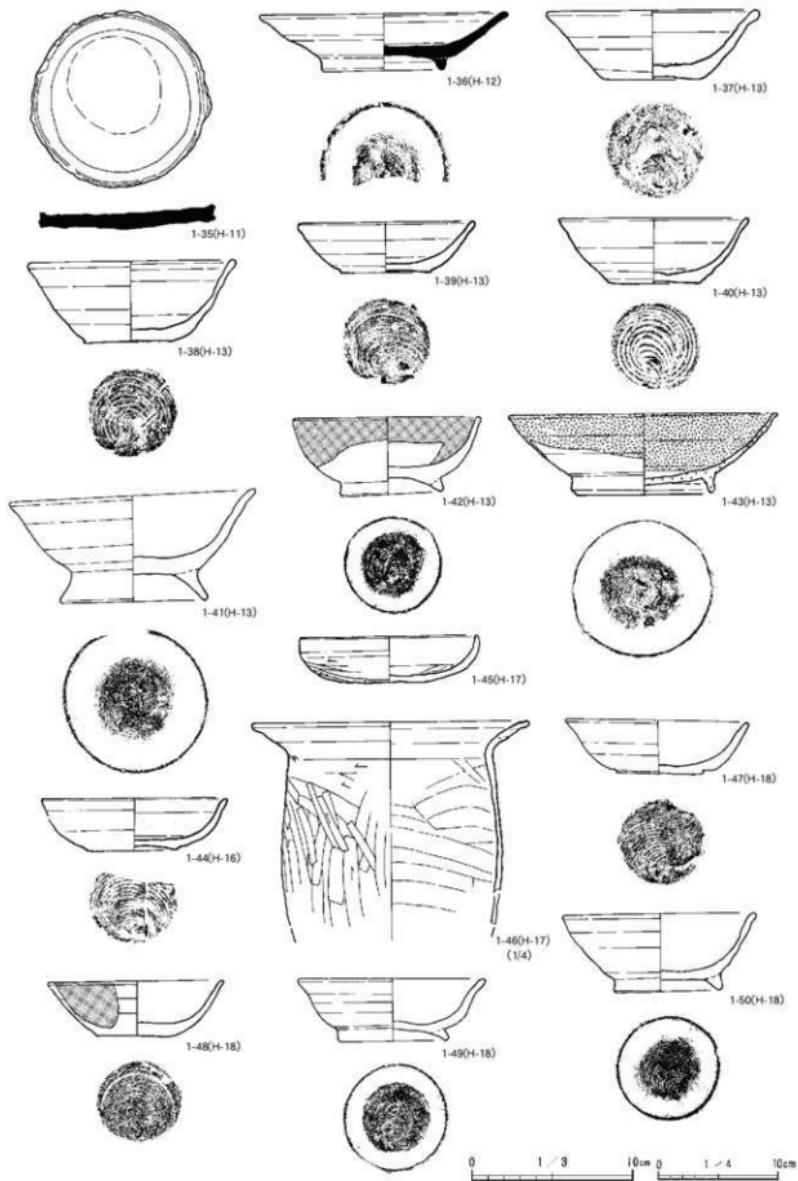


Fig. 19 1区出土遺物(3)

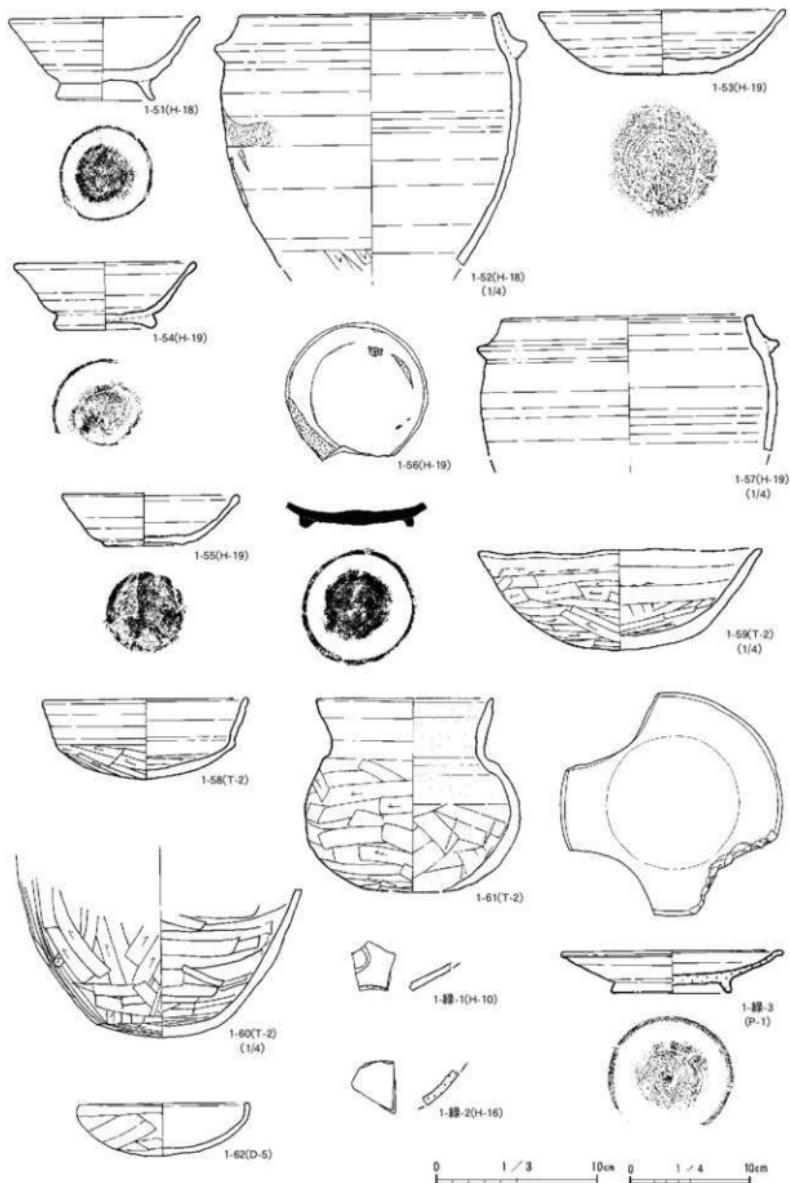
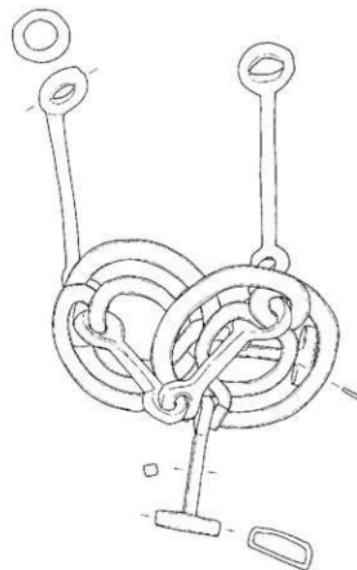
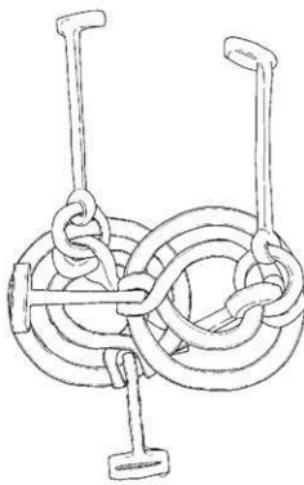


Fig. 20 1区出土遺物(4)



1-鐵3(4-9)①



1-鐵3(4-9)②

0 1 / 3 10cm

Fig. 21 1区出土遺物(5)

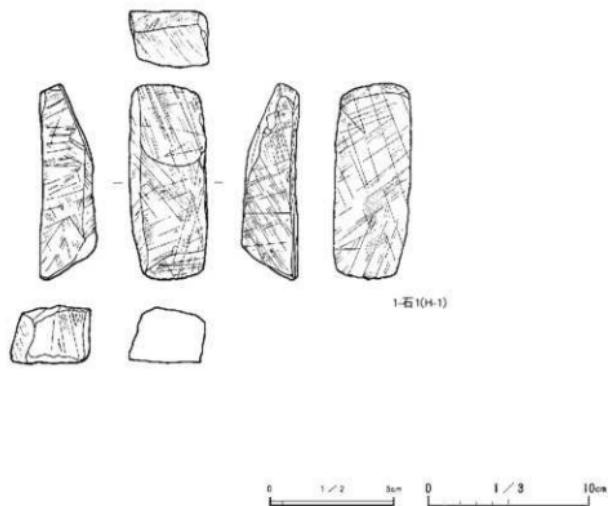
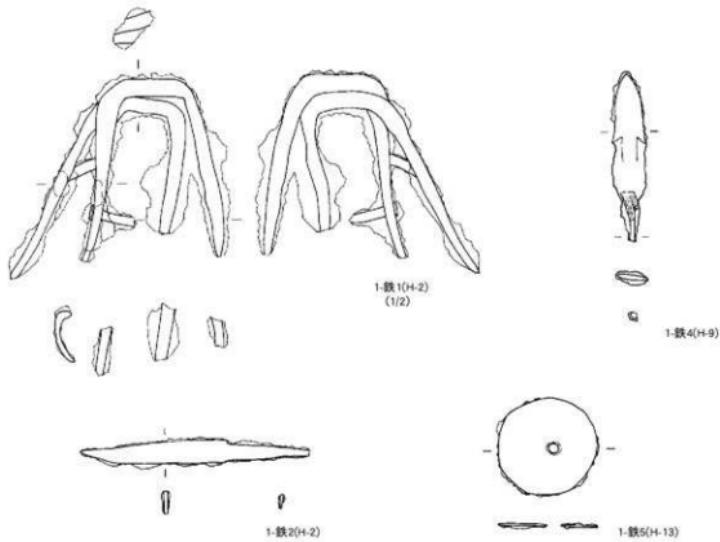


Fig. 22 1区出土遺物(6)

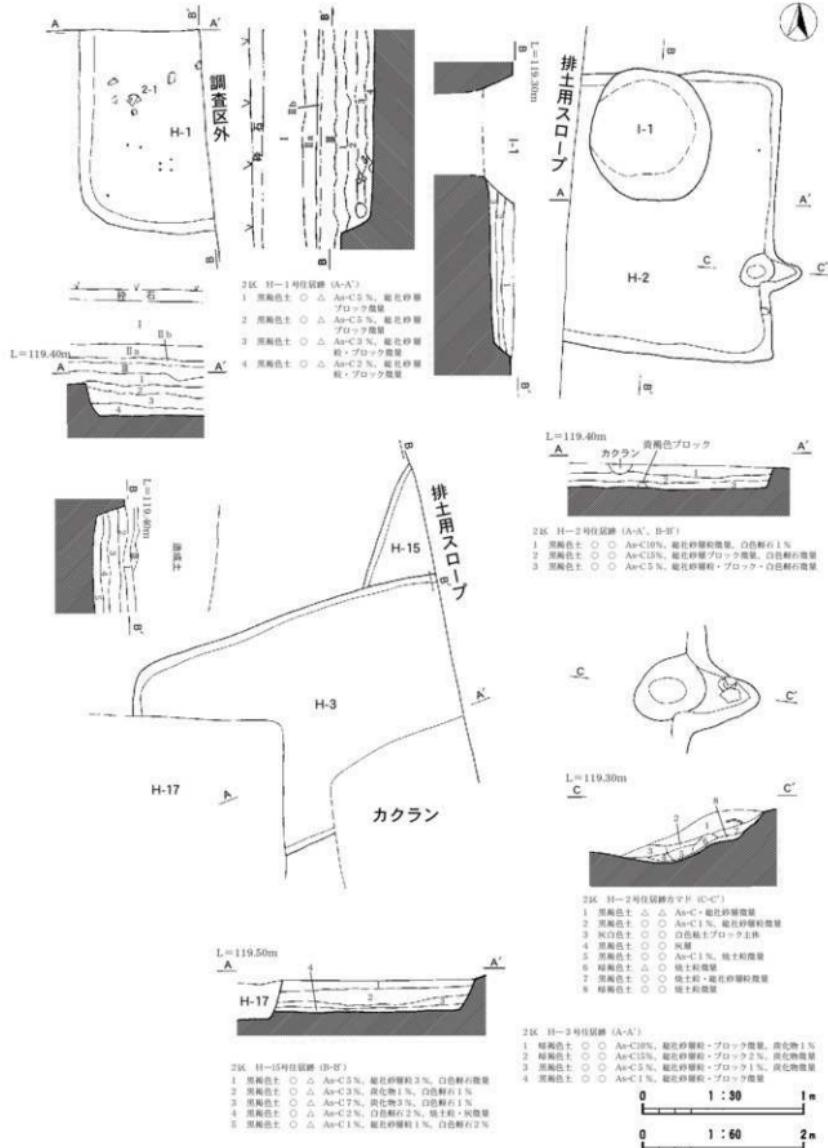


Fig. 23 2区H-1 ~ 3・15号住居跡

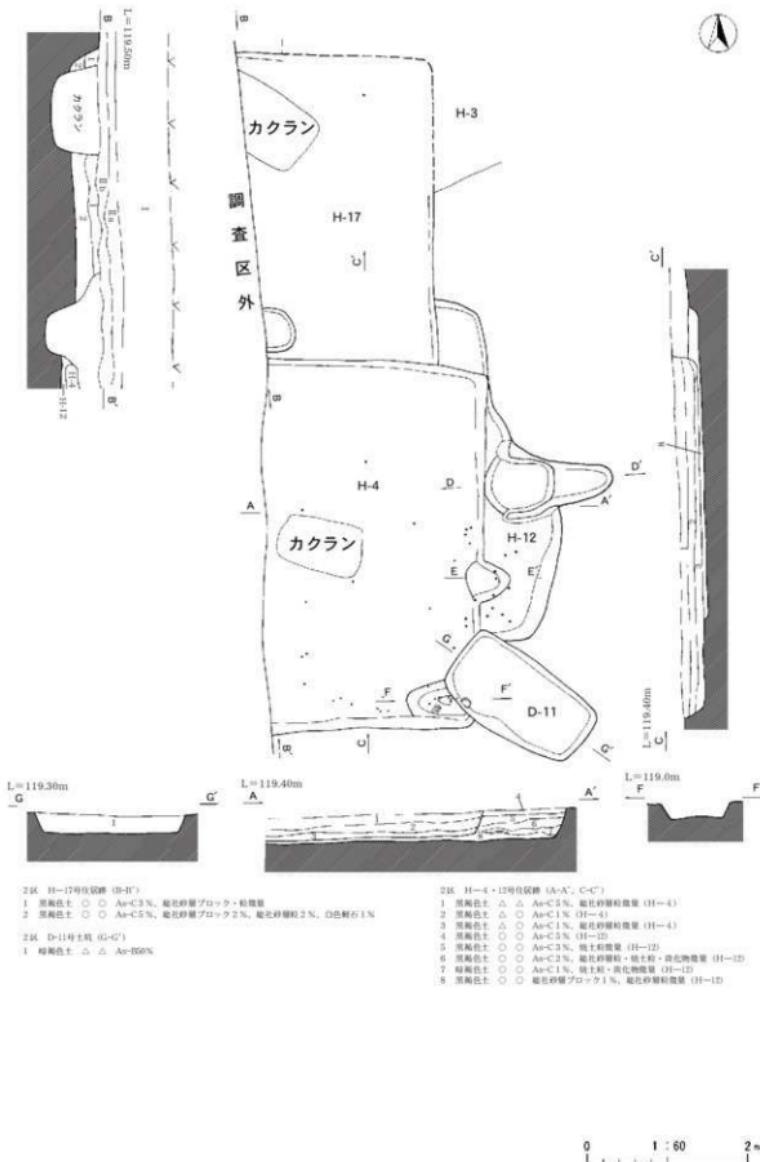


Fig. 24 2区H-4・12・17号住居跡, D-11号土坑

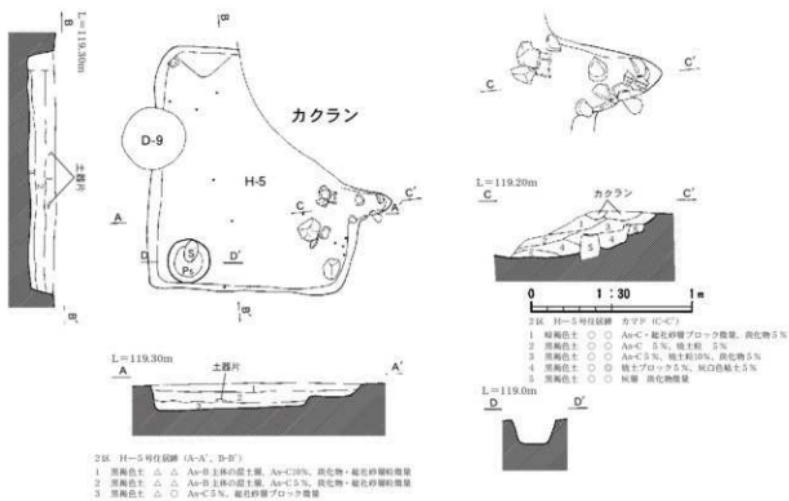
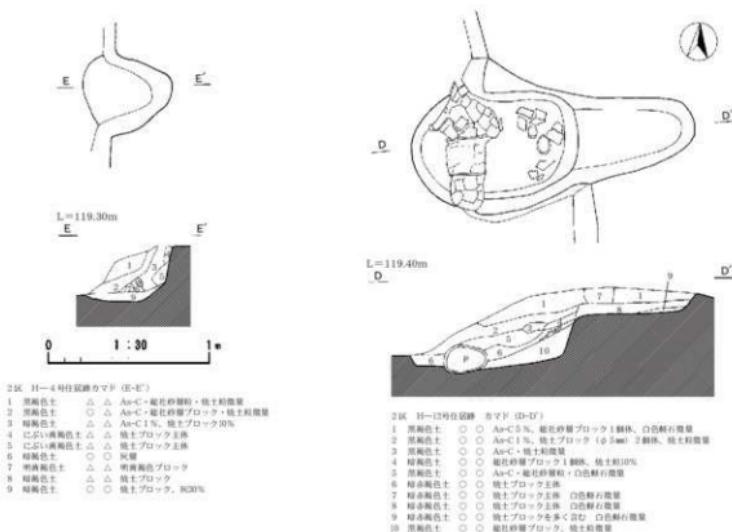


Fig. 25 2区H-4・5・12号住居跡

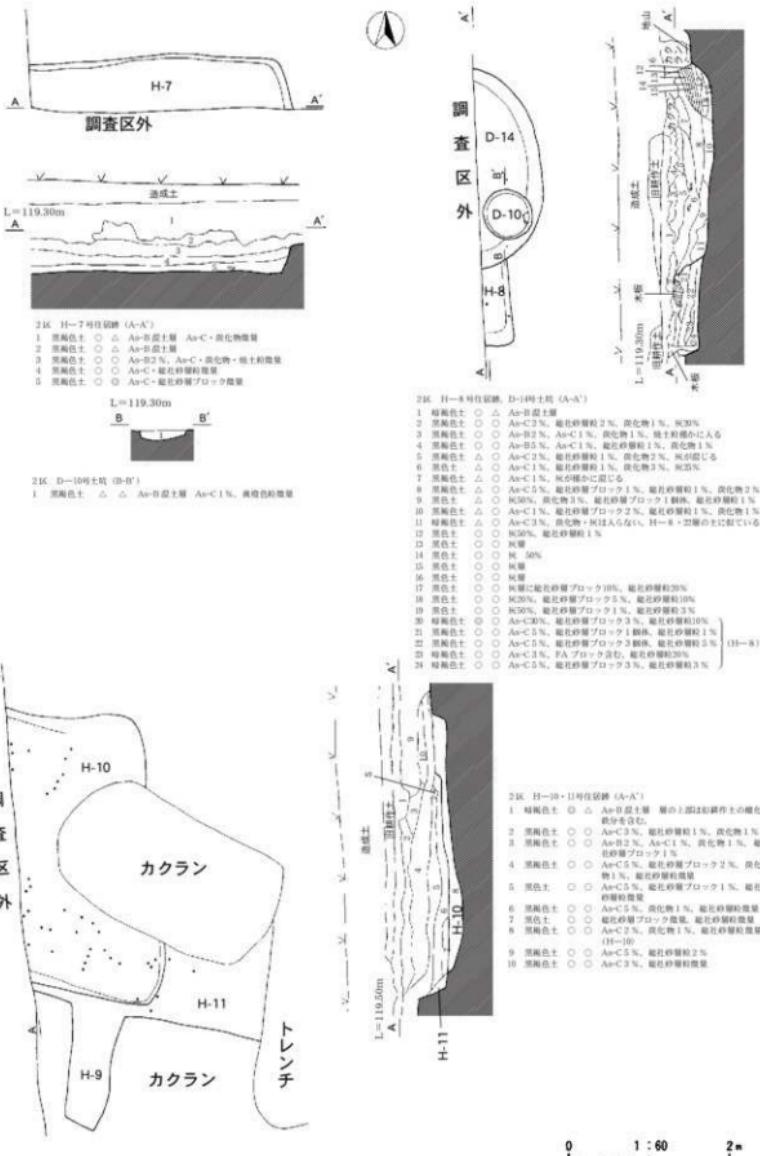


Fig. 26 2区H=7≈11层住居跡 D=10:14层土掠

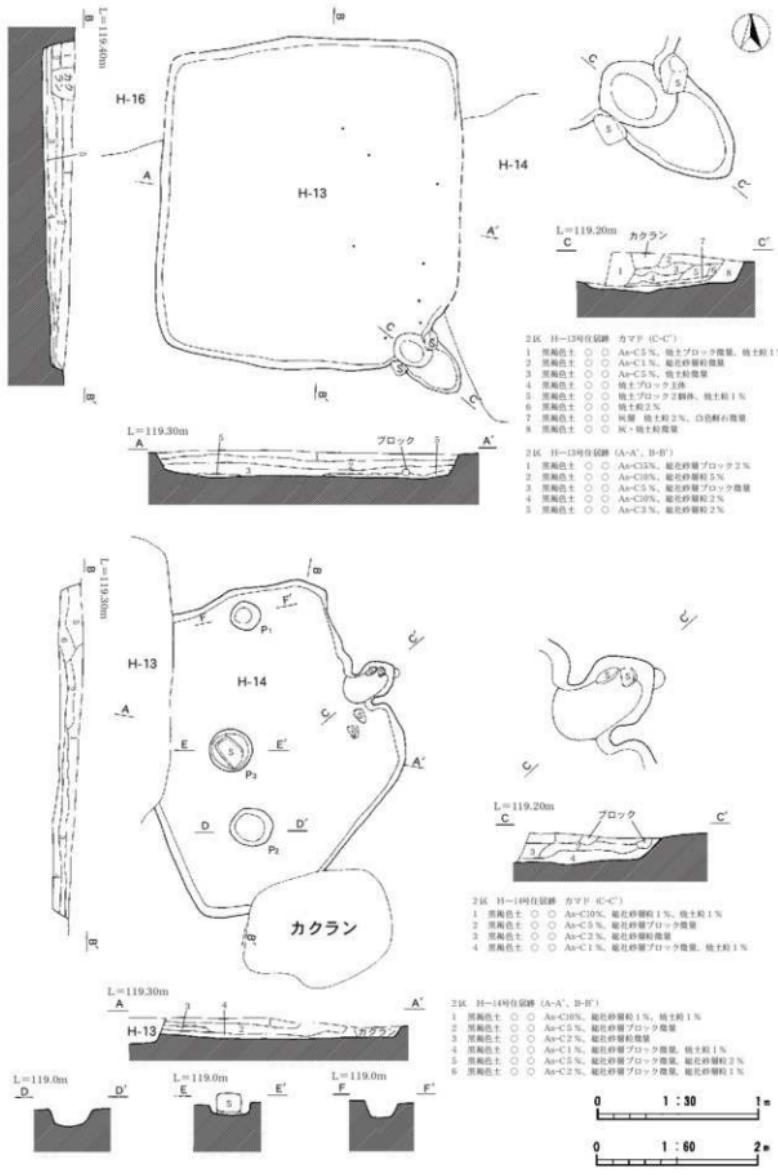
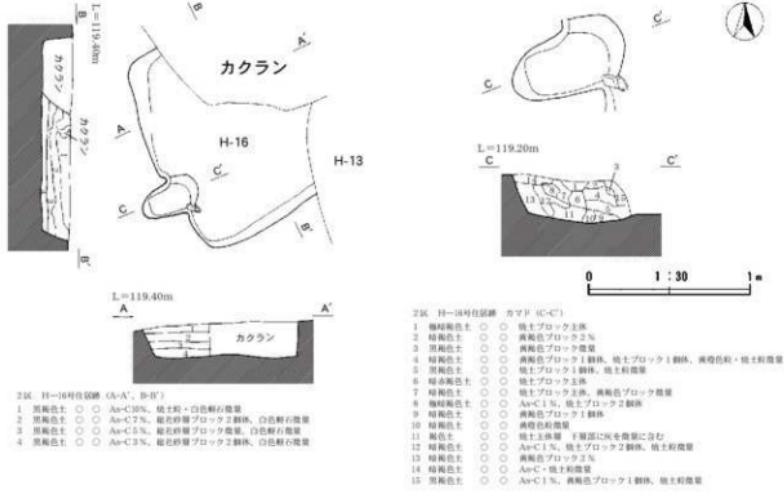


Fig. 27 2区H-13・14号住居跡



- 2区 H-16号住居跡 (A-A')**
- 黒褐色土 △ ○ As-C10%、褐色砂層ブロック埋蔵、褐色砂層3%、高化物1%
 - 黒褐色土 ○ ○ As-C5%、褐色砂層2%、高化物埋蔵
 - 黒褐色土 △ ○ As-C3%、褐色砂層ブロック1個体、高化物1%、高化物1%、褐色砂層1%、褐色砂層1%、褐色砂層1%
 - 黒褐色土 △ ○ As-C3%、褐色砂層ブロック1個体、褐色砂層1%、高化物1%
 - 黒褐色土 △ ○ As-C3%、褐色砂層ブロック1個体、褐色砂層1%、高化物1%
 - 黒褐色土 ○ ○ As-C1%、褐色砂層1%
 - 黒褐色土 ○ ○ As-C2%、褐色砂層1%
- 2区 H-22号住居跡 (A-A')**
- 黒褐色土 ○ ○ As-C10%、褐色砂層1%、白色砂岩2%
 - 黒褐色土 ○ ○ As-C5%、褐色砂層1%、白色砂岩1%、白色砂岩3%
 - 黒褐色土 ○ ○ As-C3%、褐色砂層1%、白色砂岩1%、白色砂岩1%
 - 黒褐色土 ○ ○ As-C1%、褐色砂層1%、白色砂岩1%
- 2区 H-23号住居跡 (A-A')**
- 黒褐色土 ○ ○ As-C10%、褐色砂層1%、白色砂岩2%
 - 黒褐色土 ○ ○ As-C5%、褐色砂層1%、褐色砂層1%、白色砂岩3%
 - 黒褐色土 ○ ○ As-C3%、褐色砂層1%、褐色砂層1%
 - 黒褐色土 ○ ○ 白色砂岩微量、黒褐色土部分のC泥炭

Fig. 28 2区H-16・22・23号住居跡

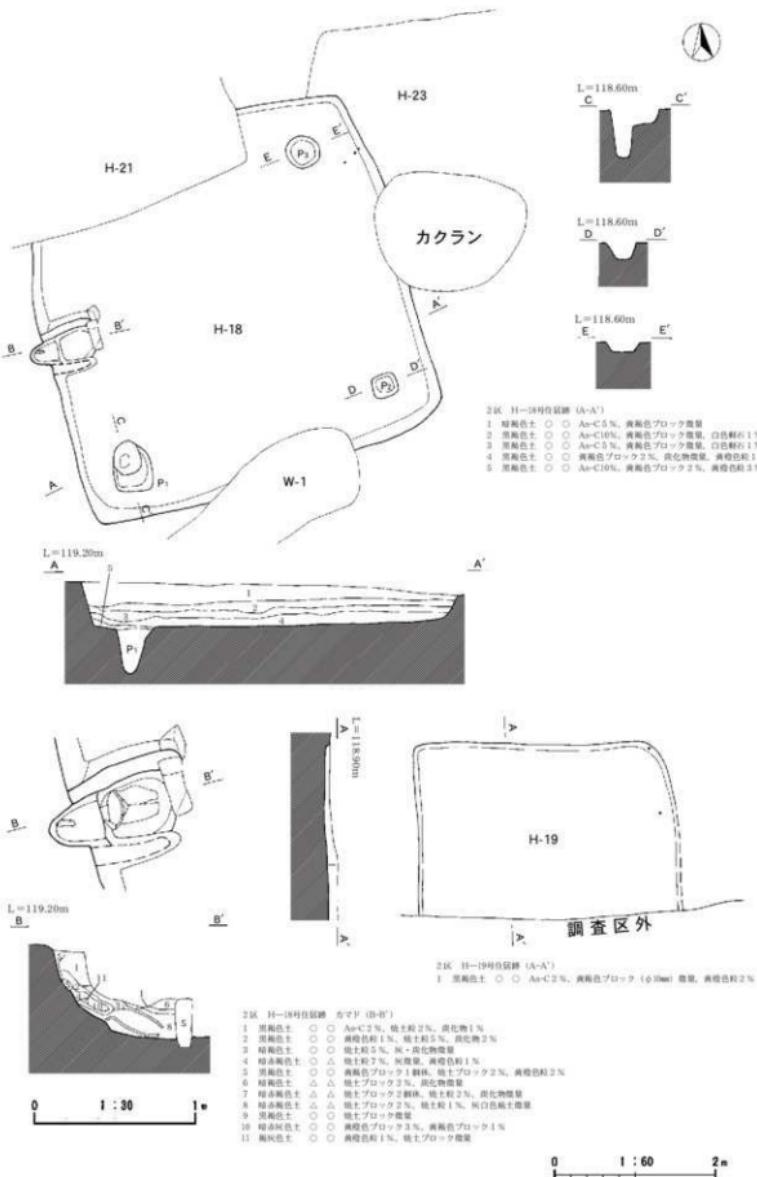


Fig. 29 2区H-18・19号住居跡

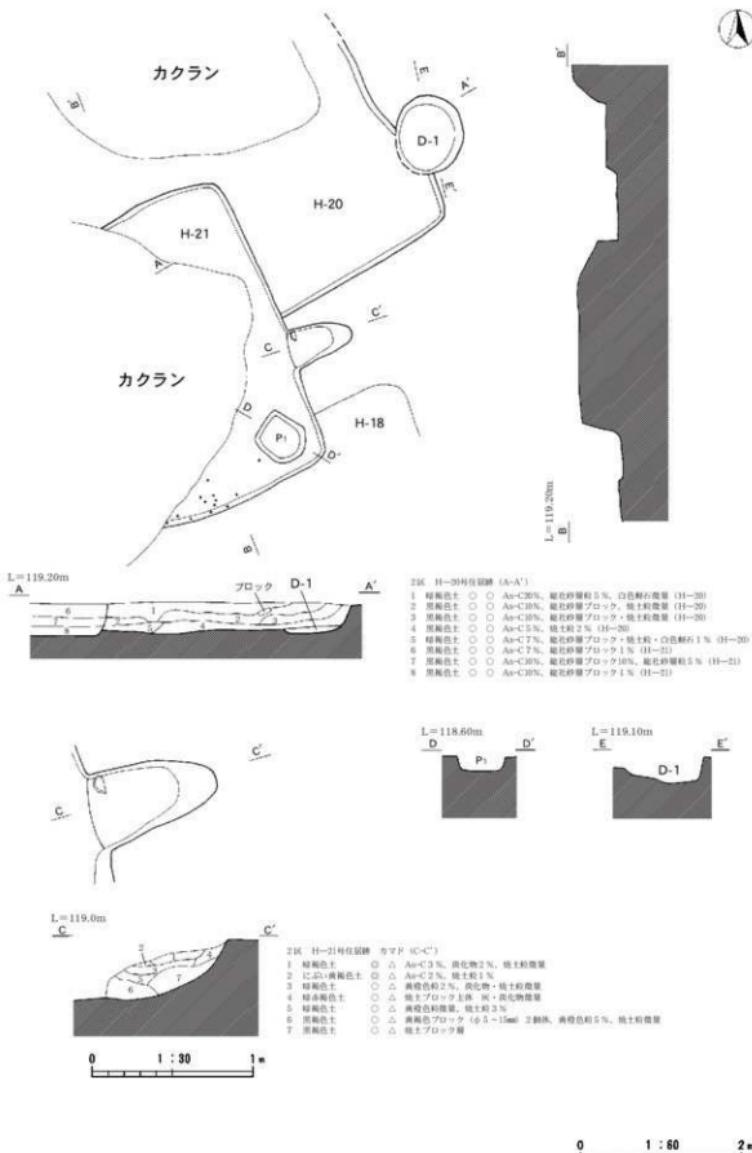
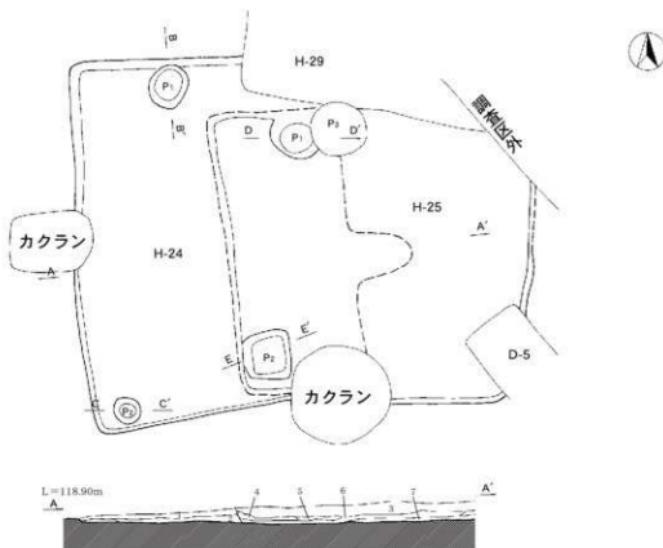


Fig. 30 2区H-20・21号住居跡



2区 H-24・25号住居跡 (A-A')

- 1 黒褐色土 ○ ○ Ae-C10%、施化砂利 2% (H-24)
- 2 棕褐色土 ○ ○ Ae-C 2%、施化砂利ブロック 1% (H-24)
- 3 棕褐色土 ○ ○ Ae-C 5%、施化砂利ブロック 1%、施化物 2% (H-25)
- 4 黑褐色土 ○ ○ Ae-C 10%、施化砂利ブロック 1% (H-25)
- 5 黑褐色土 ○ ○ Ae-C10%、青褐色砂 2%、白砂利 3% (H-25)
- 6 棕褐色土 ○ ○ Ae-C 1%、青褐色ブロック・粒状量 (H-25)
- 7 黑褐色土 ○ ○ 施化砂利ブロック・粒状量 (H-25)

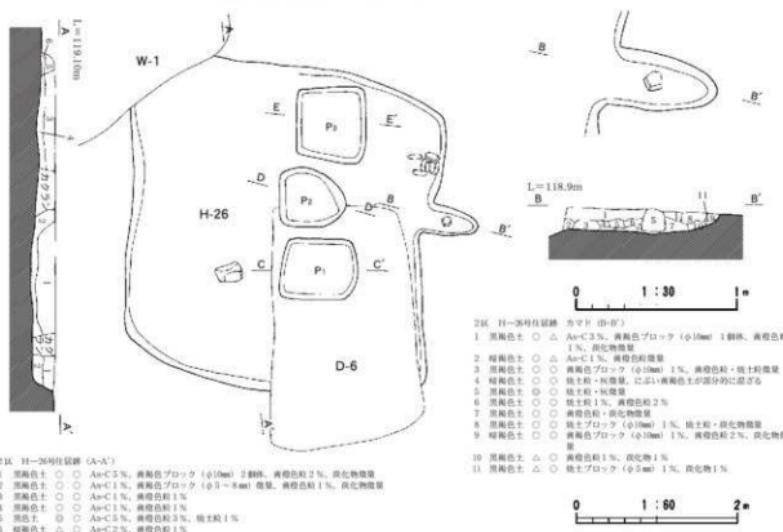


Fig. 31 2区H-24~26号住居跡

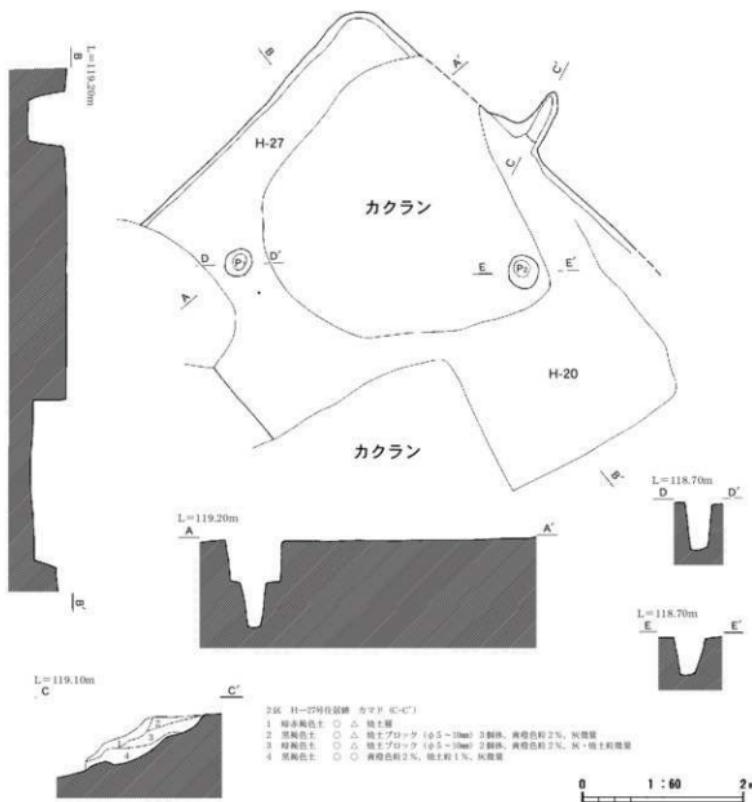
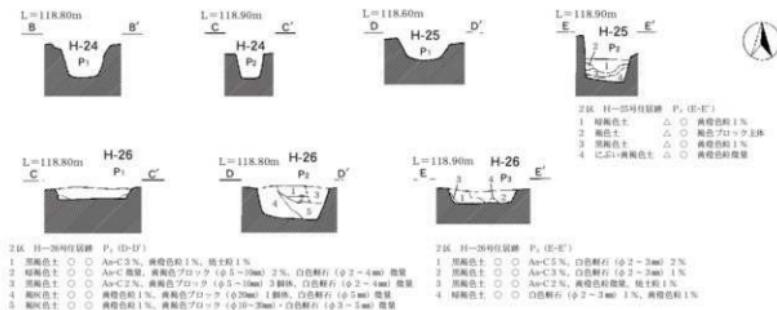
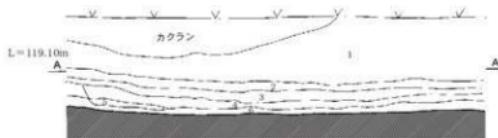
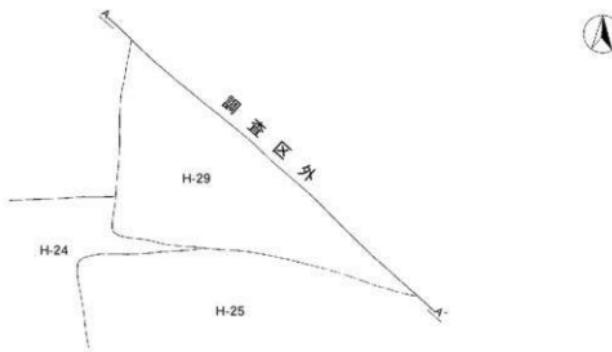
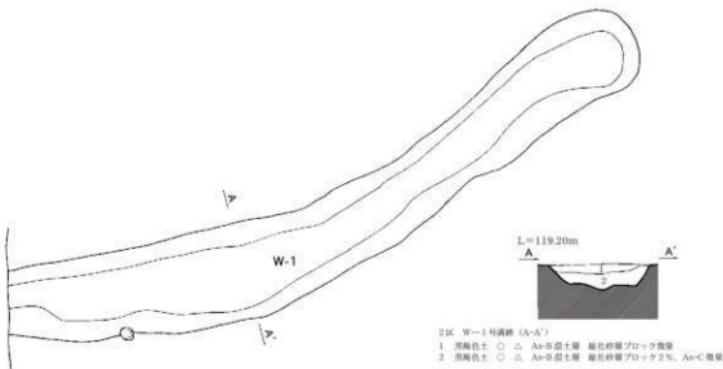


Fig. 32 2区H—24~27号住居跡



- 2図 H-29号住居跡 (A-A')
- 1 黒褐色土 ○ ○ As-B 層土層
 - 2 黒褐色土 ○ ○ As-C1 1%, 白母材約3%, 黄褐色含微量
 - 3 黒褐色土 ○ ○ As-C2 1%, 黄褐色ブロック・白色母材微量
 - 4 黑褐色土 ○ ○ As-C3 1%, 黄褐色ブロック微量
 - 5 黑褐色土 ○ ○ As-C1 1%, 黄褐色ブロック微量
 - 6 緑褐色土 ○ ○ As-C 微量, 黄褐色ブロック微量



- 2図 W-1号溝跡 (A-A')
- 1 黒褐色土 ○ △ As-B 層土層 細粒砂層ブロック微量
 - 2 黑褐色土 ○ △ As-B 層土層 細粒砂層ブロック2%, As-C微量

0 1 : 60 2m

Fig. 33 2区H-29号住居跡, W-1号溝跡

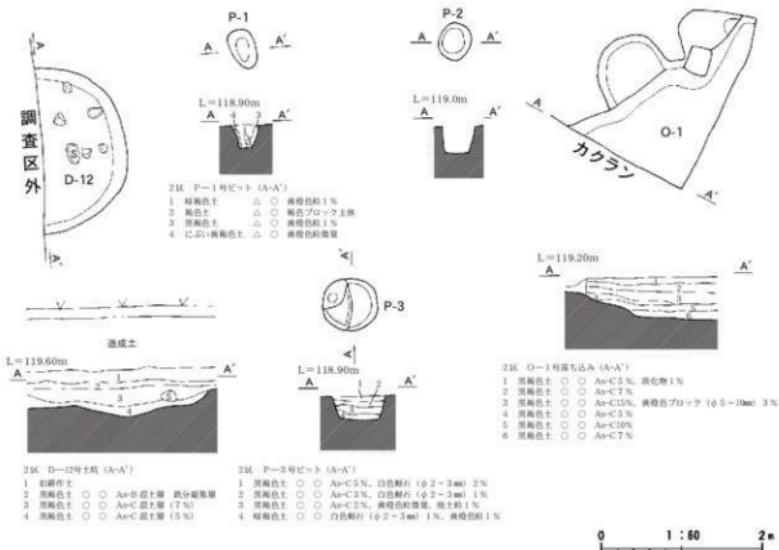
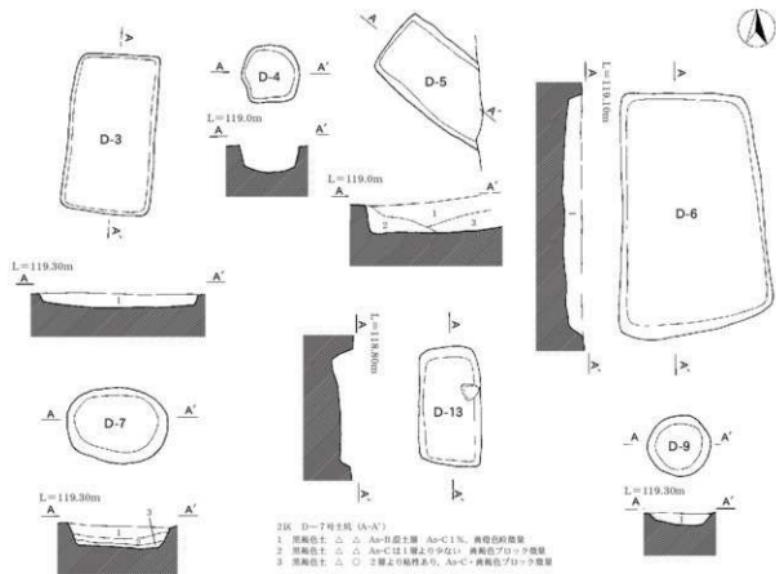


Fig. 34 2IK D-3 ~ 7 · 9 · 12 · 13号土坑、P-1 ~ 3号ビット、O-1号落ち込み

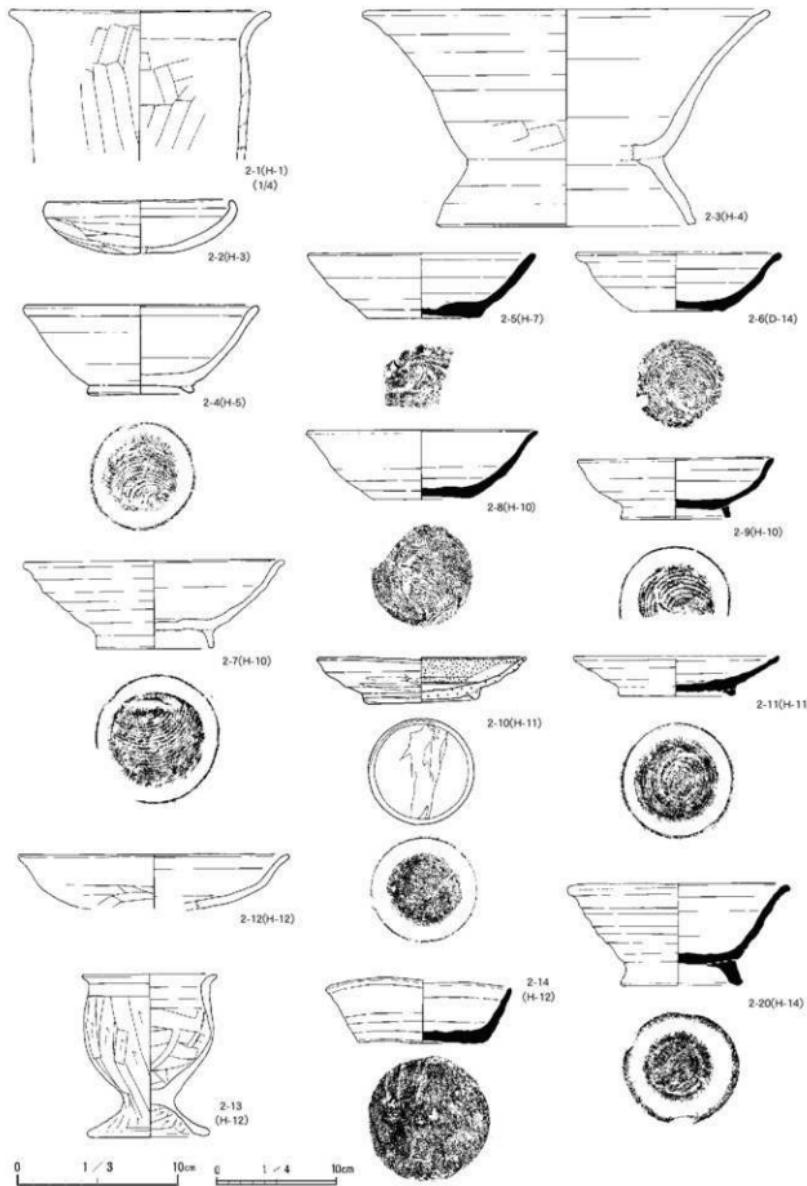


Fig. 35 2区出土遺物(1)

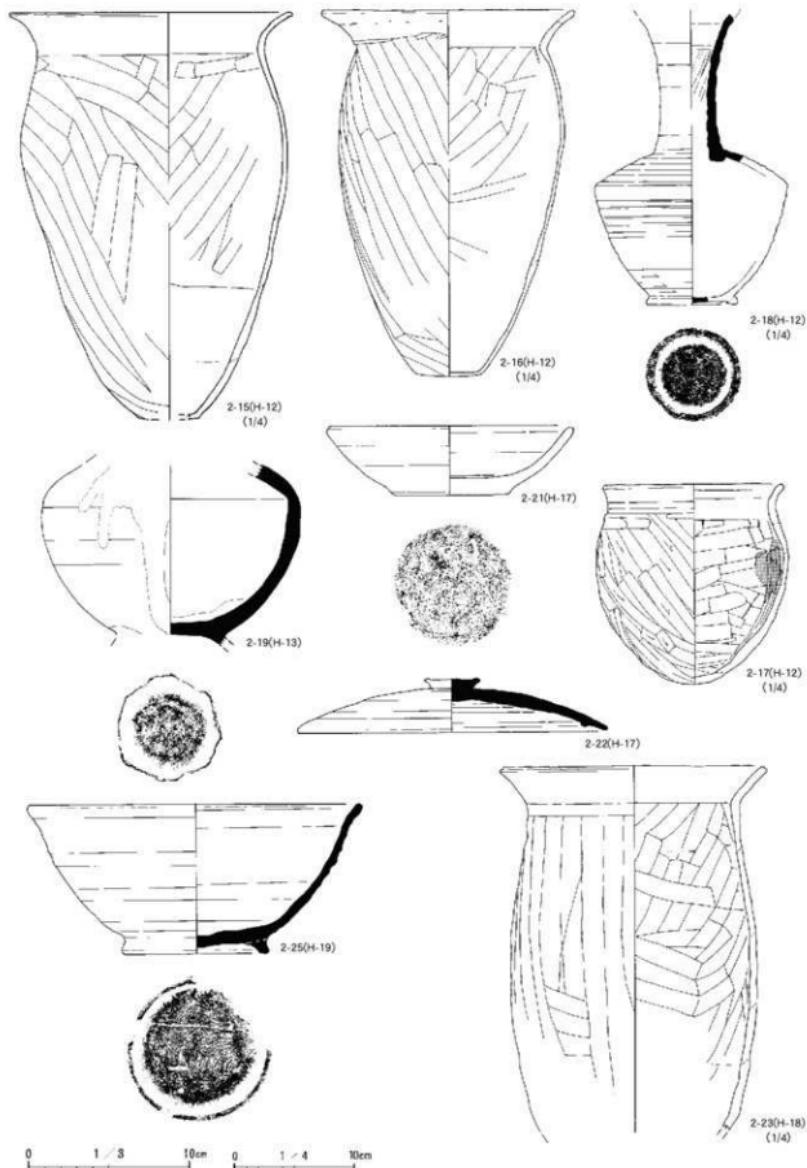


Fig. 36 2区出土遺物(2)

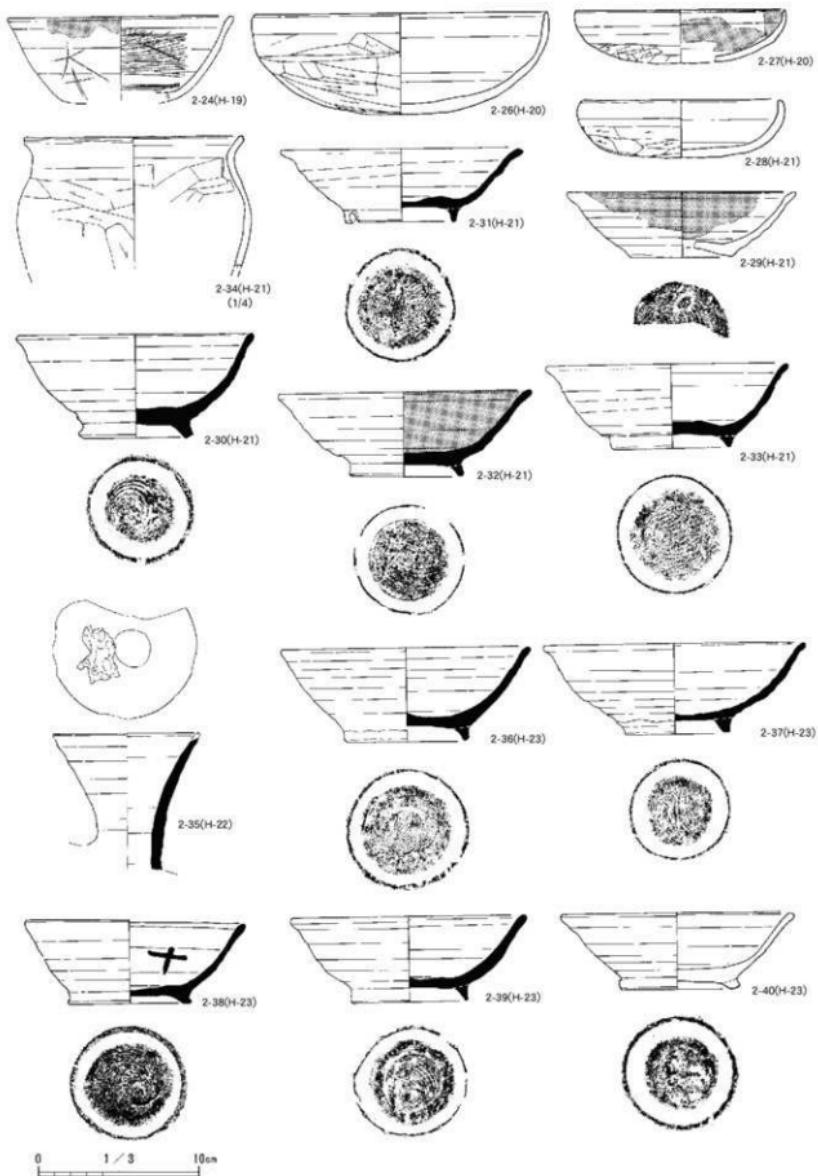


Fig. 37 2区出土遺物(3)

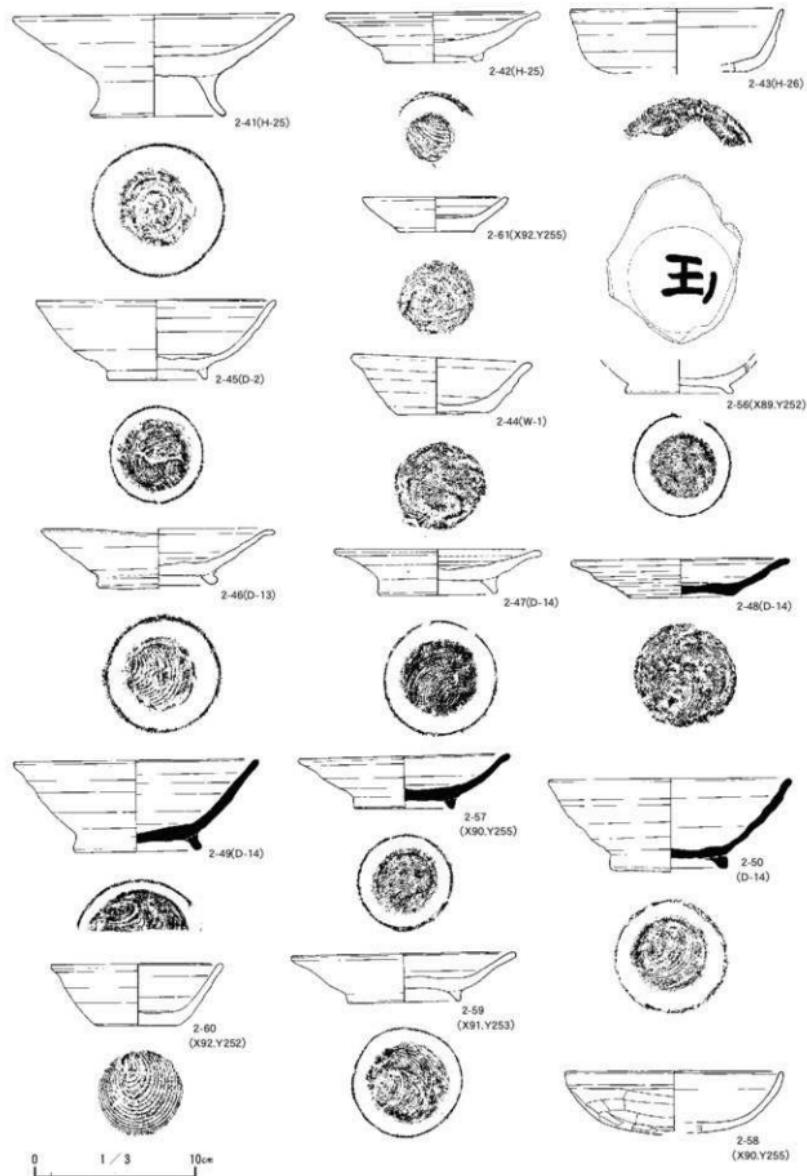


Fig. 38 2区出土遺物(4)

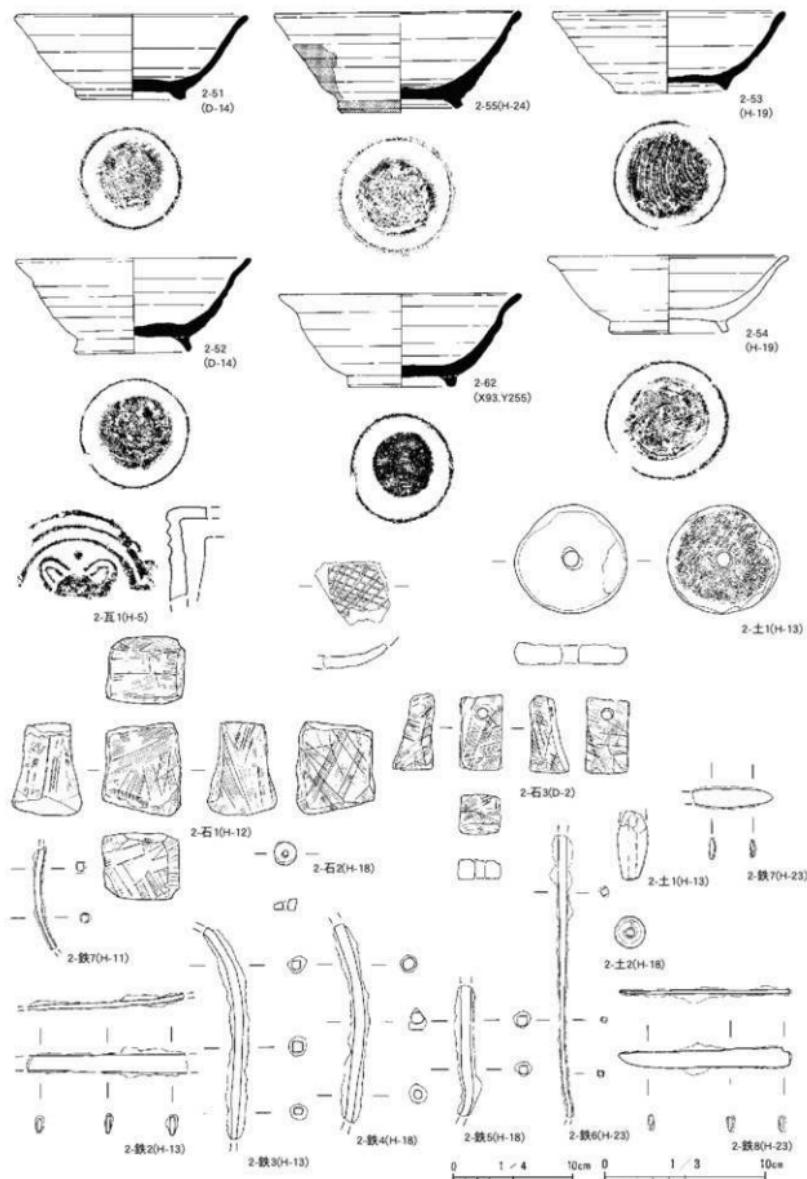


Fig. 39 2区出土遺物(5)

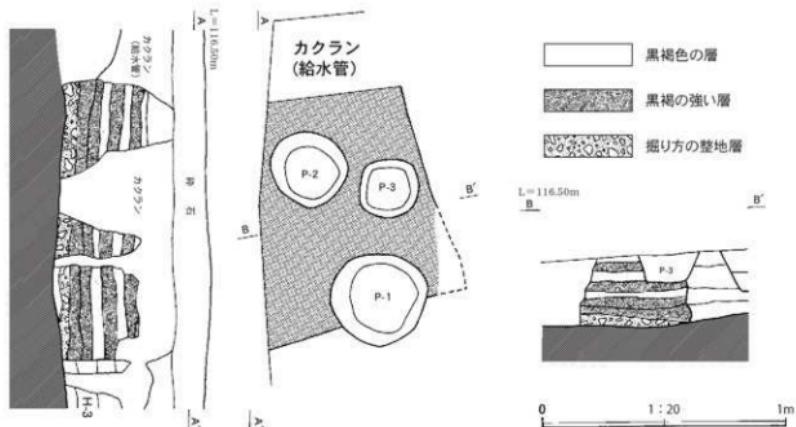
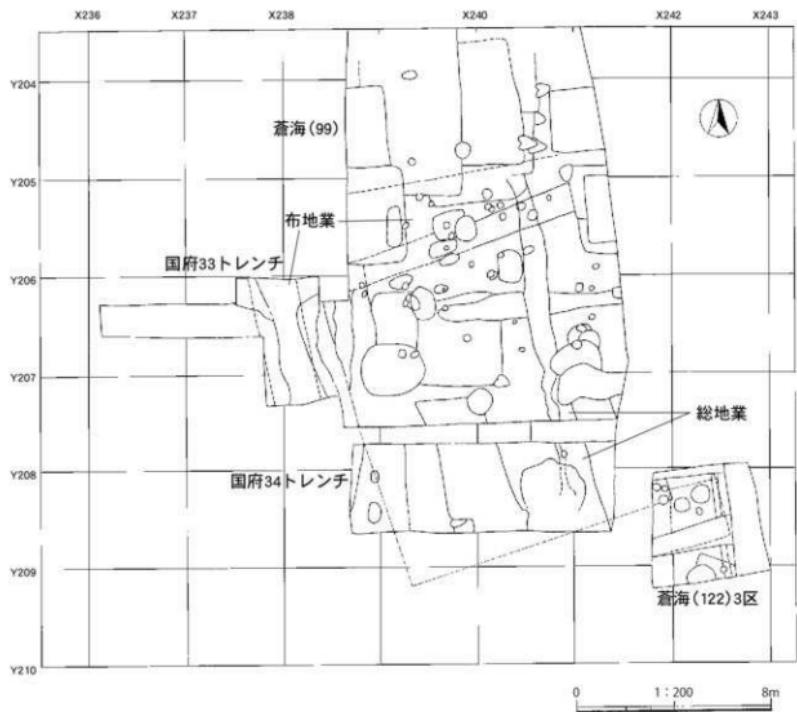
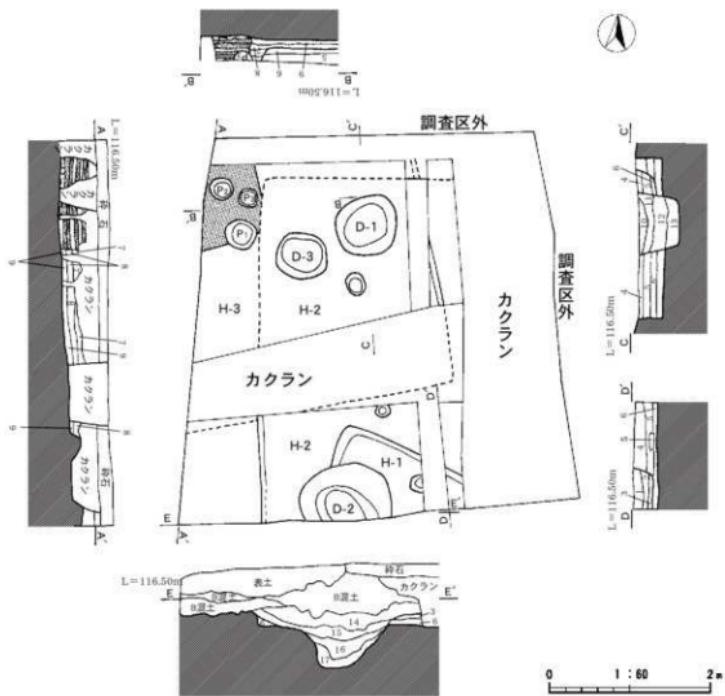


Fig. 40 3区 1号建物跡模式図



黒褐色の層	
1	暗褐色土 ○ ○ As=C10%, 硫化物弱約5% (H-1)
2	暗褐色土 ○ ○ As=C5%, 硫化物弱約7%・ブロック2% (H-1)
3	暗褐色土 ○ ○ As=C3%, 硫化物弱約7%・ブロック5% (H-1)
4	暗褐色土 ○ ○ As=C10%, 硫化物弱約3%, 固化物を少量含む (H-2)
5	暗褐色土 ○ ○ As=C5%, 硫化物弱約5%, 固化物を少量含む (H-2)
6	暗褐色土 ○ ○ As=C10%, 硫化物弱約5%・ブロック2% (H-2)
7	暗褐色土 ○ ○ As=C10%, 硫化物弱約5%, 固化物を少量含む (H-3)
8	暗褐色土 ○ ○ As=C5%, 硫化物弱約10%・ブロック3%, 固化物を少量含む (H-3)
9	暗褐色土 ○ ○ As=C2%, 前述と同様な特徴・硝子灰・H-2と同様 (H-1)
10	暗褐色土 ○ ○ As=C3%, 硫化物弱約3%, 固化物を少量含む (D-1)
11	暗褐色土 ○ ○ ○ As=C3%, 硫化物弱約3%, 固化物を少量含む (D-1)
12	暗褐色土 ○ ○ ○ As=C1%, 硫化物弱約2%を含まない (D-1)
13	暗褐色土 ○ ○ ○ 通常色糞を少量含む (D-1)
14	暗褐色土 ○ ○ ○ As=C10%, 硫化物弱約5%, 固化物を少量含む (W-1)
15	褐褐色土 ○ ○ ○ As=B10%, As=C5%, 硫化物弱約・ブロック10% (W-1)
16	褐褐色土 ○ ○ ○ As=B5%, As=C1%, 硫化物弱約3% (W-1)
17	褐褐色土 ○ ○ ○ 硫化物弱約5%・ブロック30% (W-1)

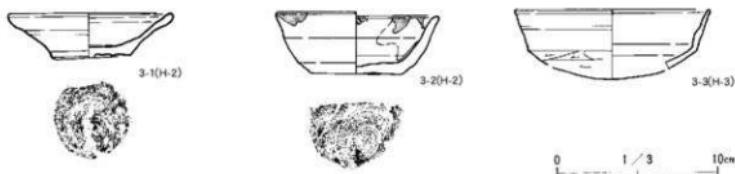


Fig. 41 3区H-1～3号住居跡、建物跡、D-1～3号土坑、P-1～3号ピット出土遺物(1)

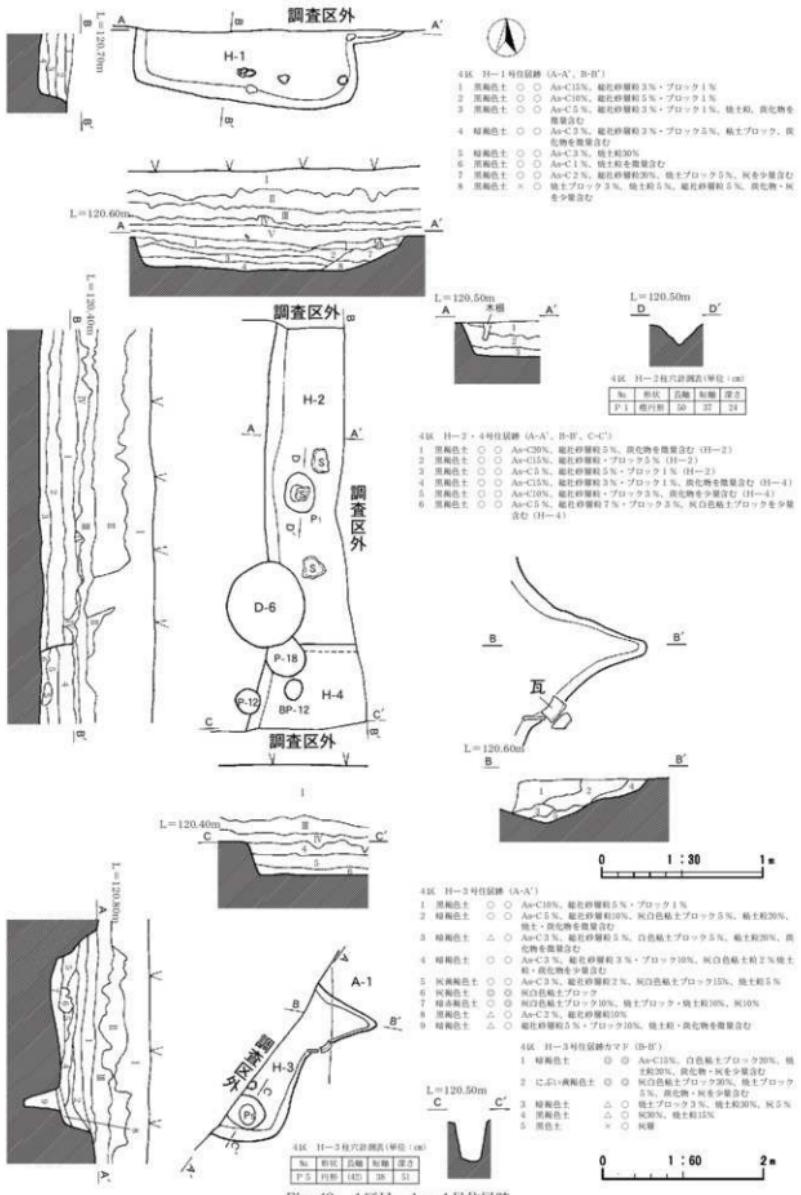


Fig. 42 4区H-1~4号住居跡

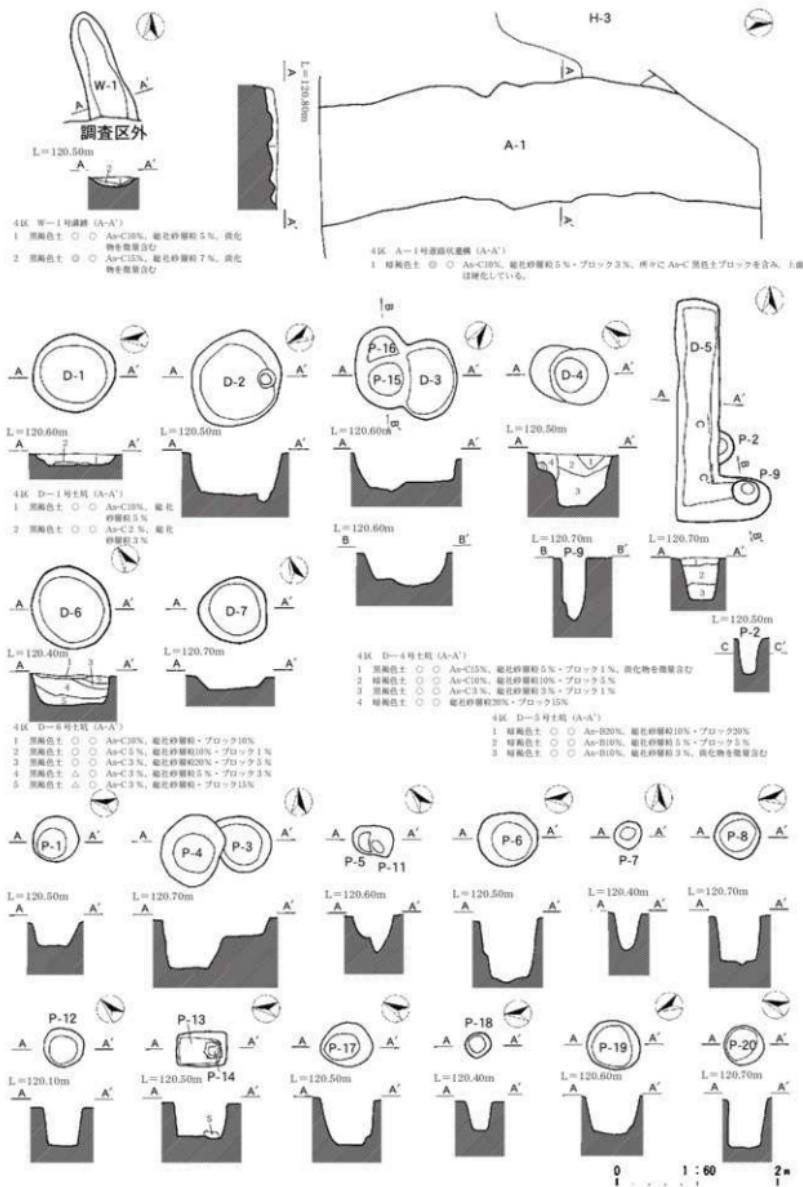


Fig. 43 4区W-1号溝路、A-1号道路状遺構、D-1~7号土坑、P-1~20号ビット

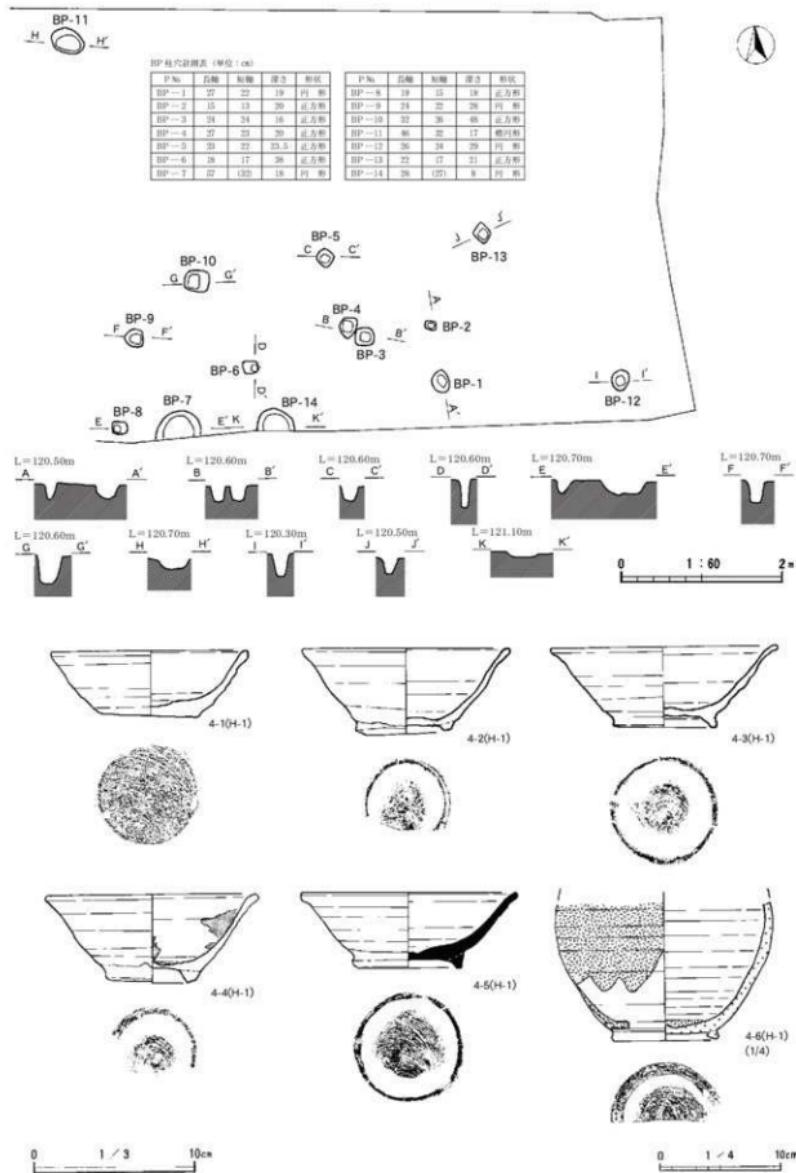
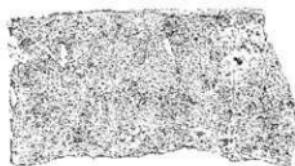
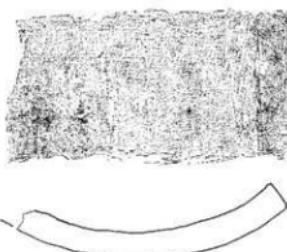
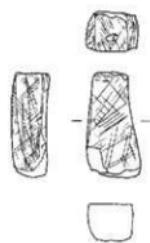
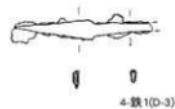
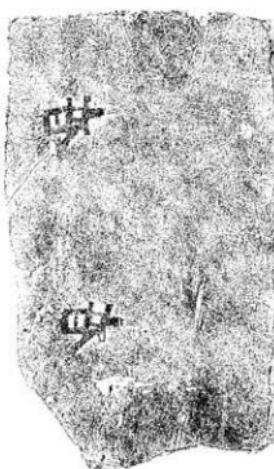
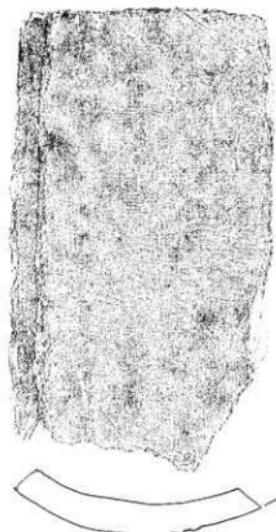
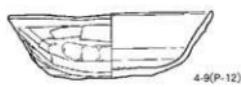
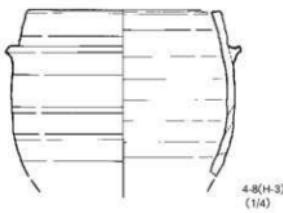
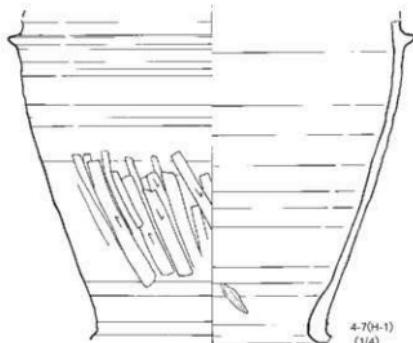


Fig. 44 4区 BP-1 ~14号ビット、出土遺物(1)



0 1 / 4 10cm 0 1 / 3 10cm

Fig. 45 4区出土遺物(2)

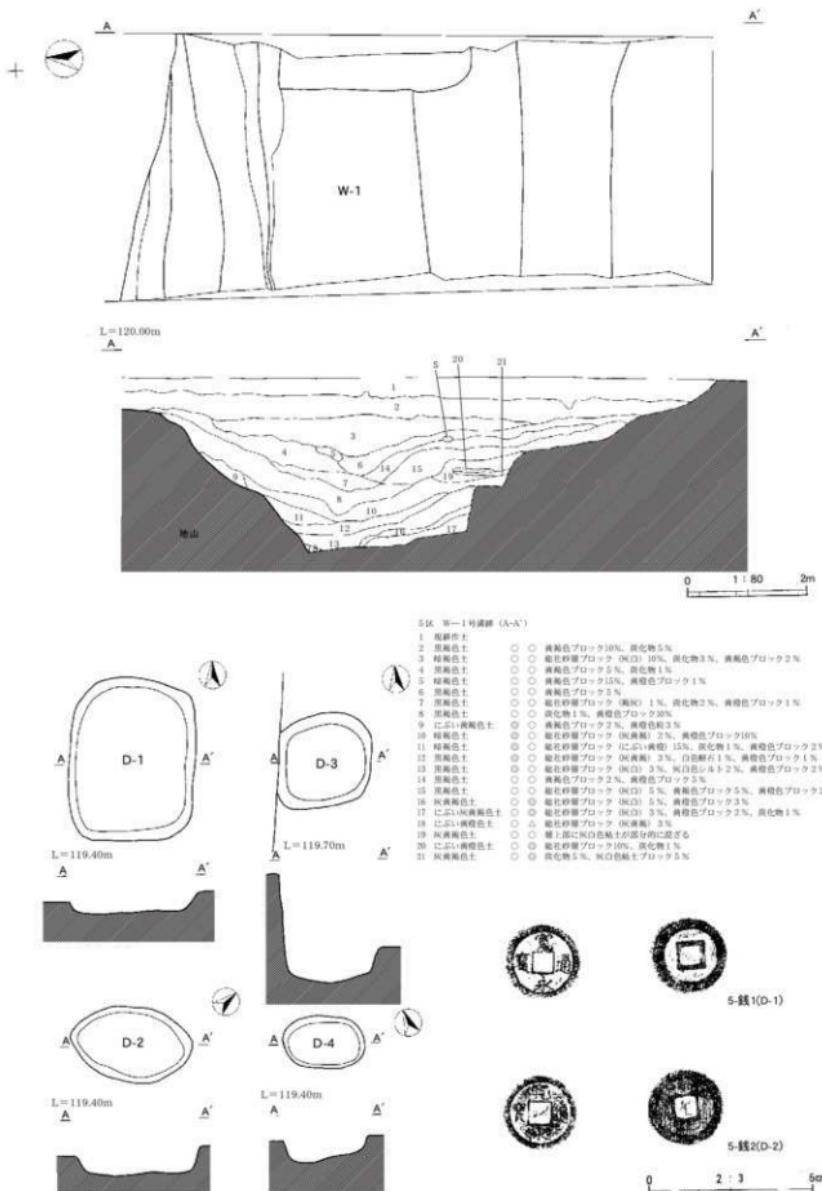


Fig. 46 5区W-1号溝跡, D-1 ~ 4号土坑、出土遺物(1)

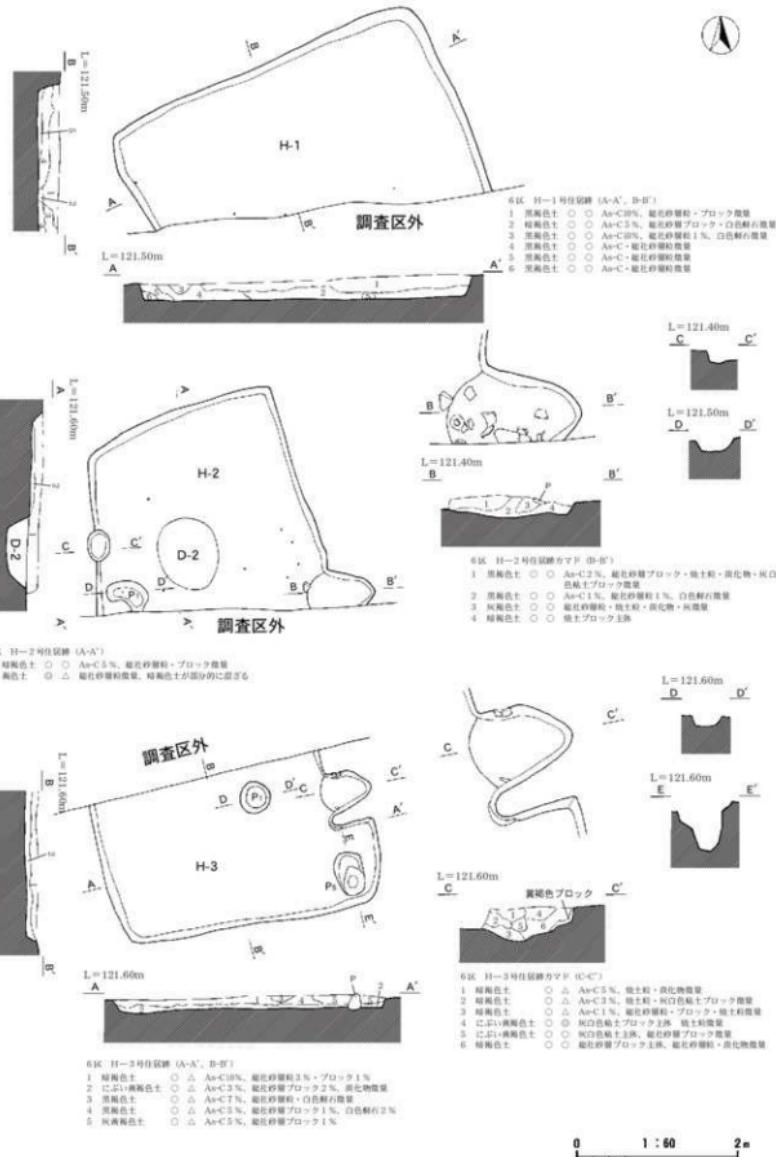


Fig. 47 6区H-1~3号住居跡

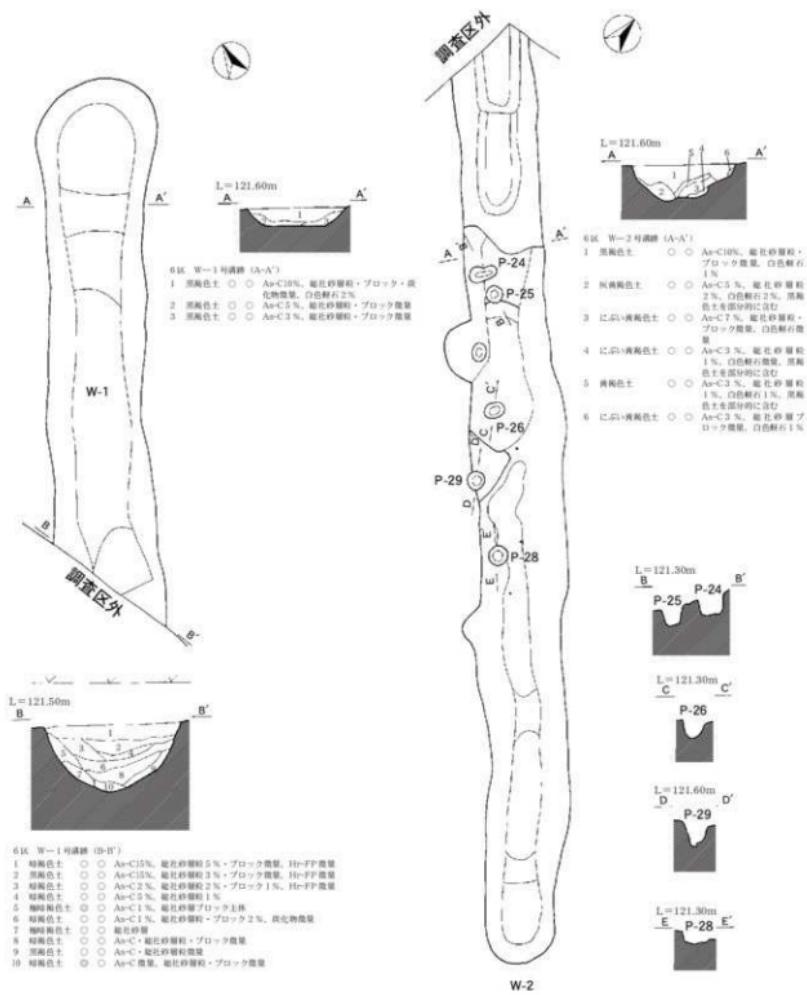


Fig. 48 6区W-1・2号溝跡 P-24・25・27・28号ピット

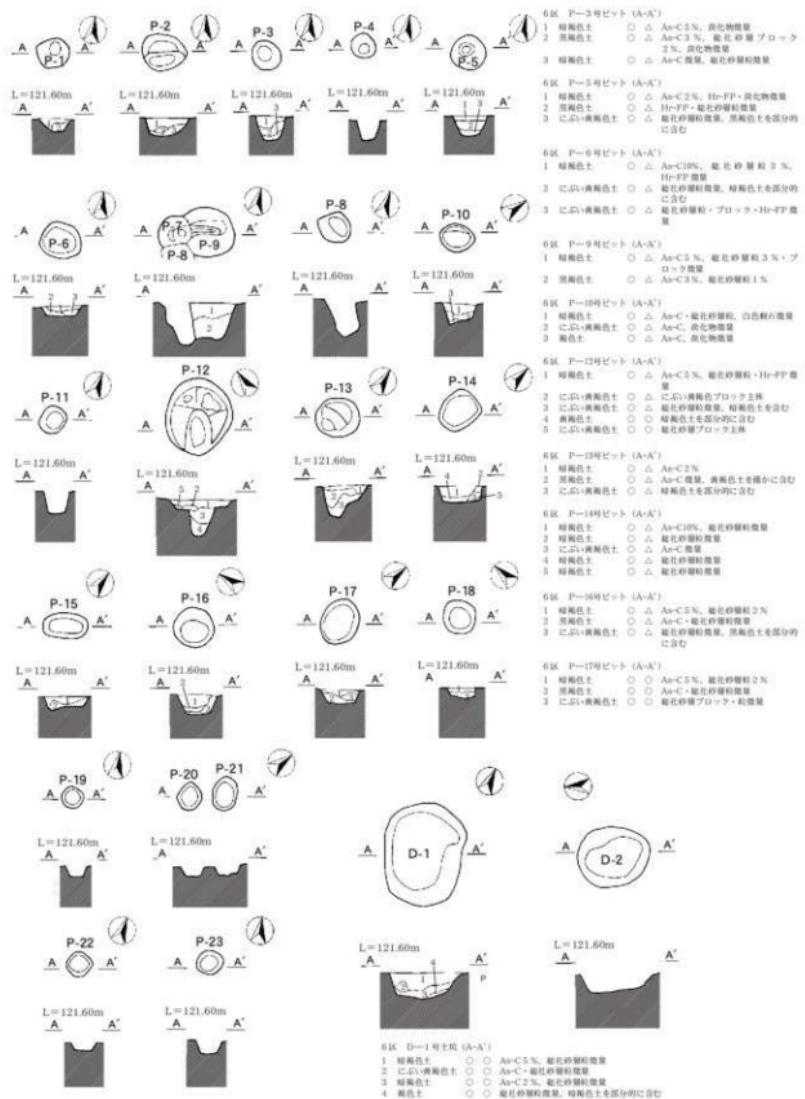


Fig. 49 6区P=1≈23号ビット、D=1:2号土境

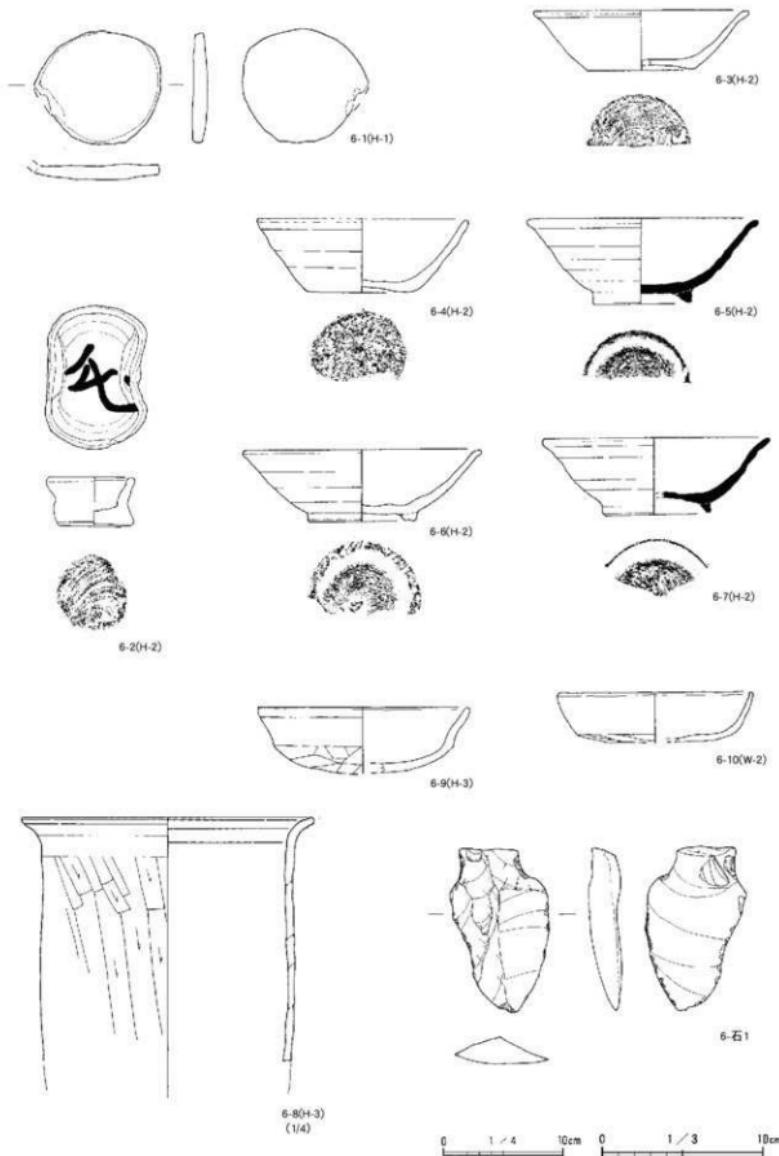


Fig. 50 6区出土遺物(1)

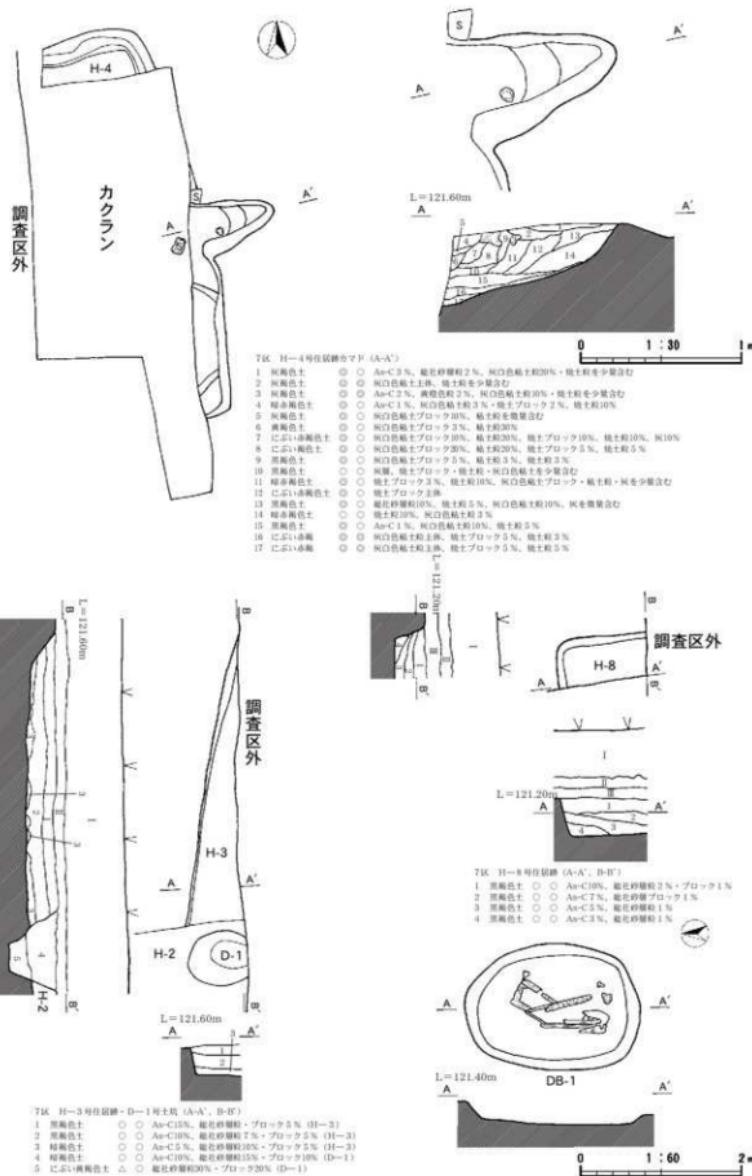


Fig. 52 7区H-3・4・8号住居跡, D-1号土坑, DB-1号土坑墓

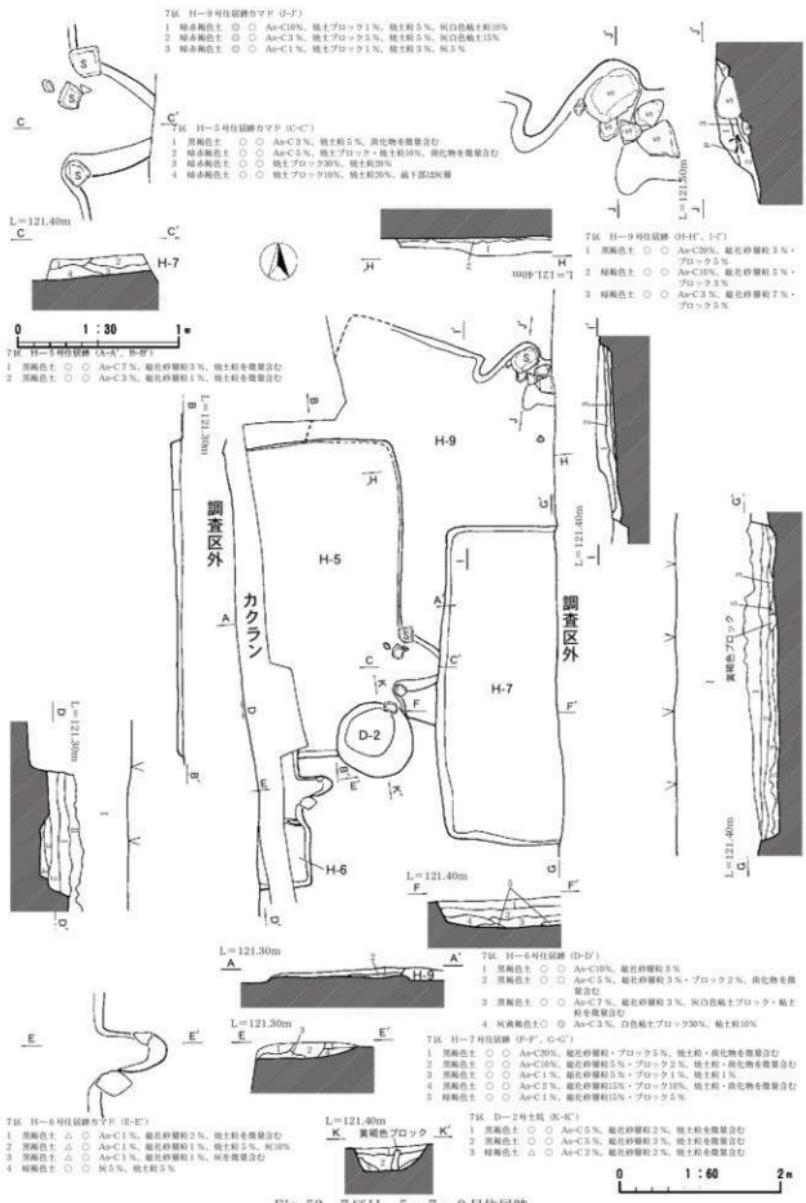


Fig. 53 7区H-5～7・9号住居跡

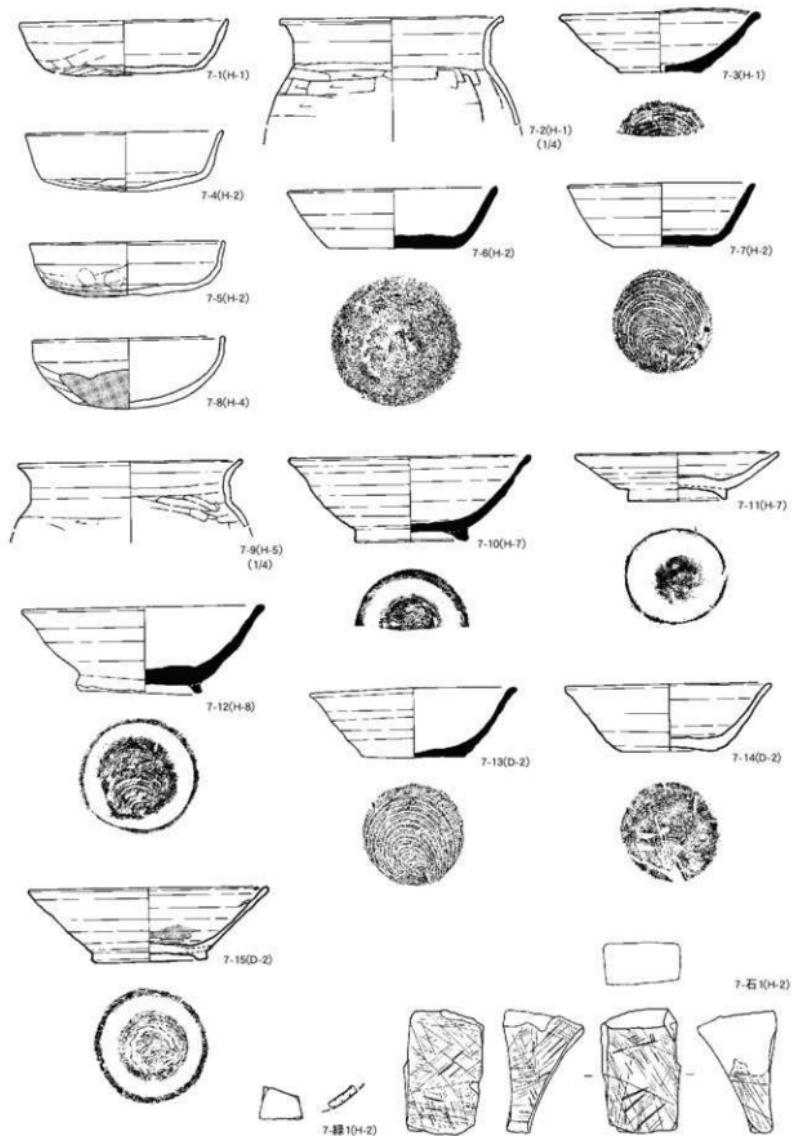


Fig. 54 7区出土遺物(I)

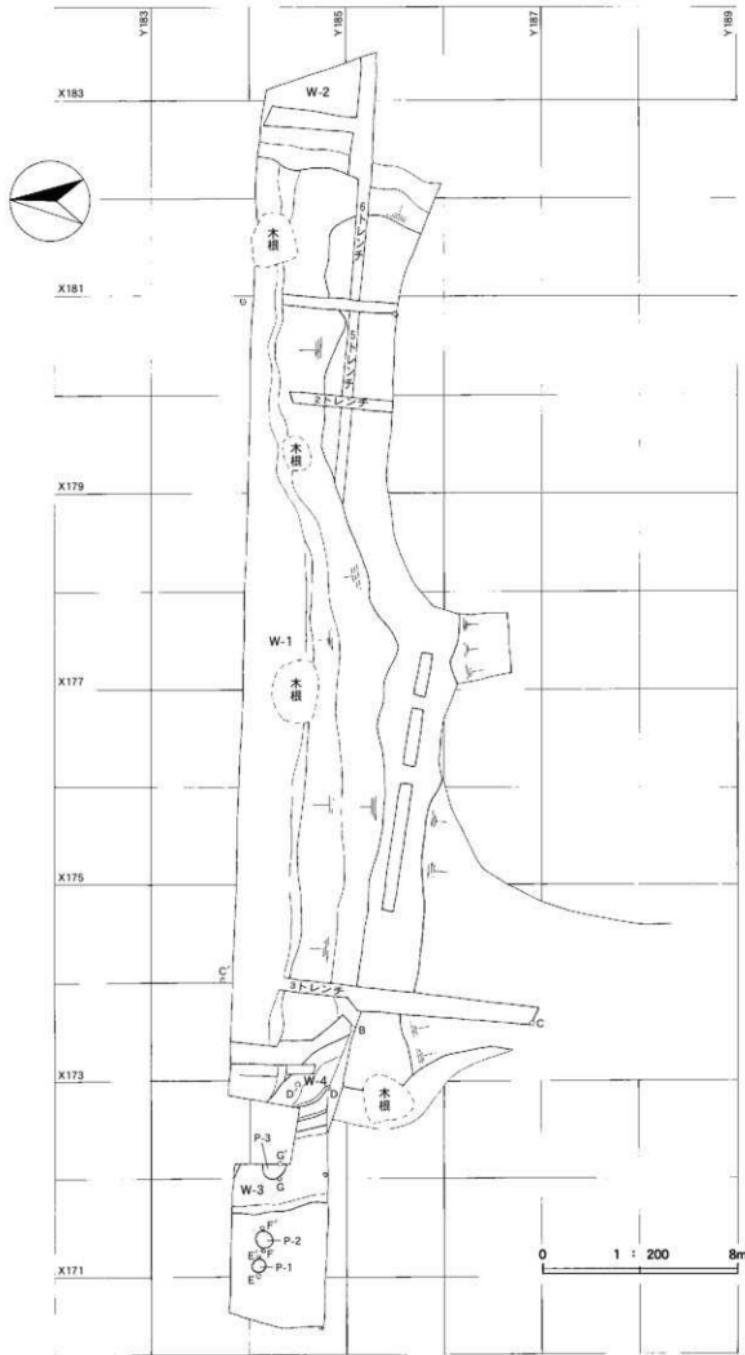


Fig. 55 元総社消防署跡地 (122) 8区全体図

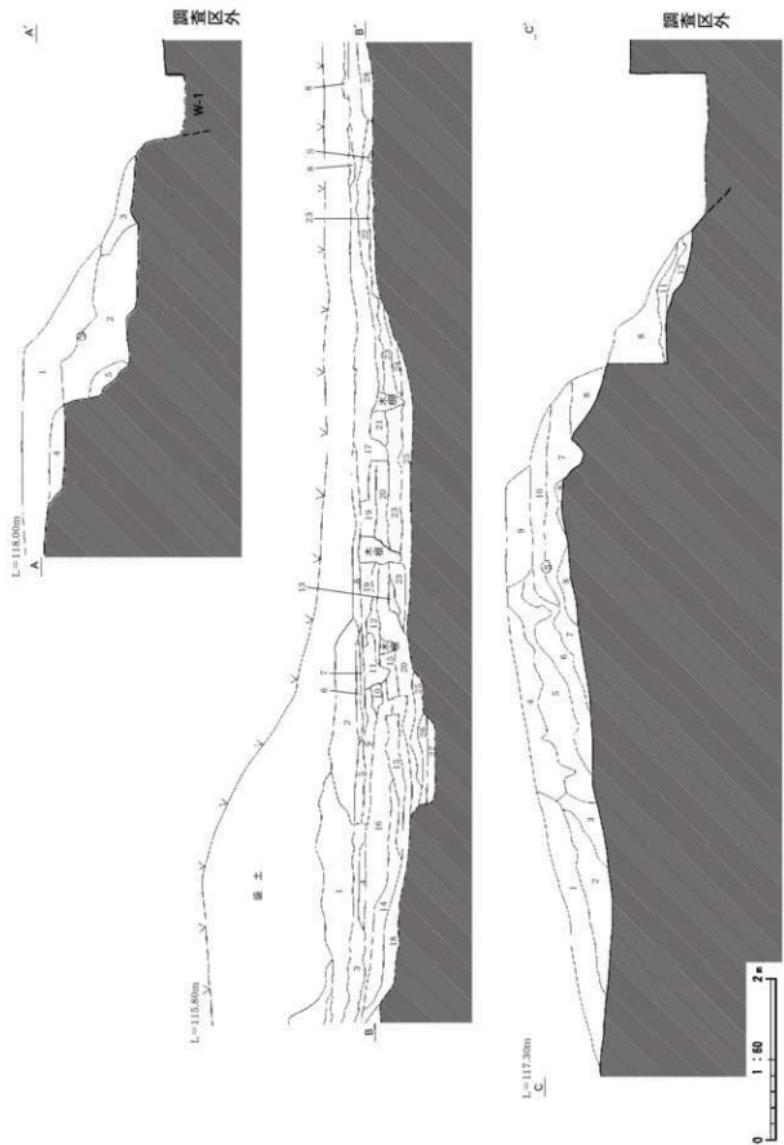


Fig. 56 8区1号トレンチ西壁、土壌南壁、3号トレンチ西壁セクション

- 8区 1号坑(南) (A-A')
- 1 線土 (褐色砂質ブロック) (K(黄褐色)) 黒褐色ブロックが混在する
 - 2 黑褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 残量、黄褐色ブロック5%
 - 3 鹽褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 1%、白色砂質残量、白色砂質
 - 4 鹽褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 残量、白色砂質5%、黒褐色ブロック残量
 - 5 黑褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 10%、黒褐色ブロック・塗化物微量
- 8区 土面層(北) (B-B')
- 1 にじる黒褐色土 ○ ○ Ar-C 5%、黒褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 2%、黒褐色ブロック微量
 - 2 にじる黒褐色土 ○ ○ Ar-C 5%、黒褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 2%、塗化物微量
 - 3 黑褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 10%、黒褐色ブロック・塗化物微量
- 4 にじる黒褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 7%、黄褐色ブロック2%、黒褐色ブロック微量
 - 5 黑褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 20%、黄褐色ブロック2%、黄褐色アプローチ1%
 - 6 黑褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 2%、黒褐色ブロック1%、白色砂質3%
 - 7 黑褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 1%、塗化物微量、黒褐色ブロック微量
 - 8 黑褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 残量、黒褐色ブロック1%、黒褐色ブロック微量
 - 9 黑褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 残量、塗化物微量
 - 10 黑褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色))、黒褐色ブロック微量
 - 11 黑褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 1%、白色砂質・塗化物微量
 - 12 黑褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 1%、白色砂質2%
 - 13 黑褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック微量、黒褐色ブロック2%、白色砂質1%
- 8区 3号坑(南) (C-C')
- 1 にじる黒褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 2%、黄褐色ブロック1%、黒褐色ブロック微量
 - 2 にじる黒褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 3%、黒褐色ブロック微量、白色砂質2%
 - 3 鹽褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 3%、白色砂質2%
 - 4 黑褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色))、黒褐色ブロック・黒褐色ブロック微量、白色砂質5%
 - 5 にじる黒褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 20%、黒褐色ブロック微量、黒褐色ブロック2%
 - 6 にじる黒褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 2%、黒褐色ブロック微量、黒褐色ブロック2%
 - 7 にじる黒褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 玄土、黒褐色ブロック2%、黒褐色ブロック微量
 - 8 鹽褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 5%、Ar-C 2%、白色砂質微量
 - 9 鹽褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 10%、黒褐色土、白色砂質・塗化物微量
 - 10 黑褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 1%、黒褐色土、白色砂質微量
 - 11 黑褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 1%、黒褐色土、白色砂質微量
 - 12 黑褐色土 ○ ○ Ar-C 3%、Ar-Si 2%、黒褐色ブロック微量
- 8区 W-4号溝跡 (D-D')
- 1 黑褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 1%、黄褐色ブロック微量
 - 2 黑褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 3%、塗化物微量、黒褐色ブロック2%
 - 3 黑褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 3%、白色砂質2%
- 8区 P-1号ビット (E-E')
- 1 黑褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 1%、Ar-C 微量
 - 2 黑褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 玄土
 - 3 黑褐色土 ○ ○ 褐色砂質ブロック (K(黄褐色)) 5%
- 8区 P-2号ビット (F-F')
- 8区 P-3号ビット (G-G')
-

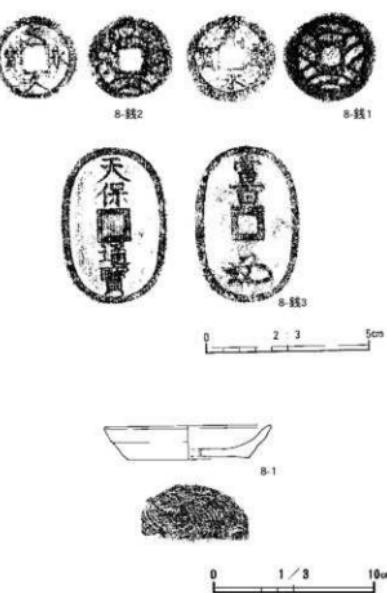


Fig. 57 8区W-4号溝跡、P-1～3号ビット、出土遺物(1)

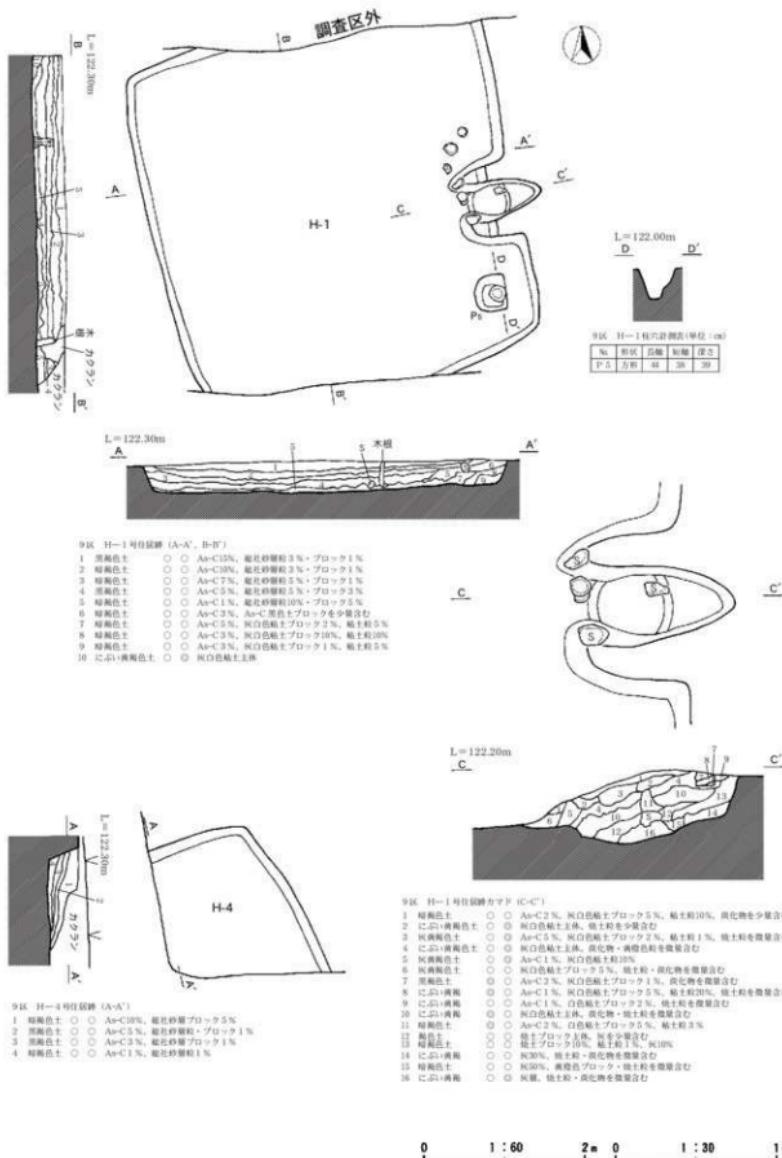
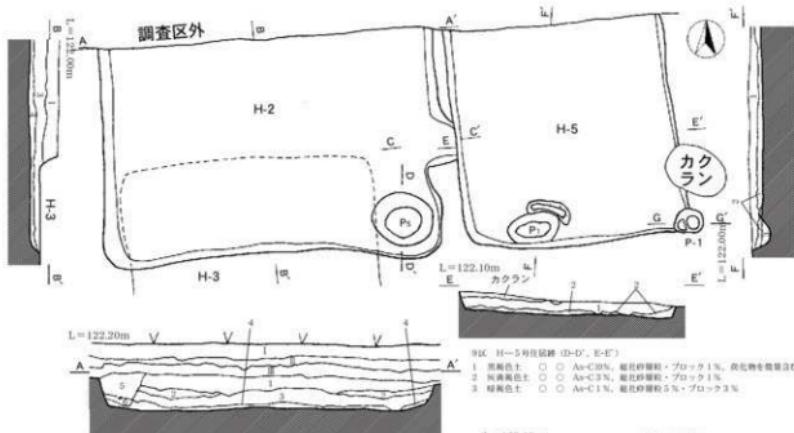


Fig. 58 9区H-1・4号住居跡



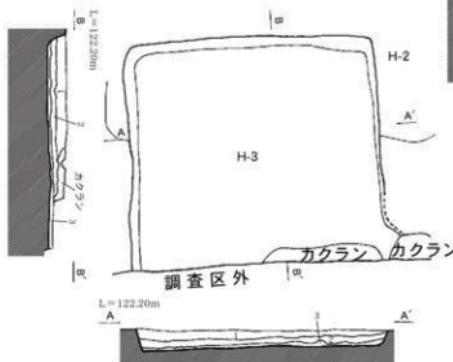
9区 H-2号住居跡 (A-A', B-B')

- 1 黑褐色土 ○ ○ As-C5%, 錫鉱物質1%, 水化物を微量含む
- 2 黑褐色土 ○ ○ As-C5%, 錫鉱物質1%, 水化物を微量含む
- 3 黑褐色土 ○ ○ As-C5%, 錫鉱物質1%, ブロック1%, 水化物を微量含む
- 4 黑褐色土 ○ ○ As-C5%, 錫鉱物質1%, ブロック1%, 水化物を微量含む
- 5 にじみ黒褐色土 ○ ○ As-C5%, 錫鉱物質1%, ブロック1%, 水化物を微量含む
- 6 黑褐色土 ○ ○ As-C2%, 錫鉱物質ブロック2%, 水化物を微量含む



9区 H-3号住居跡 (C-C')

- 1 黑褐色土 △ 水白色粘土ブロック10%, 粘土粒5%, 砂土粒23%, 粘土粒1%, 水化物を微量含む
- 2 黑褐色土 △ 粘土粒5%, 粘土粒10%, 砂5%, 水化物を微量含む
- 3 にじみ黒褐色土 ○ ○ 粘土粒10%, 砂土粒5%, 水化物を微量含む
- 4 粘赤土 ○ ○ 水化物質80%, 砂土粒を少含む

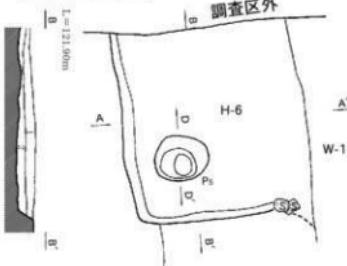


9区 H-3号住居跡 (A-A', B-B')

- 1 黑褐色土 ○ ○ As-C5%, 錫鉱物質1%, ブロック1%
- 2 黑褐色土 ○ ○ As-C2%, 錫鉱物質1%, 水化物を微量含む
- 3 黑褐色土 ○ ○ As-C1%, 錫鉱物質1%, ブロック1%



9区 H-6号住居跡 (D-D', G-G')



- 1 黑褐色土 ○ ○ As-C10%, 錫鉱物質10%, 砂土粒, 水化物を微量含む
- 2 黑褐色土 ○ ○ As-C5%, 錫鉱物質3%, ブロック1%, 砂土粒, 水化物を微量含む

9区 H-6号住居跡 (A-A', B-B')

- | % | 砂粒 | 石砾 | 粘土 | 漂砂 |
|----|----|----|----|----|
| P5 | 40 | 67 | 64 | 41 |

9区 H-6号住居跡 (A-A', B-B')

- | % | 砂粒 | 石砾 | 粘土 | 漂砂 |
|----|----|----|----|----|
| P5 | 40 | 67 | 64 | 41 |

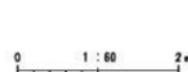
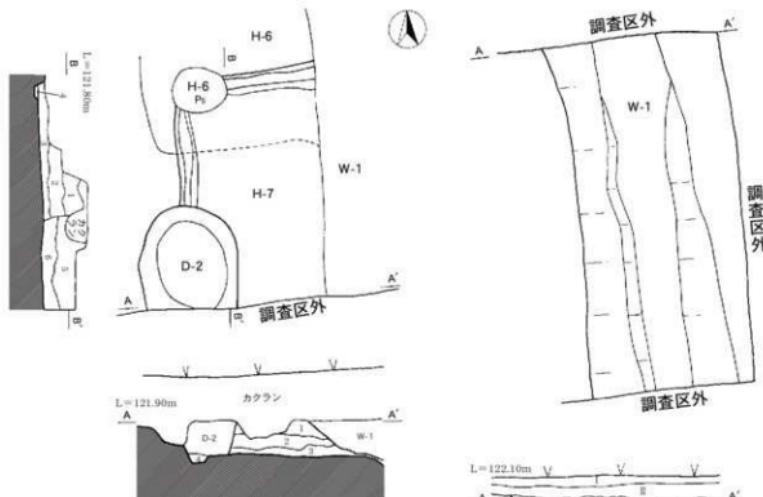
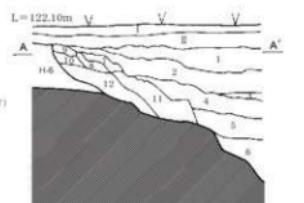


Fig. 59 9区H-2・3・5・6号住居跡



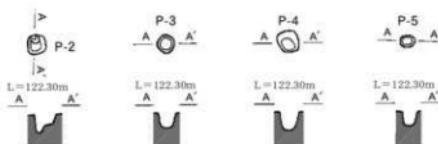
9区 H—7号住居跡、D—2号土坑 (A-A', B-B')

- 1 黒褐色土 ○ ○ As-C7%、褐色砂質粘土3%、鐵土鉱・炭化物を微量含む (H—7)
- 2 褐褐色土 ○ ○ As-C1%、褐色砂質粘土2%、鐵土鉱・炭化物を微量含む (H—7)
- 3 黑褐色土 ○ ○ As-C2%、褐色砂質粘土3%・ブロック3%、鐵土鉱3%、褐色砂質粘土・炭化物を微量含む (H—7)
- 4 褐褐色土 △ ○ As-C1%、褐色砂質粘土15%・ブロック20% (H—7)
- 5 黑褐色土 ○ ○ As-C5%、褐色砂質粘土・ブロックを微量含む (D—2)
- 6 黑褐色土 ○ ○ As-C2%、褐色砂質粘土を微量含む (D—2)



9区 W—1号溝跡 (A-A')

- 1 黒褐色土 ○ △ As-630%、As-C5%、褐色砂質粘土・ブロックを微量含む
- 2 じく(黄褐色土) ○ △ As-690%、As-C7%、褐色砂質粘土・ブロック・炭化物を微量含む
- 3 黑褐色土 ○ ○ As-630%、As-C5%、褐色砂質粘土・炭化物を微量含む
- 4 黑褐色土 ○ ○ As-630%、As-C2%、褐色砂質粘土・炭化物を微量含む
- 5 褐褐色土 ○ ○ As-630%、As-C2%、褐色砂質粘土を微量含む
- 6 黑褐色土 ○ ○ As-615%、As-C1%、褐色砂質ブロック・粘・炭化物を微量含む
- 7 じく(黄褐色土) ○ ○ As-640%、As-C5%、褐色砂質ブロック・粘・炭化物を微量含む
- 8 黑褐色土 ○ ○ As-650%、As-C5%、褐色砂質粘土・炭化物を微量含む
- 9 黑褐色土 ○ ○ As-650%、As-C3%、褐色砂質粘土・炭化物を微量含む
- 10 じく(黄褐色土) ○ ○ As-640%、As-C5%、褐色砂質粘土・炭化物を微量含む
- 11 黑褐色土 ○ ○ As-630%、As-C3%、褐色砂質粘土・炭化物を微量含む
- 12 緑褐色土 ○ ○ As-615%、As-C5%、褐色砂質粘土・炭化物を微量含む



0 1:60 2m

Fig. 60 9区 H—7号住居跡、W—1号溝跡、D—1・2号土坑、P—2～5号ビット

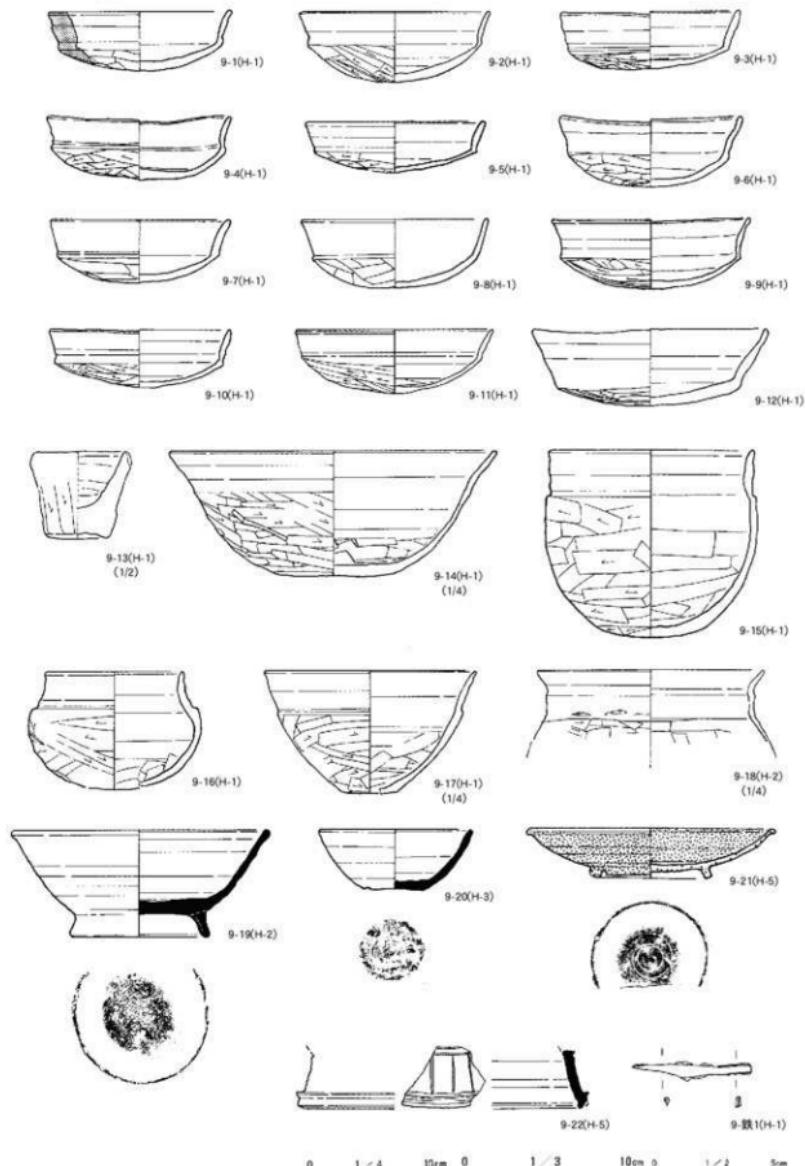


Fig. 61 9区出土遺物(1)

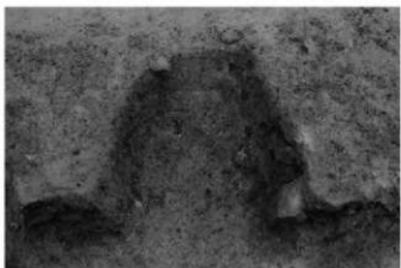
図 版



I区 H-1号住居跡全景（西から）



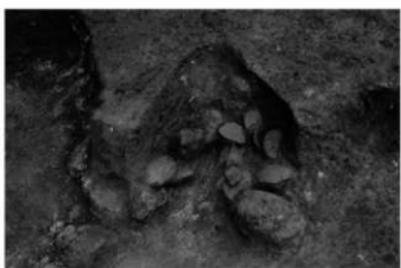
I区 H-1号住居跡遺物出土状況（西から）



I区 H-1号住居跡全景（西から）



I区 H-2号住居跡全景（西から）



I区 H-2号住居跡遺物出土状況（西から）



I区 H-2号住居跡全景（西から）



I区 H-3号住居跡全景（西から）



I区 H-5号住居跡全景（南から）



I区 H-5号住居跡遺全景（南から）



I区 H-6号住居跡遺物出土状況（西から）



I区 H-6号住居跡遺全景（西から）



I区 H-8号住居跡遺全景（北から）



I区 H-9号住居跡遺全景（西から）



I区 H-9号住居跡馬具出土状況（南から）



I区 H-9号住居跡遺全景（西から）



I区 H-10号住居跡遺全景（西から）



1区 H-11号住居跡全景（西から）



1区 H-11号住居跡遺全景（西から）



1区 H-12号住居跡全景（西から）



1区 H-12号住居跡遺全景（西から）



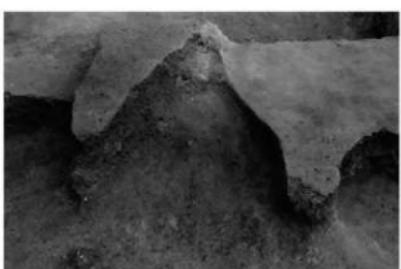
1区 H-13号住居跡全景（西から）



1区 H-16号住居跡全景（西から）



1区 H-17号住居跡全景（西から）



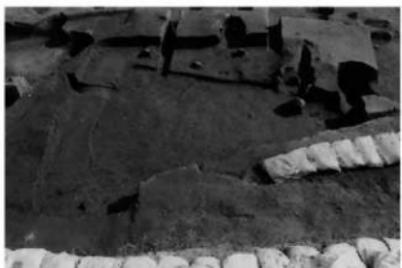
1区 H-17号住居跡遺全景（西から）



1区 H-18号住居跡全景（西から）



1区 H-18号住居跡竪全景（西から）



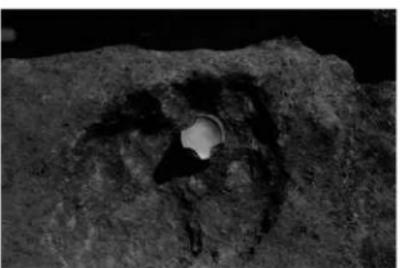
1区 H-19号住居跡全景（西から）



1区 H-19号住居跡竪全景（西から）



1区 T-2号竪穴状遺構全景（西から）



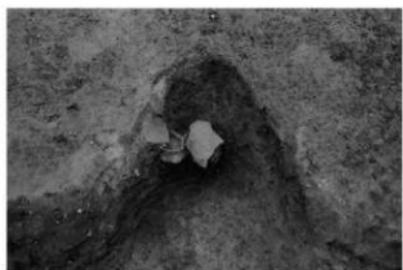
1区 P-1号ピット内縁軸陶器出土状況（北から）



2区 H-1号住居跡全景（西から）



2区 H-2号住居跡・I-1号井戸跡全景（西から）



2区 H-2号住居跡遺全景（西から）



2区 H-3・15号住居跡遺全景（南から）



2区 H-4号住居跡・D-11号土坑全景（西から）



2区 H-4号住居跡遺全景（西から）



2区 H-5号住居跡全景（西から）



2区 H-5号住居跡遺物出土状況（西から）



2区 H-9・10・11号住居跡全景（北から）



2区 H-12号住居跡全景（西から）



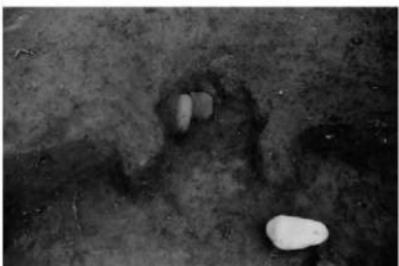
2区 H-12号住居跡遺物出土状況（西から）



2区 H-12号住居跡遺物出土状況（西から）



2区 H-13・14号住居跡全景（西から）



2区 H-14号住居跡全景（西から）



2区 H-16号住居跡全景（東から）



2区 H-18号住居跡全景（東から）



2区 H-18号住居跡遺物出土状況（東から）



2区 H-19号住居跡全景（北から）



2区 H-22号住居跡全景（西から）



2区 H-23号住居跡全景（西から）



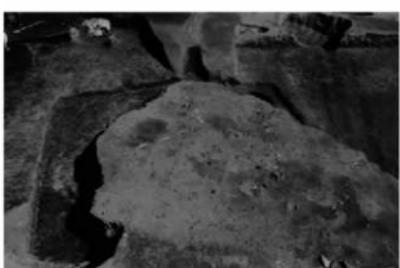
2区 H-24号住居跡全景（西から）



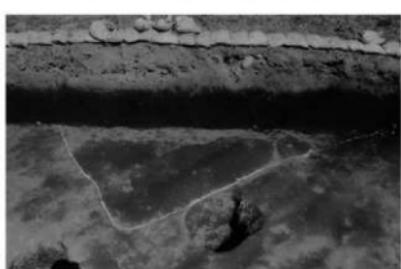
2区 H-25号住居跡全景（北西から）



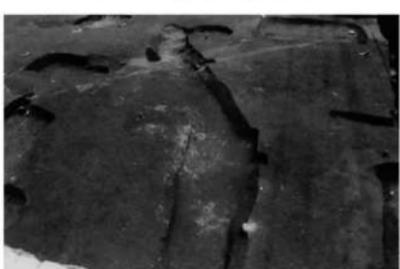
2区 H-26号住居跡全景（西から）



2区 H-27号住居跡全景（西から）



2区 H-29号住居跡全景（西から）



2区 W-1号溝跡全景（西から）



4区 椰査区全景（東から）



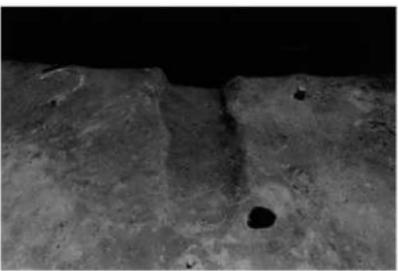
4区 H-1号住居跡全景（西から）



4区 H-2・4号住居跡全景（西から）



4区 H-3号住居跡全景（北東から）



4区 W-1号溝跡全景（北から）



5区 椰査区全景（南から）



5区 W-1号溝跡近景（南から）



5区 W-1号溝跡近景（南から）



5区 椰査区全景（北から）



5区 W-1号溝跡東壁（西から）



6区 調査区全景（南東から）



6区 H-1号住居跡全景（北東から）



6区 H-2号住居跡全景（西から）



6区 H-2号住居跡遺物出土状況（西から）



6区 H-3号住居跡全景（西から）



6区 W-1号溝跡全景（北東から）



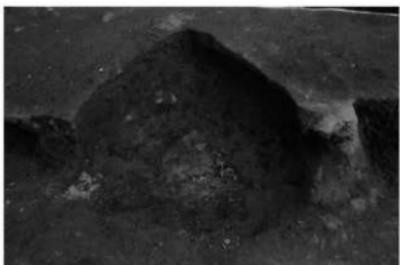
6区 W-2号溝跡全景（北西から）



7区 調査区全景（北から）



7区 H-1号住居跡全景（西から）



7区 H-1号住居跡竪全景（西から）



7区 H-2号住居跡全景（西から）



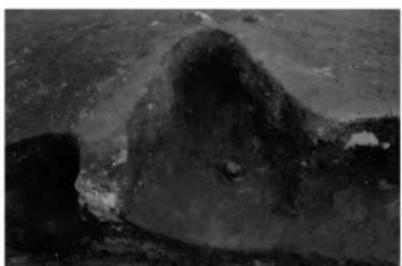
7区 H-2号住居跡全景（西から）



7区 H-3号住居跡全景（南から）



7区 H-4号住居跡全景（西から）



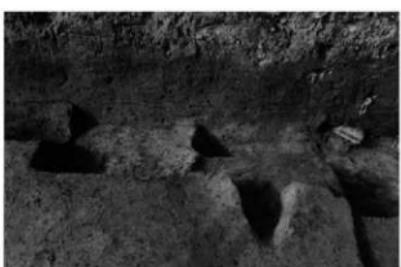
7区 H-4号住居跡全景（西から）



7区 H-5号住居跡全景（西から）



7区 H-5号住居跡全景（西から）



7区 H-6号住居跡全景（東から）



7区 H-6号住居跡全景（西から）



7区 H-7号住居跡全景（西から）



7区 H-8号住居跡全景（北から）



7区 H-9号住居跡全景（南西から）



8区 調査区全景（東から）



8区 W-1号溝・土堤近景（北東から）



8区 土堤東端部近景（北から）



8区 土堤東端部・W-2号溝近景（北から）



8区 土堤西端部南壁（北から）



8区 W-3・4号溝跡全景（南東から）



8区 W-4号溝近景（西から）



8区 W-4号溝全景（東から）



8区 土堤南斜面近景（南から）



9区 調査区全景（西から）



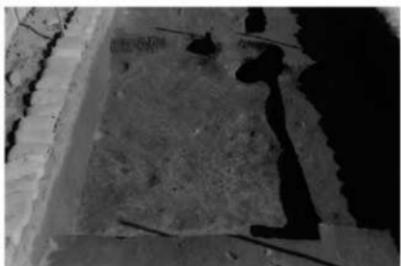
9区 調査区全景（東から）



9区 H-1号住居跡全景（西から）



9区 H-1号住居跡遺物全景（西から）



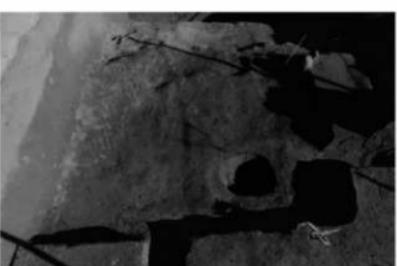
9区 H-2号住居跡全景（西から）



9区 H-3号住居跡全景（西から）



9区 H-5号住居跡全景（西から）



9区 H-6号住居跡全景（西から）



9区 H-7号住居跡全景（西から）



9区 W-1号溝跡全景（南から）

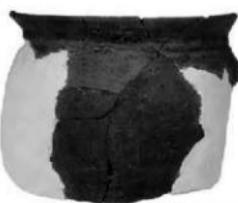




I-19 (H-6)



I-20 (H-8)



I-26 (H-9)



I-22 (H-9)



I-21 (H-8)



I-23 (H-9)



I-24 (H-9)



I-25 (H-9)



I-27 (H-9)



I-28 (H-9)



I-30 (H-11)



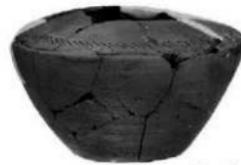
I-31 (H-11)



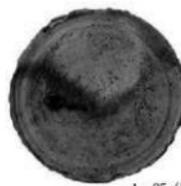
I-32 (H-11)



I-33 (H-11)



I-34 (H-11)



I-35 (H-11)



I-36 (H-12)



I-37 (H-13)



I-38 (H-13)



I-39 (H-13)



I-40 (H-13)



I-41 (H-13)



I-42 (H-13)



I-43 (H-13)



I-44 (H-16)



I-45 (H-17)



I-46 (H-17)



I-47 (H-18)



I-48 (H-18)



I-51 (H-18)



I-52 (H-18)



I-53 (H-19)



I-54 (H-19)



I-55 (H-19)



I-56 (H-10)



I-57 (H-19)



I-58 (T-2)



1-59 (T-2)



1-61 (T-2)



1-60 (T-2)



1-62 (D-5)



2-1 (H-1)



2-3 (H-4)



2-2 (H-3)



2-4 (H-5)



2-5 (H-7)



2-6 (D-14)



2-7 (H-10)



2-8 (H-10)



2-9 (H-10)



2-10 (H-11)



2-11 (H-11)



2-12 (H-12)



2-14 (H-12)



2-13 (H-12)

2-20 (H-14)



2-15 (H-12)



2-16 (H-12)



2-18 (H-12)



2-17 (H-12)



2-19 (H-13)



2-21 (H-17)



2-24 (H-19)



2-22 (H-17)



2-25 (H-19)



2-23 (H-18)



2-26 (H-20)



2-27 (H-20)



2-34 (H-21)



2-31 (H-21)



2-28 (H-21)



2-29 (H-21)



2-30 (H-21)



2-32 (H-21)



2-33 (H-21)



2-35 (H-22)



2-36 (H-23)



2-37 (H-23)



2-39 (H-23)



2-40 (H-23)



2-38 (H-23)



2-41 (H-25)



2-42 (H-25)



2-43 (H-26)



2-61 (X92 Y255)



2-44 (W-1)



2-45 (D-2)



2-56 (X89 Y252)



2-46 (D-13)



2-47 (D-14)



2-48 (D-14)



2-49 (D-14)



2-57 (X90 Y255)



2-50 (D-14)



2-60 (X92 Y252)



2-59 (X91 Y253)



2-58 (X90 Y255)



2-51 (D-14)



2-55 (H-24)



2-53 (H-19)



2-52 (D-14)



2-62 (X93 Y255)



2-54 (H-19)



3-1 (H-2)



3-2 (H-2)



3-3 (H-3)



4-1 (H-1)



4-2 (H-1)



4-3 (H-1)



4-4 (H-1)



4-5 (H-1)



4 - 7 (H - 1)



4 - 8 (H - 3)



4 - 9 (P - 12)



4 - 6 (H - 1)



6 - 1 (H - 1)



6 - 2 (H - 2)



6 - 3 (H - 2)



6 - 4 (H - 2)



6 - 5 (H - 2)



6 - 6 (H - 2)



6 - 7 (H - 2)



6 - 8 (H - 3)



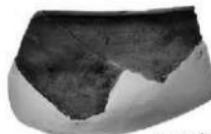
6 - 9 (H - 3)



6 - 10 (W - 2)



7-1 (H-1)



7-2 (H-1)



7-3 (H-1)



7-4 (H-2)



7-5 (H-2)



7-6 (H-2)



7-7 (H-2)



7-8 (H-4)



7-10 (H-7)



7-11 (H-7)



7-12 (H-8)



7-13 (D-2)



7-14 (D-2)



7-15 (D-2)



8-1 (H-1)



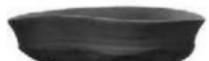
9-1 (H-1)



9-2 (H-1)



9-3 (H-1)



9-4 (H-1)



9-5 (H-1)



9-6 (H-1)



9-7 (H-1)

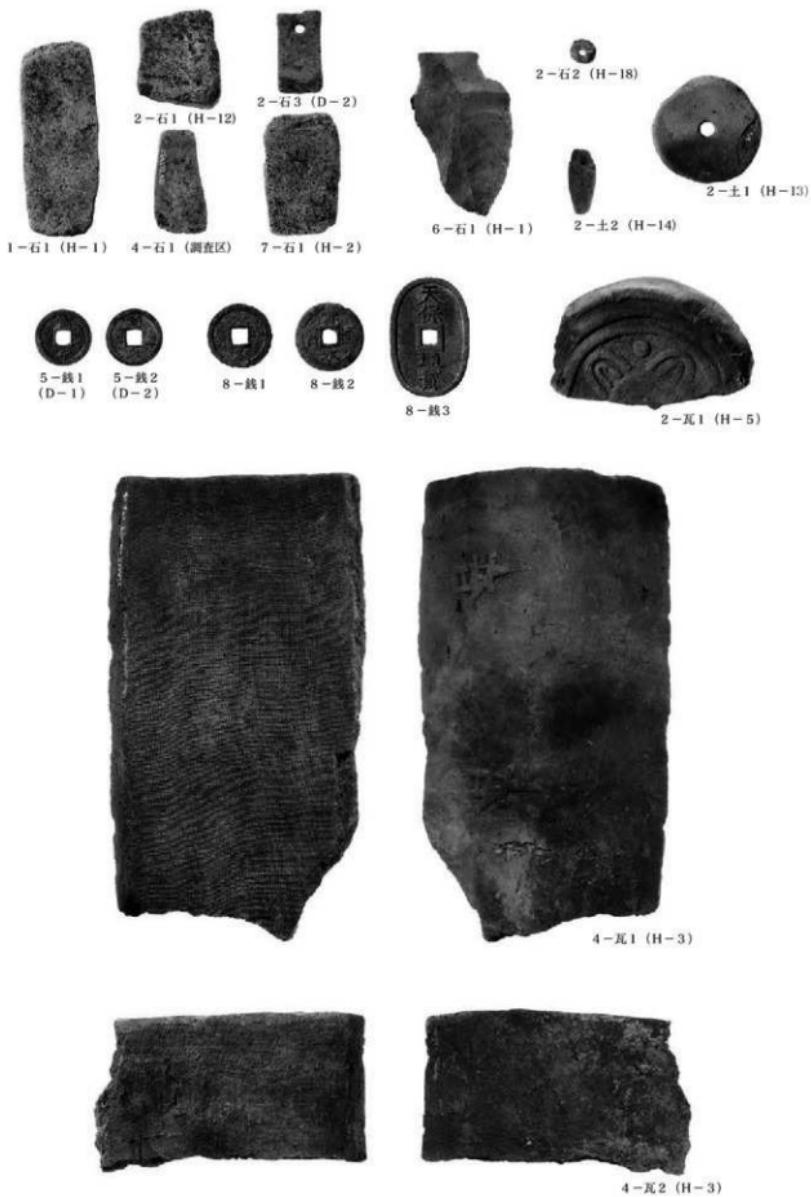


9-8 (H-1)



9-9 (H-1)





抄 錄

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン (I22)					
書名	元総社蒼海遺跡群 (I22)					
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書					
巻次						
シリーズ名						
編著者名	神宮 聰・高山 剛					
編集機関	前橋市教育委員会事務局文化財保護課					
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市総社町三丁目11番地4					
発行年月日	2017年3月24日					

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
モトソウジャオウミイセキグ 群 (I22)	前橋市元総社町 3123番地2他	10201	28A227	36°23'09"	139°01'56"	20160606 20161222	3,012m ²	前橋都市計画事 業元総社蒼海土 地区画整理事業

調査区	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
1区	集落跡	古墳～平安時代	住居跡17、竪穴状遺構 2、土坑8他	土師器、須恵器、灰釉 陶器、綠釉陶器、鉄製品、石製品	10世紀の焼失住居より鉄製 馬具(轡)出土
2区	集落跡	古墳～平安時代	住居跡27、溝跡1、土 坑14他	土師器、須恵器、灰釉 陶器、鉄製品、石製品	古墳～平安時代の集落を確 認
3区	集落跡	古墳～平安時代	住居跡3、建物跡1、 土坑3他	土師器、須恵器、灰釉 陶器、鉄製品	蒼海(99)で検出した総地糞 の南東隅部を検出
4区	集落跡	平安時代	住居跡4、溝跡1、道 路状遺構1、土坑7他	土師器、須恵器、灰釉 陶器、瓦、鉄製品、石 製品	平安時代の集落を確認
5区	城跡	中世	堀跡1、土坑4他	古銭	蒼海域の堀跡を確認
6区	集落跡	古墳～平安時代	住居跡3、溝跡2、土 坑2他	土師器、須恵器、石製品	古墳～平安時代の集落を確 認
7区	集落跡	古墳～平安時代	住居跡9、土坑2、土 坑墓1	土師器、須恵器、灰釉 陶器、綠釉陶器、鉄製品、石 製品	古墳時代後期～平安時代の 集落を確認
8区	城跡	中世	堀跡3、溝跡1	かわらけ、古銭	蒼海域の土塁・堀跡を確認
9区	集落跡	古墳～平安時代、中世	住居跡7、溝跡1、土 坑2他	土師器、須恵器、灰釉 陶器、瓦、鉄製品、石 製品	古墳時代～平安時代の集落 を確認

元総社蒼海遺跡群（122）

2017年3月17日 印刷
2017年3月24日 発行

発行・編集 前橋市教育委員会
群馬県前橋市総社町三丁目11番地4
印 刷 朝日印刷工業株式会社
